

K-736

双葉町遺跡

(山形城三の丸跡)

発掘調査報告書

近世編

本文編

2004

山形市
山形市教育委員会

ふたばちょういせき
双葉町遺跡
やまがたじょうさん まるあと
(山形城三の丸跡)

発掘調査報告書

近世編

本文編

平成16年

山形市
山形市教育委員会

序

双葉町遺跡は山形県の県都である山形市の中心部に位置しています。この地は、現在市民の憩いの場として開放されている霞城公園（山形城二の丸跡）の南側に位置し、江戸時代の山形城三の丸にあたります。

発掘調査は山形駅西土地区画整理事業に伴う開発工事に先立って実施されました。

発掘調査は現在も継続しておりますが、本書は平成9年度から平成11年度にかけて行われた、東ソー株式会社山形工場跡地にあたる区域の調査成果の中で、江戸時代の山形城三の丸に関わる部分をまとめたものです。

山形市内には国指定史跡の山形城跡や嶋遺跡をはじめ、約300箇所の遺跡が確認されております。これらの遺跡は、郷土の歴史や文化を正しく理解する上で、欠くことのできない市民共有の歴史的財産となっています。

近年は、市内各所において住民福祉の向上などを目的とした各種の開発事業が増加しており、埋蔵文化財保護との調整の結果、遺跡の発掘調査に至る場合が多くなっています。また、史跡山形城跡の保存や整備を目的とした発掘調査も継続されております。これらの発掘調査によって、祖先が長い歴史のうちに育んできた貴重な文化財が、再び私たちの目に触れる機会が増えております。この文化財を大切に守り、次世代に伝えていくことは、私たちの重要な仕事であります。

本書が山形の歴史の一端を明らかにするため、また埋蔵文化財の保護と啓蒙のためのご活用いただければ幸いです。

最後になりましたが、調査にあたって埋蔵文化財の保護に特段のご理解をいただき、多大なご協力をいただきました関係各位に厚くお礼を申し上げます。

平成16年3月

山形市教育委員会
教育長 大場 登

例　　言

- 本書は、山形駅西土地区画整理事業に係る東ソーリ株式会社山形工場跡地整備事業に伴う「双葉町遺跡」の発掘調査のうち、山形城三の丸に関わる近世の部分をまとめたものである。
- 調査は、山形市都市開発部新都市拠点整備課の依頼により、山形市教育委員会文化課（平成9年度～12年度）および社会教育課（平成13年度～）が実施した。
- 調査要項は下記のとおりである。

遺跡名 双葉町遺跡（ふたばちょういせき）

所在地 山形市双葉町一丁目

遺跡番号 平成9年度登録

現地調査 平成9年10月20日～平成12年2月4日

整理作業 平成12年10月2日～平成16年3月31日

調査面積 約72,100m²

調査主体 山形市教育委員会

調査担当者	平成9年度 文化課 課長	蜂谷哲平	平成10年度 文化課 課長	富田 博
課長補佐	小林和彦		文化財課 文化財係長	會田芳男
文化財係長	江川 隆		文化財係長	江川 隆
主　事	武田和宏		主　事	武田和宏
臨時職員	齋藤 仁		主　事	齋藤 仁
臨時職員	伊藤典子		主　事	須藤英之
			主　事	渡辺 薫
			主　事	五十嵐貴久
			臨時職員	山澤 譲
平成11年度 文化課 課長	富田 博	平成12年度 文化課 課長	石澤孝一郎	
課長補佐	工藤義夫	課長補佐	工藤義夫	
文化財係長	江川 隆	文化財係長	江川 隆	
主　事	齋藤 仁	主　事	齋藤 仁	
主　事	須藤英之	主　事	須藤英之	
臨時職員	高橋 拓	臨時職員	岩井良太	
臨時職員	石山公亮	臨時職員	高橋 拓	
平成13年度 社会教育課 課長	柳橋幸男	平成14年度 社会教育課 課長	柳橋幸男	
課長補佐	金子美則	課長補佐	江川 隆	
文化財係長	江川 隆	文化財係長	小野 徹	
主　事	齋藤 仁	主　事	齋藤 仁	
主　事	須藤英之	主　事	須藤英之	
臨時職員	岩井良太	臨時職員	岩井良太	
臨時職員	高橋 拓	臨時職員	小野幸寛	
臨時職員	黒澤奈都	臨時職員	黒澤奈都	

平成15年度 社会教育課 課長 伊藤邦男

課長補佐 江川 隆

文化財課長 小野 徹

主事 斎藤 仁

臨時職員 高橋 拓

臨時職員 宮嶋 啓

- 4 本書の作成・執筆は、斎藤仁が担当し、須藤英之、岩井良太、高橋拓、黒澤奈都 宮嶋啓がこれを補佐した。
- 5 発掘調査から本書の作成にいたるまで以下の方々および機関からご指導、ご教示をいただいた。記して感謝申し上げる。(敬称略)

(財) 山形県埋蔵文化財センター (財) 最上義光歴史館 大分市教育委員会 福岡市教育委員会

揚泰昭一郎 阿子島功 飯村均 伊藤清郎 井上喜久男 大橋康二 小野正敏 片桐繁雄 川崎利夫
日下正剛 黒坂雅人 菅原哲文 関根達人 高桑登 高桑弘美 高橋健太郎 田中則和 手代木美穂
萩原三雄 畑大介 平田慎文 藤澤良祐 堀江格 菅田慶信 僕壁建 松井敏也 山口博之

- 6 発掘調査及び整理作業にあたっては以下の方々からご協力をいただいた。記して感謝申し上げる。

(敬称略)

安達信吉 安達国美 荒井清 荒井清治 荒井利雄 荒井治良 石垣勝幸 石沢富雄 井上芳一 大
貫文義 大場俊三 岡崎順昭 尾形智康 小川定雄 小野政雄 小野光夫 折原栄悦 柿崎繁 片桐
長作 加藤守 金子みつの 鴨田正 岸野松雄 木村澄子 熊谷繁 熊谷侃 熊谷善四郎 久邇山八
雄 後藤富夫 斎藤邦男 斎藤長栄門 斎藤三雄 笹利幸 佐藤昭司 佐藤博 佐藤実 三部秋夫
志田英信 島貫昭二郎 清水理太郎 鈴木清志 鈴木広太 鈴木孝夫 鈴木輝男 鈴木敏幸 関口太
高橋清治 武田菊雄 武田武 丹野廣 丹野藤夫 丹野与三郎 堤操 東海林民樹 戸田長生 富沢
啓広 土門弘 長岡伸恭 永田清悦 中村正義 納谷好子 原田とし子 原田実 半沢郁造 半澤芳
夫 深瀬啓次郎 深瀬仁美 保科源則 前野勲 三浦藤男 三浦礼司 水野一男 森田誠 横山内宥
渡辺ふじえ 渡辺由貴子 (以上現場作業)

芦名久子 伊藤桂子 伊藤真喜子 金子みつの 北野恵 木村澄子 佐々木都子 笹原陽子 佐藤由
美子 鈴木麻理子 関口幸子 関野信子 武田昌子 中沢林子 原田とし子 深瀬美貴子 三浦優子
矢作初子 結城しのぶ 渡辺ふじえ (以上整理作業)

- 7 業務委託は下記の通りである。

埋蔵文化財調査補助業務 山源建設株式会社

空中写真撮影・平面図化 国際航業株式会社

- 8 出土遺物、調査記録類については、山形市教育委員会で一括保管している。

凡　例

1 本書で使用した遺構の分類記号は以下の通りである。

S T…竪穴住居跡 S B…掘立柱建物跡 S K…土坑 S D…溝跡 S E…井戸跡
S P…柱穴、ビット S H…土壙墓 S G…河川跡 S X…性格不明遺構 P…土器、陶磁器
S…穢 W…木製品、自然木

2 本書で使用した地形図等は以下の通りである。

第1図 国土地理院発行 1:25,000 地形図『山形北部』『山形南部』

第2図 山形市発行 1:1,000 『山形駅西地区画整理事業計画図』

3 本報告書での遺構番号は、現場調査で登録した番号を一部変更して掲載している。以後本書の番号が正式式とする。

4 報告書執筆基準は以下の通りである。

- (1) 遺跡位置図、調査地区概要図、遺構配置図の方位は真北を示している。
- (2) グリッドの南北軸は真北を向いている。南北軸をY軸、東西軸をX軸とし、Y軸は北からX軸は西からアラビア数字を付した。公共座標は日本測地系に準拠している。
- (3) 遺構実測図は1/20 ~ 1/200 のスケールで採録し、各々スケールを付した。なお、断面図の水糸レベルは標高を表し、単位はmである。
- (4) 土層観察で、遺跡を覆う基本層序はローマ数字、遺構覆土はアラビア数字で表している。土層観察表は、表編に一括して掲載した。
- (5) 遺物実測図、拓影図は1/2、1/3、1/4で採録し、各々スケールを付した。
- (6) 遺物観察表の計測値で()は推定値を示す。単位は特に注記のないものはcmである。時期で、数字の後のCは世紀を表している。「~/4」は~四半世紀を表している。また、瀬戸美濃系陶器で、「大窯」の後の数字は〔藤澤 1991〕による大窯の各段階を、「登窯」の後の数字は〔藤澤 1998〕による登窯の各小期を表している。なお、遺物観察表は表編に一括して掲載した。
- (7) 遺物番号は、本文、表、挿図、写真図版とともに共通したものである。
- (8) 遺構覆土の色調の記載は、『新版土色帳』(小山・竹原 1973年)に準拠した。
- (9) 出土した人骨・動物骨は、名古屋大学博物館 新美倫子氏に同定を依頼し、付録にて考察をいただいた。

目 次

I 調査の経緯	1
1 調査に至る経過	1
2 調査の経過	1
II 遺跡の立地と環境	3
1 地理的環境	3
2 歴史的環境	3
III 遺跡の概要	7
1 遺跡の層序	7
2 遺構と遺物の分布	7
IV 検出された遺構と遺物	9
1 はじめに	9
2 土坑	9
3 溝跡	135
4 井戸跡	205
5 土壙墓	340
6 性格不明遺構	342
V 調査のまとめ	349
1 遺構年代の編年方法	349
2 各時期の様相	349
3 まとめ	351
付編 双葉町・城南町遺跡出土の人骨・動物骨	353

表

表1 山形藩の変遷	5
-----------------	---

挿 図

第1図	遺跡位置図	4	第37図	SK1405(1)	37
第2図	調査地区概要図	6	第38図	SK1405(2)	38
第3図	基本層序	8	第39図	SK1405(3)	39
第4図	SK010	10	第40図	SK1405(4)	40
第5図	SK082	10	第41図	SK1405(5)	41
第6図	SK171(1)	11	第42図	SK1435	42
第7図	SK171(2)	12	第43図	SK1468	43
第8図	SK315	12	第44図	SK1481	44
第9図	SK334	14	第45図	SK1494	45
第10図	SK343	14	第46図	SK1504	46
第11図	SK358	15	第47図	SK1508(1)	47
第12図	SK501	15	第48図	SK1508(2)	48
第13図	SK0030	17	第49図	SK1509	49
第14図	SK0045	17	第50図	SK1523	50
第15図	SK1005	18	第51図	SK2001	50
第16図	SK1026(1)	19	第52図	SK2008	52
第17図	SK1026(2)	20	第53図	SK2020	52
第18図	SK1072(1)	21	第54図	SK2092(1)	53
第19図	SK1072(2)	22	第55図	SK2092(2)	54
第20図	SK1072(3)	23	第56図	SK2097	55
第21図	SK1072(4)	24	第57図	SK2504(1)	56
第22図	SK1086	24	第58図	SK2504(2)	57
第23図	SK1087	25	第59図	SK3003	58
第24図	SK1112	26	第60図	SK3046(1)	59
第25図	SK1114・SK1115	28	第61図	SK3046(2)	60
第26図	SK1115出土遺物	29	第62図	SK3060	60
第27図	SK1118	29	第63図	SK3063	61
第28図	SK1143	30	第64図	SK3066(1)	62
第29図	SK1180	30	第65図	SK3066(2)	63
第30図	SK1195	32	第66図	SK3074	64
第31図	SK1252	32	第67図	SK3085	65
第32図	SK1260	33	第68図	SK5019	66
第33図	SK1262	34	第69図	SK5039	67
第34図	SK1270	35	第70図	SK5093	68
第35図	SK1290	36	第71図	SK6040	69
第36図	SK1401	36	第72図	SK6079	70

第 73 図	SK6107	71	第 111 図	SK10230(1)	106
第 74 図	SK6108	72	第 112 図	SK10230(2)	107
第 75 図	SK6109(1)	73	第 113 図	SK10239・SK10240(1)	108
第 76 図	SK6109(2)	74	第 114 図	SK10239・SK10240(2)	109
第 77 図	SK8006	74	第 115 図	SK10254	110
第 78 図	SK8032	76	第 116 図	SK10275(1)	111
第 79 図	SK8078	76	第 117 図	SK10275(2)	112
第 80 図	SK9004	77	第 118 図	SK10275(3)	113
第 81 図	SK9011	77	第 119 図	SK10281	114
第 82 図	SK9012	78	第 120 図	SK10285	115
第 83 図	SK10017	79	第 121 図	SK10302・SK10303	116
第 84 図	SK10027(1)	80	第 122 図	SK10311	117
第 85 図	SK10027(2)	81	第 123 図	SK10315	118
第 86 図	SK10031	82	第 124 図	SK10332	119
第 87 図	SK10037(1)	83	第 125 図	SK10333	120
第 88 図	SK10037(2)	84	第 126 図	SK10338(1)	121
第 89 図	SK10058・SD10006(1)	85	第 127 図	SK10338(2)	122
第 90 図	SK10058・SD10006(2)	86	第 128 図	SK10350(1)	123
第 91 図	SK10063	87	第 129 図	SK10350(2)	124
第 92 図	SK10073	87	第 130 図	SK10360	125
第 93 図	SK10074	88	第 131 図	SK10366	125
第 94 図	SK10093	89	第 132 図	SK10368(1)	126
第 95 図	SK10097・SD10008	90	第 133 図	SK10368(2)	127
第 96 図	SK10106・SK10107・SK10108(1)	91	第 134 図	SK10378	128
第 97 図	SK10106・SK10107・SK10108(2)	92	第 135 図	SK10382	129
第 98 図	SK10111(1)	93	第 136 図	SK10417(1)	130
第 99 図	SK10111(2)	94	第 137 図	SK10417(2)	131
第 100 図	SK10118(1)	95	第 138 図	SK10417(3)	132
第 101 図	SK10118(2)	96	第 139 図	SK11002	133
第 102 図	SK10118(3)	97	第 140 図	SK11005	134
第 103 図	SK10127	98	第 141 図	SD109	135
第 104 図	SK10136	99	第 142 図	SD127	136
第 105 図	SK10144	100	第 143 図	SD301・SD315・SD338(1)	137
第 106 図	SK10191・SK10192	101	第 144 図	SD301・SD315・SD338(2)	138
第 107 図	SK10195	102	第 145 図	SD301・SD315・SD338(3)	139
第 108 図	SK10216・SK10217・SK10218(1)	103	第 146 図	SD301・SD315・SD338(4)	140
第 109 図	SK10216・SK10217・SK10218(2)	104	第 147 図	SD303	141
第 110 図	SK10229	105	第 148 図	SD307・SD310(1)	142

第 149 図	SD307・SD310(2)	143	第 187 図	SD8002	179
第 150 図	SD320・SD321	144	第 188 図	SD9021	180
第 151 図	SD1004	145	第 189 図	SD9025	181
第 152 図	SD1010	146	第 190 図	SD9028	182
第 153 図	SD1014	147	第 191 図	SD10001	183
第 154 図	SD1019	148	第 192 図	SD10004(1)	184
第 155 図	SD1034	149	第 193 図	SD10004(2)	185
第 156 図	SD1036	150	第 194 図	SD10009(1)	186
第 157 図	SD1045	151	第 195 図	SD10009(2)	187
第 158 図	SD1058	152	第 196 図	SD10011	188
第 159 図	SD1061・SD1116(1)	153	第 197 図	SD10013	189
第 160 図	SD1061・SD1116(2)	154	第 198 図	SD10014	190
第 161 図	SD1067	155	第 199 図	SD10016(1)	191
第 162 図	SD1073	156	第 200 図	SD10016(2)	192
第 163 図	SD1077	157	第 201 図	SD10016(3)	193
第 164 図	SD1104 ①	158	第 202 図	SD10020	193
第 165 図	SD1104 ②(1)	159	第 203 図	SD10023	194
第 166 図	SD1104 ②(2)	160	第 204 図	SD10026・SD10053	195
第 167 図	SD1104 ③(1)	161	第 205 図	SD10035(1)	196
第 168 図	SD1104 ③(2)	162	第 206 図	SD10035(2)	197
第 169 図	SD1119(1)	163	第 207 図	SD10047(1)	198
第 170 図	SD1119(2)	164	第 208 図	SD10047(2)	199
第 171 図	SD1129	165	第 209 図	SD10052	200
第 172 図	SD1130	165	第 210 図	SD10061	201
第 173 図	SD1132	166	第 211 図	SD10071	202
第 174 図	SD1137	167	第 212 図	SD11003	203
第 175 図	SD2015・SD2016(1)	168	第 213 図	SD11009	204
第 176 図	SD2015・SD2016(2)	169	第 214 図	SE101・SE102(1)	206
第 177 図	SD2022	170	第 215 図	SE101・SE102(2)	207
第 178 図	SD6004	171	第 216 図	SE104	208
第 179 図	SD6005・SD6012(1)	172	第 217 図	SE105	209
第 180 図	SD6005・SD6012(2)	173	第 218 図	SE108	209
第 181 図	SD6006	174	第 219 図	SE111	210
第 182 図	SD6007	175	第 220 図	SE112	211
第 183 図	SD6059	176	第 221 図	SE113	212
第 184 図	SD6080	177	第 222 図	SE114	212
第 185 図	SD6081	177	第 223 図	SE103・SE106・SE107・SE109・SE115・ SE116	214
第 186 図	SD7007	178			

第 224 図	SE201	215	第 262 図	SE1038	247
第 225 図	SE301	216	第 263 図	SE1039	248
第 226 図	SE302	217	第 264 図	SE1040	249
第 227 図	SE304	218	第 265 図	SE1047	250
第 228 図	SE305	219	第 266 図	SE1050	251
第 229 図	SE306	220	第 267 図	SE1051	252
第 230 図	SE307	221	第 268 図	SE1052	252
第 231 図	SE303・SE308	222	第 269 図	SE1053	253
第 232 図	SE0001	223	第 270 図	SE1054	253
第 233 図	SE0003	224	第 271 図	SE1058	254
第 234 図	SE0004・SE0005・SE0006(1)	225	第 272 図	SE1059	255
第 235 図	SE0004・SE0005・SE0006(2)	226	第 273 図	SE1001・SE1002・SE1009・SE1010・SE1011・ SE1013・SE1017	256
第 236 図	SE1003	227	第 274 図	SE1024・SE1032・SE1033・SE1036・SE1045・ SE1055	257
第 238 図	SE1005	228	第 275 図	SE1056・SE1057	259
第 239 図	SE1006	228	第 276 図	SE2001	261
第 240 図	SE1007	229	第 277 図	SE2003	263
第 241 図	SE1008	229	第 278 図	SE2004	264
第 242 図	SE1012	230	第 279 図	SE2005	264
第 243 図	SE1014	231	第 280 図	SE2013	265
第 244 図	SE1015	231	第 281 図	SE2014	266
第 245 図	SE1016	232	第 282 図	SE2015	267
第 246 図	SE1018	233	第 283 図	SE2002・SE2007・SE2010・SE2011	268	
第 247 図	SE1019	233	第 284 図	SE3004	269
第 248 図	SE1020	234	第 285 図	SE3001・SE3003・SE3005・SE3006	270	
第 249 図	SE1021	235	第 286 図	SE4000	271
第 250 図	SE1022	235	第 287 図	SE4008・SE4009	272
第 251 図	SE1023	237	第 288 図	SE5001	273
第 252 図	SE1025・SE1026	238	第 289 図	SE5006	274
第 253 図	SE1027	239	第 290 図	SE5007	275
第 254 図	SE1028(1)	240	第 291 図	SE5008	276
第 255 図	SE1028(2)	241	第 292 図	SE5009	277
第 256 図	SE1029	242	第 293 図	SE5013	278
第 257 図	SE1030	242	第 294 図	SE5005・SE5014	279
第 258 図	SE1031	243	第 295 図	SE6001	280
第 259 図	SE1035(1)	244	第 296 図	SE6002	281
第 260 図	SE1035(2)	245	第 297 図	SE6003	282
第 261 図	SE1037	246				

第 298 図	SE6004	283	第 333 図	SE10017(2)	320
第 299 図	SE6013	283	第 334 図	SE10018	321
第 300 図	SE6015・SE6018	284	第 335 図	SE10019	322
第 301 図	SE6020・SE6021	285	第 336 図	SE10020・SE10021(1)	323
第 302 図	SE6022	286	第 337 図	SE10020・SE10021(2)	324
第 303 図	SE6023	287	第 338 図	SE10022	325
第 304 図	SE6024・SE6025	287	第 339 図	SE10023	326
第 305 図	SE6005・SE6006・SE6007・ SE6008・SE6009・SE6010・ SE6011・SE6012	289	第 340 図	SE10024	327
第 306 図	SE6014・SE6016・SE6017・SE6019	290	第 341 図	SE10025	328
第 307 図	SE7002(1)	292	第 342 図	SE10026	329
第 308 図	SE7002(2)	293	第 343 図	SE10028	330
第 309 図	SE7001・SE7003・SE7004・SE7005	294	第 344 図	SE10030	331
第 310 図	SE8001・SE8002・SE8003・SE8004(1)	295	第 345 図	SE10031	332
第 311 図	SE8001・SE8002・SE8003・SE8004(2)	296	第 346 図	SE10033	333
第 312 図	SE8008	298	第 347 図	SE10007・SE10010・SE10027	334
第 313 図	SE8011	299	第 348 図	SE10014・SE10032・SE10034	336
第 314 図	SE8005・SE8006・SE8007・ SE8009・SE8010	300	第 349 図	SE11001	337
第 315 図	SE9001	302	第 350 図	SE11002	338
第 316 図	SE9002	303	第 351 図	SE11003	339
第 317 図	SE9003	304	第 352 図	SH134	340
第 318 図	SE9004・SE9005	305	第 353 図	SH1480	341
第 319 図	SE9006・SE9007	306	第 354 図	SX3017	342
第 320 図	SE9008	307	第 355 図	SX5002(1)	343
第 321 図	SE10002	308	第 356 図	SX5002(2)	344
第 322 図	SE10003	309	第 357 図	SX10007(1)	345
第 323 図	SE10005(1)	310	第 358 図	SX10007(2)	346
第 324 図	SE10005(2)	311	第 359 図	搅乱・遺構外出土遺物	347
第 325 図	SE10008(1)	312			
第 326 図	SE10008(2)	313			
第 327 図	SE10009	314			
第 328 図	SE10011	315			
第 329 図	SE10012	316			
第 330 図	SE10013	317			
第 331 図	SE10015	318			
第 332 図	SE10017(1)	319			

I 調査の経緯

1 調査に至る経過

山形広域都市計画事業山形駅西土地区画整理事業は、山形駅の西側に隣接した地区に、生活・文化・情報機能等の役割を果たす「新都心地区」として、周辺住宅地と調和した、都市拠点にふさわしい、いきいきとした市街地の形成を目指して、平成6年1月25日に事業計画が決定した。

区画整理施行地区的南側には、東ソーブル株式会社山形工場が立地していたが、この地区は大規模開発が予定されているBブロック、Dブロックおよび、西口駅前広場、一般住宅地の開発が予定されていた。これにより、東ソーブル株式会社山形工場は撤退することとなり、撤退に伴う整備工事が実施されることとなった。

工場敷地はマンガン等の生産によって発生する鉛滓を埋め立てて整地し、プラントを建設していた。工場跡地整備工事では鉛滓を全て掘削し化学的処理により無害化したうえで搬出するが、在来土壤を汚染している場合はこれらも掘削し処分を行うこととなった。

山形市教育委員会では、東ソーブル株式会社山形工場跡地整備工事敷地内での埋蔵文化財が存在するかどうかの遺跡分布調査を平成9年7月4日に実施した。この結果、古墳時代から江戸時代にかけての遺跡の存在が確認され、(仮称) 東ソーブル跡地遺跡として登録された。その後、所在地名より双葉町遺跡として取り扱うこととなった。

この結果をうけて、平成9年9月5日付けで関係機関に報告し、事業主体である山形市都市開発部新都市拠点整備課および東ソーブル株式会社山形事務所、工場整備工事を行う大林組、山形市教育委員会が遺跡の取り扱いの協議を行った。工場整備工事では、処理の対象となるのは埋立てた鉛滓だけでなく在来土壤も含むため、その場合遺跡は破壊されることとなり、一方工場整備工事が進まない限り山形駅西土地区画整理事業の進捗に大きな影響を与えることから、遺跡は山形市教育委員会が調査主体となり発掘調査による記録保存を行うことで合意した。

2 調査の経過

発掘調査は平成9年10月20日から平成12年2月4日まで実施した。調査面積は約72,100m²である。

工場跡地整備工事は敷地内を27のブロック（技番を含めると31のブロック）に分けていたが、調査もこのブロックごとに、整備工事の緊急性の高い地区を優先して調査を行った。調査は区ごとに重機による表土除去、遺構検出、遺構精査、記録作業、写真撮影などを行い、調査が終了した区より整備工事が進められた。以下調査期間を示す。

B区（整備工事の13・14・20区、遺構番号100番台・200番第・500番第で登録）

平成9年10月20日～12月26日

A区（整備工事の1N・1区、遺構番号300番台で登録）

平成9年12月24日～平成10年4月7日

2N区（整備工事の2N区、遺構番号4000番台で登録）

平成10年3月30日～5月7日

3N区（整備工事の3N区、遺構番号0000番台で登録）

平成10年3月24日～5月11日

- 3 区（整備工事の 3 区、遺構番号 5000 番台で登録）
平成 10 年 4 月 9 日～6 月 10 日
- 2 区（整備工事の 2・3 区、遺構番号 6000 番台で登録）
平成 10 年 5 月 18 日～10 月 6 日
- 25 区（整備工事の 25 区、遺構番号 7000 番台で登録）
平成 10 年 7 月 7 日～9 月 10 日
- 11 R 区（整備工事の 3・11 N・11 区、遺構番号 9000 番台で登録）
平成 10 年 8 月 28 日～12 月 14 日
- 22 区（整備工事の 12・22 区、遺構番号 8000 番台で登録）
平成 10 年 9 月 4 日～11 月 19 日
- 17 区（整備工事の 17 区、遺構番号 2000 番台で登録）
平成 10 年 11 月 9 日～12 月 24 日、平成 11 年 5 月 13 日～6 月 15 日
- 6 区（整備工事の 6・7・8・9・15・16 区、遺構番号 1000 番台で登録）
平成 10 年 11 月 10 日～平成 11 年 9 月 30 日
- 12 区（整備工事の 12 区、遺構番号 2500 番台で登録）
平成 11 年 2 月 17 日～3 月 5 日
- 4 区（整備工事の 3・4・11 N 区、遺構番号 3000 番台で登録）
平成 11 年 3 月 29 日～5 月 7 日
- 5 区（整備工事の 4・5・10・11 区、遺構番号 10000 番台で登録）
平成 11 年 9 月 6 日～平成 12 年 2 月 3 日
- 7 区（整備工事の 7 区、遺構番号 11000 番台で登録）
平成 12 年 1 月 11 日～2 月 4 日

II 遺跡の立地と環境

1 地理的環境

山形市は山形県東部にある山形盆地の南部に位置している。面積は 381.34km²で、東は奥羽山脈に西は出羽丘陵に挟まれている。平野部はこれらの山々を源とする立谷川、馬見ヶ崎川、須川などの河川が流れおり、それぞれ扇状地を形成するという、複合扇状地を呈している。

山形市街地は奥羽山脈に源を発し、東から西に流れる馬見ヶ崎川が形成する扇状地の扇央から扇端に広がっている。山形城は山形市街地のはば中央の JR 山形駅西側に隣接した地域に位置するが、この地域は馬見ヶ崎川がつくる扇状地の扇端にあたる。これより東は扇央にあたり、西は扇状地扇端からしみ出すように流れる小河川が作る自然堤防とその間に広がる後背湿地からなる沖積平野となっている。

調査地区は山形城の三の丸の南部に当たる地域である。地目は工場跡地であり、標高はおよそ 127 m から 131 m を測る。

2 歴史的環境

山形城は、南北朝時代の延文元年（1358）に出羽管領として入部した斯波兼頼によってその原型が築かれたと言われるが明確な根拠はなく、中世山形城の正確な位置や規模は不明である。山形城の本格的な形成は、斯波氏末裔の最上義光が豊臣政権の大名として認められ推定石高 13 万石の所領を安堵されてからとされる。さらに三の丸までの大規模な城郭や城外の町場の形成は、義光が関ヶ原の合戦時に出羽合戦の功績で 57 万石といわれる領地を与えられてからと考えられる。

現在に残る城郭の規模は本丸が東西 170 m・南北 190 m、二の丸が東西 530 m・南北 590 m で、現在は国指定史跡となり公園として市民に開放されている。三の丸は現在ほとんど破壊されているが、推定で東西 1580 m・南北 2090 m である。山形城は本丸、二の丸、三の丸という、ほぼ完全な三重の堀と土塁が廻された城であった。

本丸・二の丸は領主の政務及び日常の空間である。側衆の屋敷や馬屋・御膳などの建物もあった。

三の丸は山形藩の家臣の屋敷が配置されていた。近世初頭の最上氏時代の城下絵図「最上家在城諸家中町割図」（山形県立図書館蔵）によると、三の丸が 511 名、三の丸外（城外）が 943 名の家臣屋敷があったことが知られる。三の丸外に屋敷を持つものは足軽や小姓などの身分の低い者で、三の丸に屋敷を構えるのは中上級の家臣であった。三の丸の周囲には 11 の門があり、道路は二の丸の四方の門と三の丸の 11 の門を結ぶ各道を中心として東西・南北に直線的につけられ、交差する部分は丁字路・鉤型になっている。最上氏の時代には領内各地に支城を有するものが存在したが、このような重臣は二の丸の門外近くや三の丸の門内近くに配置されているのが特徴である。最上氏に関わりの深い寺院も三の丸内に存在した。二の丸の東側の光明寺は始祖斯波兼頼の菩提寺である。東南隅の宝幢寺は 1370 石の朱印地をもち、最上氏とは由緒も深い寺院である。その他、三の丸南部の勝因寺・来院院なども最上氏の庇護を受けていた。

最上氏は元和 8 年（1622）に改易されたが、その後も、幕府は山形藩を東北の要衝としての意義を重視して、徳川譜代の島居氏や三代将軍家光の異母弟の保科正之を入部させている。このころの良好な城下絵図は存在せず、城下の具体的な様相はわからないが、島居氏が入部する直前に幕府直轄による二の丸の拡幅や最上氏に由来の深い寺院を城外に出すなどの改修を行ったようである。



II 遺跡の立地と環境

保科氏の後は、一時幕府直轄領時代を経て、結城松平氏が入部する。結城松平氏時代に作成された「正保絵図」(国立公文書館内閣文庫蔵)によると、三の丸に「侍町」、城外の一部に「足輕町」とあり、最上氏時代と比較して城外の家臣屋敷は縮小したようだが、三の丸は最上氏時代と変わらず中上級家臣屋敷地として機能していた。ただし、この段階で家臣に1万石以上の知行を有するものはおらず、また一国一城令により、最上氏の家臣が有していた支城は破却されているので、重臣でも城持もの身分のものもいない。

結城松平氏の後は奥平松平氏、奥平氏、堀田氏などが入部する。このなかで奥平氏は家臣が殉死禁止を破ったため減封左遷されたもので、山形藩としてもこの段階で15万石から9万石に減少し、東北の要衝としての意義を失い、左遷地の様相を呈するようになる。元禄元年(1688)(享和2年の写し)の「松平氏時代城下絵図」(最上義光歴史館蔵)によると、三の丸の家臣屋敷は東側の大手門付近に集中し、それ以外の地区には空地が目立つようになるが、特に西側は、「組屋敷」といった下級家臣の長屋と推定されるものや、切支丹牢の牢屋と思われる屋敷、花畠など、藩政運営上重要度の低い施設が集まるようになる。

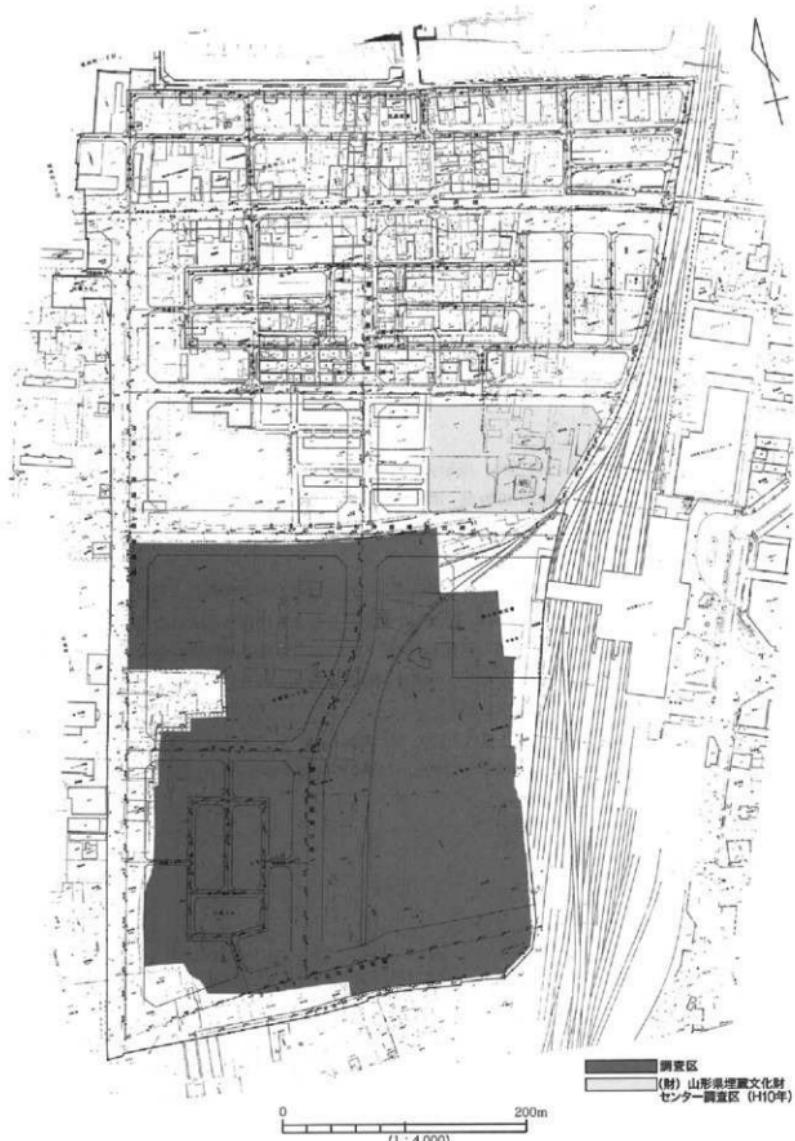
その後、山形藩は18世紀半ばに大給松平氏が入部した時点では6万石に減少し、幕末の水野氏の段階ではさらに1万石減らされ5万石となり幕末を迎える。水野氏時代の城下絵図「水野氏時代山形城内絵図」(個人蔵)では、三の丸の家臣屋敷は東側にわずかに確認されるのみで、その他の地域は田畠となってしまっている。

明治3年(1877)、廃藩置県により山形県が置かれると山形城は藩庁としての歴史的意義を失い、次第に破却されていく。明治29年(1896)には大日本帝国陸軍歩兵第32連隊が旧二の丸および三の丸南側に置かれ、その際大規模に城郭が破壊されたようである。昭和4年の「山形市街図」(山形県立図書館蔵)によると、三の丸の堀・土塁は奥羽本線の西側に若干残存している部分があるが、ほとんどは埋立整地されてしまったようである。東ソーリ株式会社山形工場は、昭和3年(1928)に山形市の誘致企業として株式会社鐵興社が創業を開始したのが始まりである。工場創設地はもと田畠地であったが、扇状地の特性上、標高が低かった西側に鉱滓を順次埋め立てて整地し、工場を拡大していった。

終戦後は、第32連隊は撤退し、住宅地、旧国鉄用地、工場などとして利用されている。

表1 山形藩の変遷

藩主名	石高	前封地(石高)	入封・移封年月日	移封地(石高)
最上義光	57		~元和8年(1622)	改易 近江へ
最上家親	57			
最上義俊	57			
鳥居忠政	24	陸奥磐城平(12)	元和8年(1622) ~寛永13年(1638)	断絶 弟忠治、信濃高遠へ
鳥居忠恒	24			
保科正之	20	信濃高遠(3)	寛永13年(1638) ~寛永20年(1644)	陸奥会津(23)
幕府直轄領 (結城)松平直基	15	越前大野(5)	寛永20年(1644) ~寛永21年(1645)	播磨姫路(15)
(奥平)松平忠弘	15	播磨姫路(15)	寛永21年(1645) ~慶安元年(1648)	下野宇都宮(18)
奥平正能	9	下野宇都宮(11)	寛文8年(1668) ~貞享2年(1685)	下野宇都宮(9)
奥平昌幸	9			
堀田正仲	10	下總古河(10)	貞享2年(1685) ~貞享3年(1686)	陸奥福島(10)
(結城)松平直矩	10	豊後日田(7)	貞享3年(1686) ~元禄5年(1692)	陸奥白河(15)
(奥平)松平忠弘	10	陸奥白河(15)	元禄5年(1692) ~元禄13年(1700)	備後福山(10)
(奥平)松平忠雅	10			
堀田正虎	10			
堀田正泰	10	陸奥福島(10)	元禄13年(1700) ~延享3年(1746)	下総佐倉(10)
堀田正亮	10			
(大納)松平秉佑	6	下総佐倉(7)	延享3年(1746) ~明和元年(1764)	三河西尾(6)
幕府直轄領 秋元涼朝	6		明和元年(1764) ~明和4年(1767)	
秋元永朝	6	武藏川越(6)	明和4年(1764) ~弘化2年(1845)	上野館林(6)
秋元久朝	6			
水野忠精	5	遠江浜松(6)	弘化2年(1845) ~明治2年(1869)	庵藩
水野忠弘	5			



第2図 調査地区概要図

III 遺跡の概要

1 遺跡の層序

調査区内は、城下町が廃絶した後、田畠となり、その後大日本帝国陸軍歩兵第32連隊敷地や東ソー株式会社山形工場敷地となっているので、これらの運営に伴うとみられる痕跡が濃厚で、基本層序に自然堆積が認められる箇所は少ない。

第3図の基本層序観察場所は調査区の西端にあたる。この地区は工場操業に伴う鉱滓が最も厚く埋め立てられていた箇所であり、原況で周辺住宅地よりも標高が約2.8m高くなっている。基本層序は上部の鉱滓を重機で除去した後のものである。

層序は大きく分けて3つに分かれる。I層は、工場による埋立段土である。II層からV層は工場操業以前の埋土である。これらの層からはおおよそ近代の陶磁器やガラスなどが出土するので、城下町廃絶後の田畠を開墾し植物を栽培していた痕跡であると思われる。それより下層が近世以前の遺物が出土する遺構埋土である。

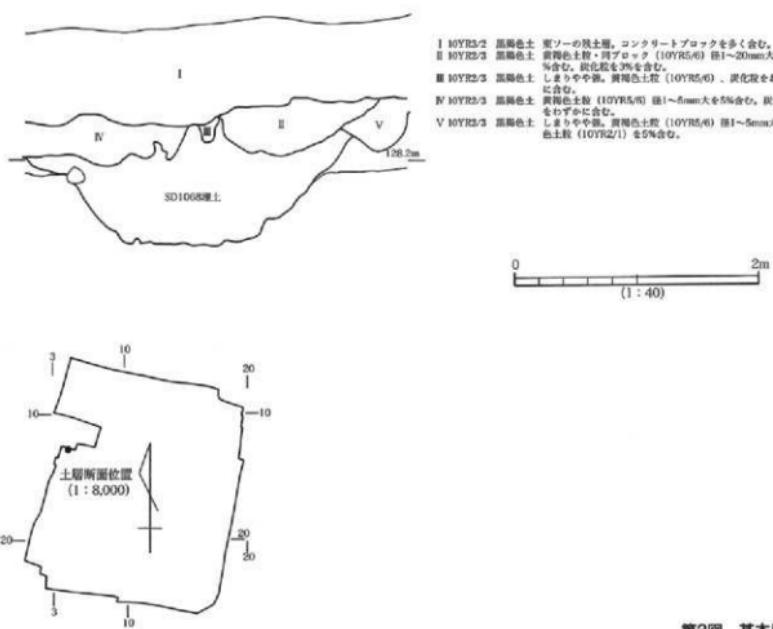
2 遺構と遺物の分布

遺構の検出面は基本的に1面であったため、原始古代から近代の擾乱まで同一プランで確認されている。登録した遺構は、全時代の合計で、土坑が1930基、溝547条、井戸214基、ピット214基、堅穴住居101棟、土壙墓13基、性格不明遺構86基および河川跡が2条で、総数3615である。時期が判断できない遺構も多いが、半数以上が近世の遺構であると思われる。

遺構の分布は場所によって粗密があるが、これは工場操業による擾乱があるので、明瞭に掘り込んでいた擾乱に関してはプランを設定して記録したが、なだらかに落ち込むように掘り込まれた擾乱は上端を認めがたく、プランを設定していないものもある(付図)。図面上このような場所は遺構が少ないように見えるが、これは擾乱によって遺構が消滅してしまったため密度が希薄と考えられる。このような状況を勘案すると、近世の遺構の分布はほぼ均一だったようである。

近世の遺物の分布もほぼ均一である。出土量は天箱で261箱あるが、区ごとの粗密は認められない。土坑からの出土が約40%を占め、溝が約30%、井戸が10%、その他の遺構や検出面から20%出土している。

III 遺跡の概要



第3図 基本層序

IV 検出された遺構と遺物

1 はじめに

年代については、出土遺物の組成から判断した。遺物の出土量が多く、組成に規則性がみられるセットについてはⅠ期からⅤ期までの年代をあたえている。一方遺物の出土量が少なく規則性があるセットとして認められない場合は、出土遺物の年代から埋没年代を推定している。詳細は、V 調査のまとめ を参照のこと。遺物の分類や年代の根拠とする文献は凡例および末尾の文献一覧に記している。

2 土坑

SKO10

位 置 12-22 グリッド。

規 模 長軸 3.22 m、短軸 1.66 m、検出面からの深さ 0.51 m。

形 態 平面形態は南北に長いくずれた楕円形を呈する。断面形態は逆台形を呈するが底面は東に向かってやや低くなる。遺構の東側が近代の搅乱に切られる。

出土遺物 固化資料以外では、肥前系磁器碗が 1 点ある。

年 代 出土遺物が少なく判然としないが、固化していない肥前系磁器より 17 世紀半ばと推定される。

SKO82

位 置 11-19 グリッド。

規 模 長軸 2.19 m、短軸 1.21 m、検出面からの深さ 0.73 m。

形 態 平面形態は東西に長い隅丸方形を呈する。断面形態は方形で、底面は平坦である。

出土遺物 固化資料以外では、黒瓦が 62 点出土している。このほか、肥前系磁器碗、皿がそれぞれ 1 点出土している。

年 代 1 から 17 世紀半ばであると考えられる。

SK171

位 置 12-18 ~ 12-19 グリッド。

規 模 長軸 3.33 m、短軸 1.74 m、検出面からの深さ 0.76 m。

形 態 かなり不整形だが南北に長い隅丸方形を呈する。断面形態は方形で、底面は平坦である。底面の南側に人頭大ほどの礫が散見される。土層の堆積状況は礫や地山由来のブロックなどの混入物を多く含み、一括埋土であると考えられる。土器・陶磁器などの廃棄土坑であろう。

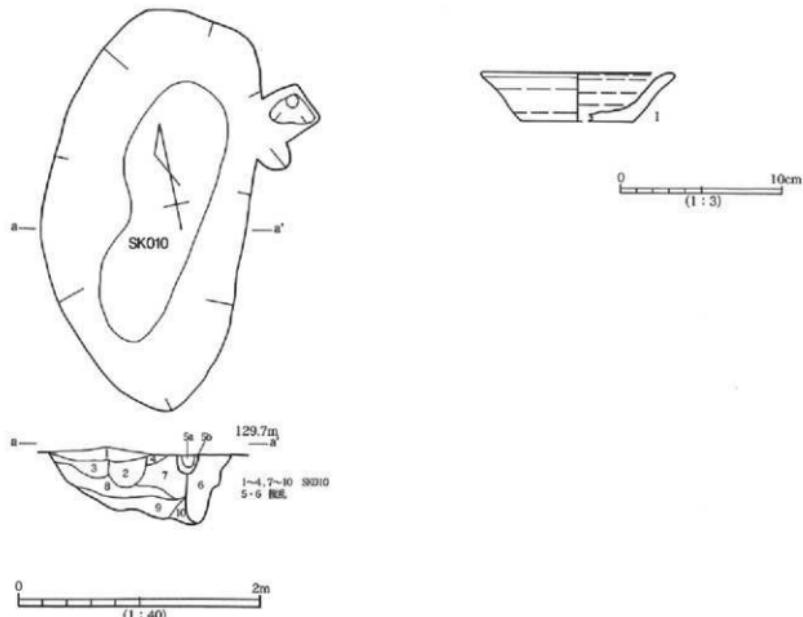
出土遺物 破片資料が多く、肥前系陶磁器は固化し得なかつたものも多い。また、黒瓦は固化したものも含め 15 点ある。漆膜も出土しており、漆器が廃棄されていたものと考えられる。

年 代 肥前系磁器は初期伊万里と高台断面三角形の製品で構成されるので、Ⅲ期であろう。

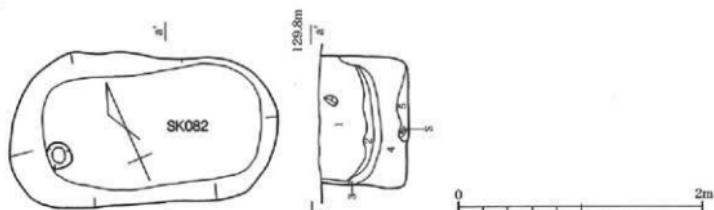
SK315

位 置 6-5 グリッド。

IV 検出された遺構と遺物

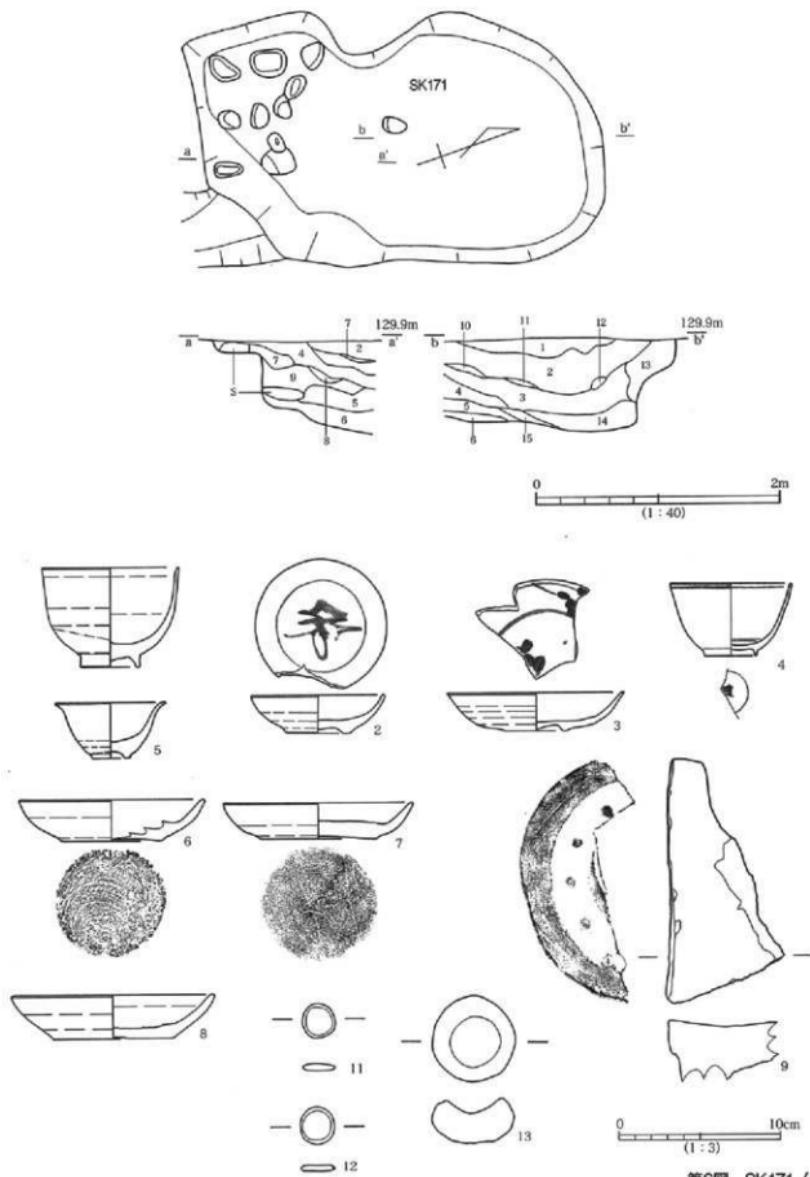


第4図 SK010



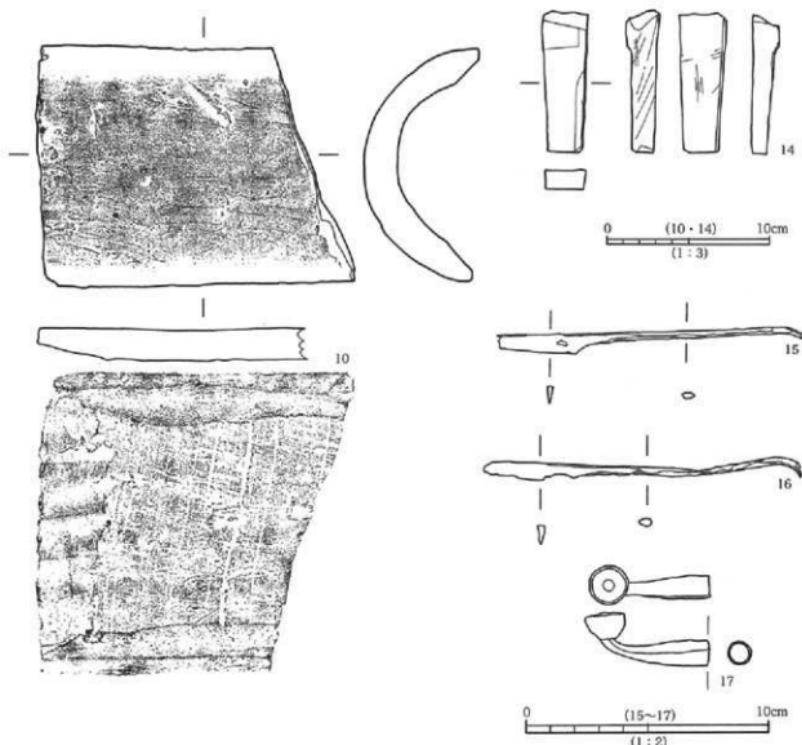
第5図 SK082

IV 検出された遺構と遺物

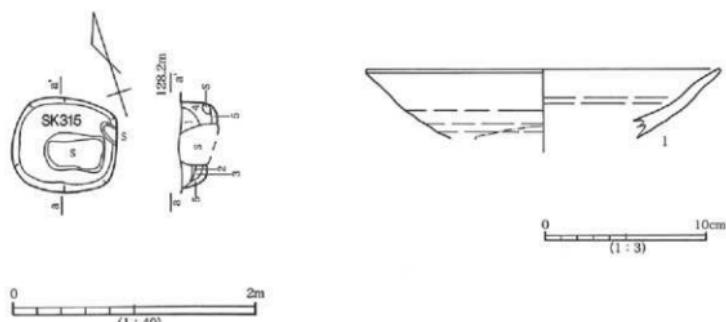


第6図 SK171 (1)

IV 検出された遺構と遺物



第7図 SK171 (2)



第8図 SK315

IV 検出された遺構と遺物

規 模 長軸 0.86 m、短軸 0.75 m、検出面からの深さ 0.29 m。

形 態 平面形態は隅丸方形を呈する。断面形態は方形を呈する。底面中央に長軸 50 cm、短軸 30 cm の大きさの窪がある。礎石を有する柱穴のような形態であるが、周囲に柱穴がみあたらないため SK で登録した。性格は不明である。

出土遺物 図化していない資料に黒瓦が 1 点出土している。

年 代 出土遺物が少なく正確な年代は判断し得ないが、肥前系磁器を含まないことから 17 世紀の前半の可能性が高い。

SK 334

位 置 6-5 グリッド。

規 模 長軸 2.09 m、短軸 1.61 m、検出面からの深さ 1.16 m。

形 態 北側が調査区外になるので全体像は不明だが、平面形態は南北に長いややくずれた楕円形を呈する。断面形態は逆台形を呈する。SK で登録したが、形態から素掘りの井戸であった可能性もある。

出土遺物 肥前系陶器は破片資料が多く、図化しなかった遺物も多い。他に、津洲窯系磁器皿、瀬戸美濃灰釉丸皿、黒瓦、砥石がある。

年 代 3 は初期伊万里であるが、図化していない資料に一重網目文で高台断面三角形の肥前系磁器碗があるので、出土遺物は少ないがおおよそⅢ期に比定できるであろう。

SK 343

位 置 6-5 グリッド。

規 模 長軸 1.98 m、短軸 0.96 m、検出面からの深さ 0.35 m。

形 態 平面形態は南北に長い楕円形を呈する。底面は平坦で、壁面は緩やかに立ち上がる。土層に拳大ほどの礎が散見される。出土遺物も少なく性格は不明である。

出土遺物 図化資料以外では、津洲窯系磁器碗、肥前系磁器瓶がある。

年 代 出土遺物が少なく正確な年代はわからないが、1 より 17 世紀前半から半ばころであろう。

SK 358

位 置 6-9 グリッド。

規 模 長軸 0.96 m、短軸 0.78 m、検出面からの深さ 0.16 m。

形 態 平面形態はかなりくずれた円形を呈する。底面はやや起伏があり、壁面は緩やかに立ち上がる。遺構の性格は不明である。

出土遺物 図化資料以外には、肥前系陶器皿が 1 点のみ出土している。

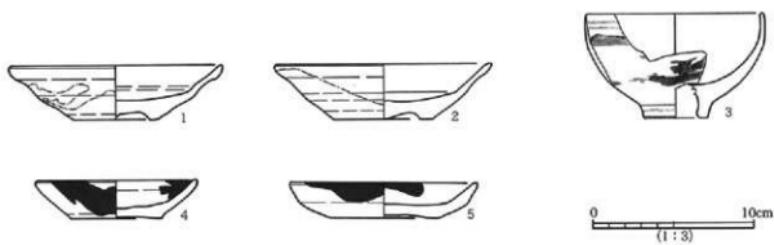
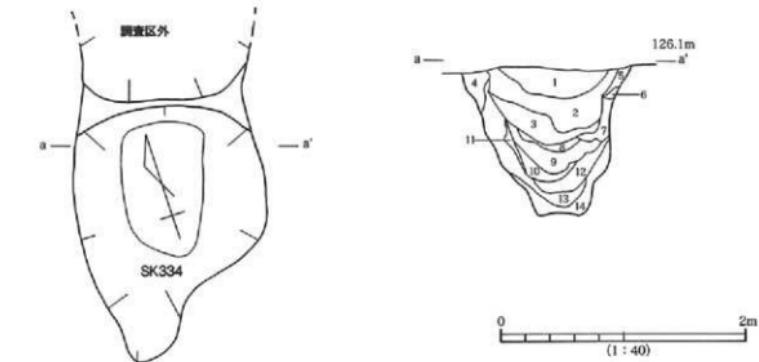
年 代 出土遺物が非常に少なく年代を限定はできないが、肥前系磁器を含まないので 17 世紀前半ころであろう。

SK 501

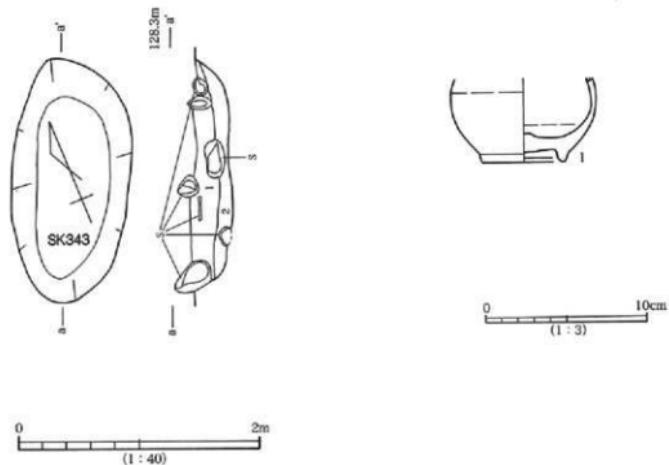
位 置 7-18 グリッド。

規 模 長軸 0.76 m、短軸 0.61 m。

IV 検出された遺構と遺物

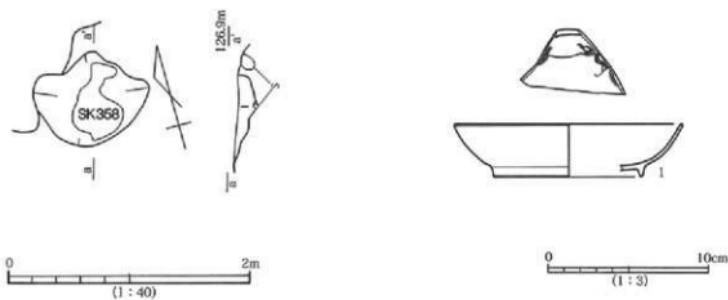


第9図 SK334

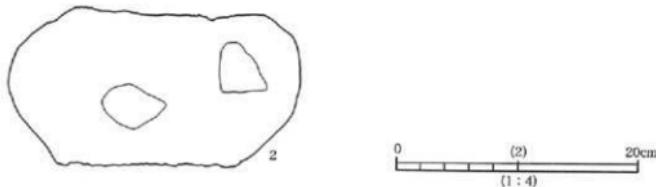
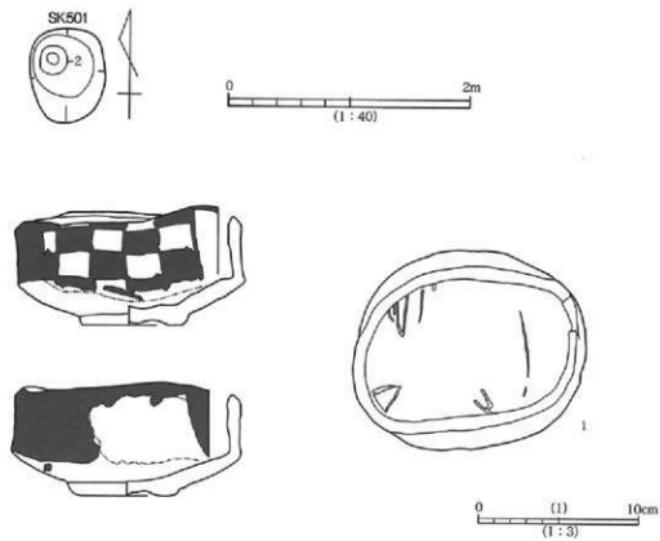


第10図 SK343

IV 検出された遺構と遺物



第11図 SK358



第12図 SK501

形態 平面形態は隅丸方形を呈する。調査期間の関係で断面観察はできなかった。底面中央に2の水輪を配置している。1の黒織部茶碗を廃棄するための埋設土坑であろう。

出土遺物 図化資料以外に出土遺物はない。

年代 1より17世紀初頭であろう。

SK0030

位置 16-7グリッド。

規模 完掘しえず断面観察も行えなかつたため、平面形態や性格など詳細は不明である。東西に連なる掘り込みが複数広がつておいるが、遺物まとまってが出土した土坑についてSK0030と登録した。

出土遺物 図化資料以外に輸入白磁皿、肥前系陶器皿、瀬戸美濃系陶器、ロクロかわらけ、黒瓦などがある。

年代 1や2より17世紀前半であろう。

SK0045

位置 15-7グリッド。

規模 長軸2.65m、短軸2.27m、検出面からの深さ0.32m。

形態 調査期間の関係で完掘することができなかつた。平面形態はかなりくずれた円形を呈する。底面は平坦で壁面はほぼ垂直に立ち上がる。土層に地山由来と推定される混入があり、一括埋土であると思われる。

出土遺物 肥前系磁器は破片資料が多く図化し得なかつたものが多い。その他、瀬戸美濃大窯の灰釉皿・登窯の長石釉菊皿、ロクロかわらけなどがある。

年代 2や図化しなかつた肥前系磁器からⅢ期に比定できよう。

SK1005

位置 8-10グリッド。

規模 長軸2.09m、短軸1.69m、検出面からの深さ0.51m。

形態 平面形態は南北に長いややくずれた楕円形を呈する。底面は平坦で壁面は垂直に立ち上がる。一括埋土であると思われる。土器・陶磁器などの廃棄土坑であろう。

出土遺物 遺物はすべての層位から出土している。肥前系磁器やロクロかわらけは破片資料が多く図化していないものが多い。また、珠洲系陶器が出土していることから、中世の遺構を破壊していると推測される。肥前系陶器はまったく出土していない。なお、ヒトの上腕骨が出土している。

年代 肥前系磁器が初期伊万里と高台断面三角形の製品で構成されるので、Ⅲ期である。

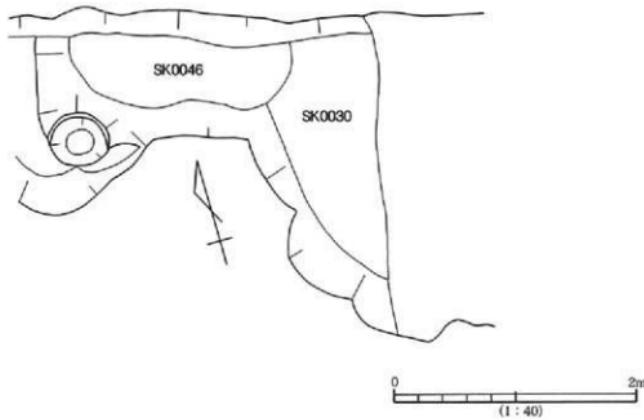
SK1026

位置 11-11グリッド。

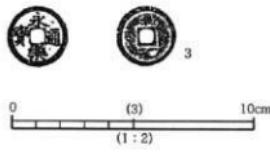
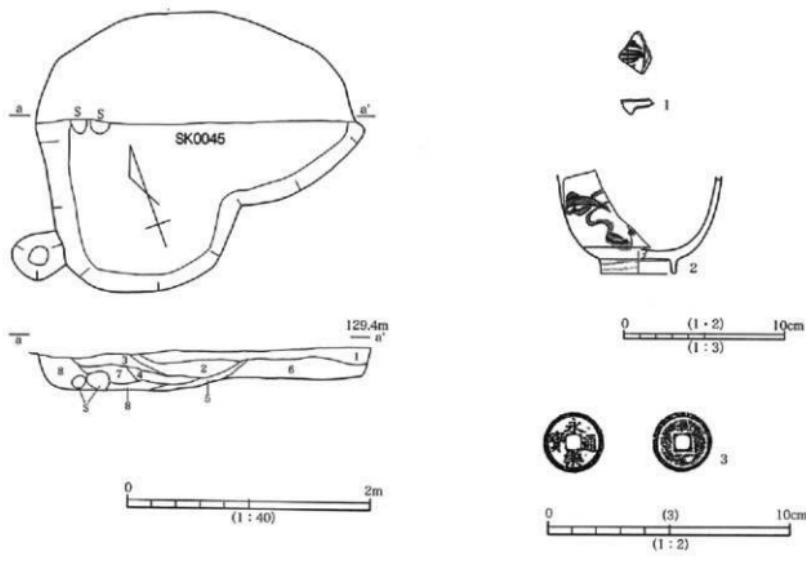
規模 長軸2.61m、短軸1.50m、検出面からの深さ0.57m。

形態 平面形態は南北に長いくずれた楕円形を呈する。底面は平坦で壁面は急角度で立ち上がるが、北面のみ立ち上がりはやや緩やかである。調査期間の関係で土層の観察をすることができなかつた。

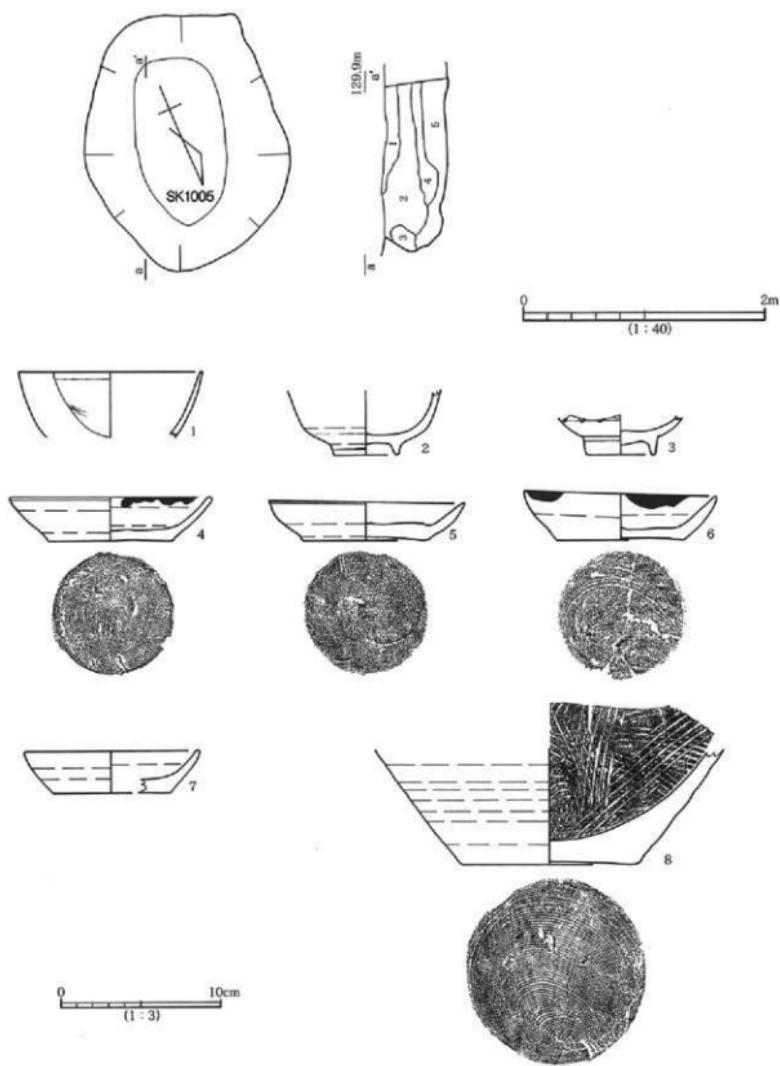
IV 検出された遺構と遺物



第13図 SK0030

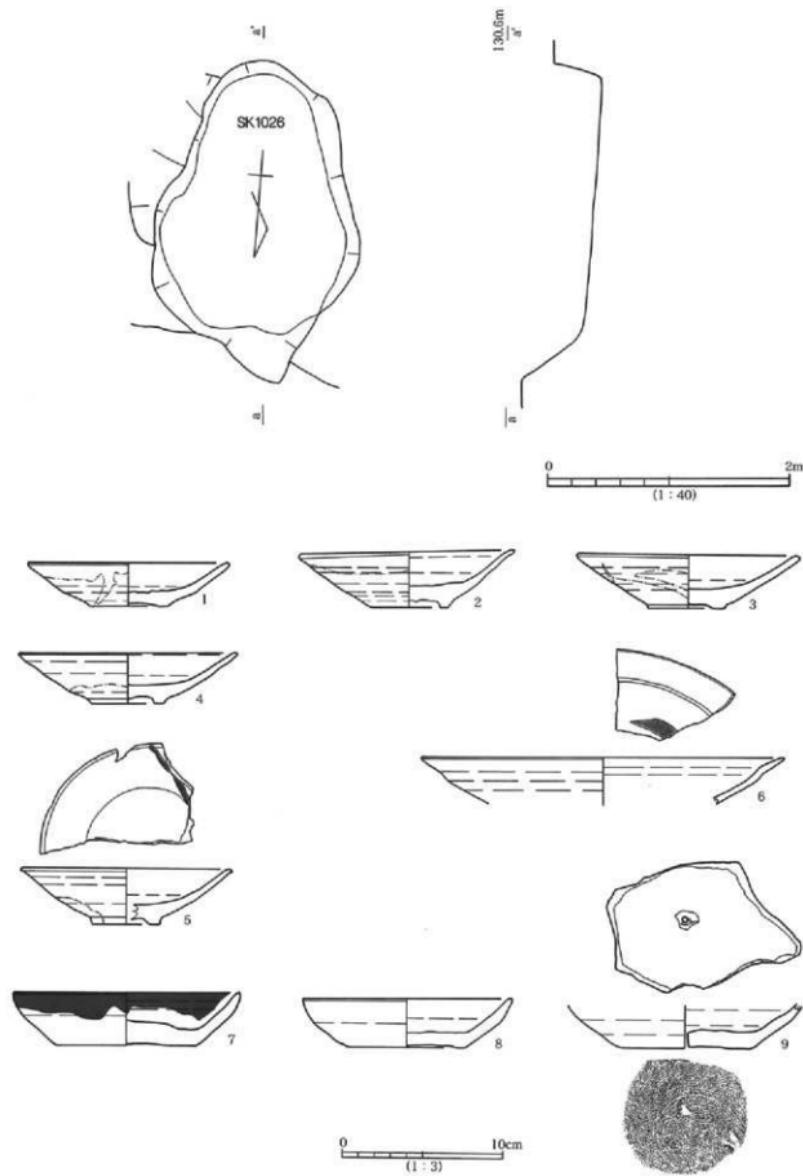


第14図 SK0045

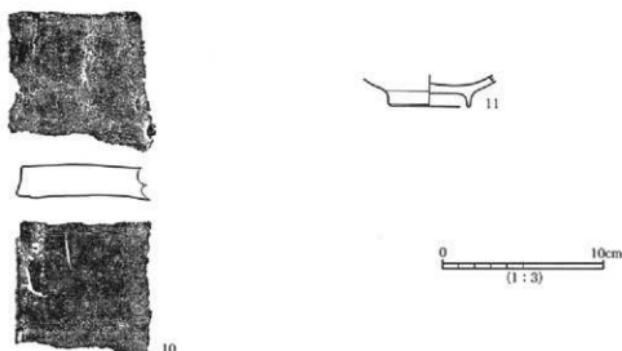


第15図 SK1005

IV 検出された遺構と遺物



第16図 SK1026 (1)



第17図 SK1026 (2)

出土遺物 肥前系陶磁器は破片資料が多く図化していないものが多い。他に黒瓦の破片が3点ある。

年代 肥前系磁器は11などの高台断面三角形の製品が出土しているので、III期であろう。

SK1072

位置 8-1 1グリッド。

規模 全長3.94m、幅0.74m、検出面からの深さ0.74m。

形態 平面形態は緩やかな弧状を呈する構である。断面形態は逆台形である。北西端から距離約1.2m離れた場所に、底面から検出面近くまでの高さで人頭大の自然礫や五輪塔を積み上げた石積みの施設がある。また、南東部にも約1.6m×0.8mの範囲に礫が広がっている。土層の堆積状況は混入物を多く含み、一括埋土であると思われる。五輪塔は中世の所産と考えられるが、本遺構を構築する際に石組に転用されたのであろう。遺構の性格は不明である。

出土遺物 土器・陶磁器類は図化資料以外に出土したものはない。黒瓦は掲載資料を含めて108点出土した。

年代 陶磁器類などの年代決定資料に乏しいが、肥前系磁器が出土していないことから17世紀前半であろうか。

SK1086

位置 8-11～8-12グリッド。

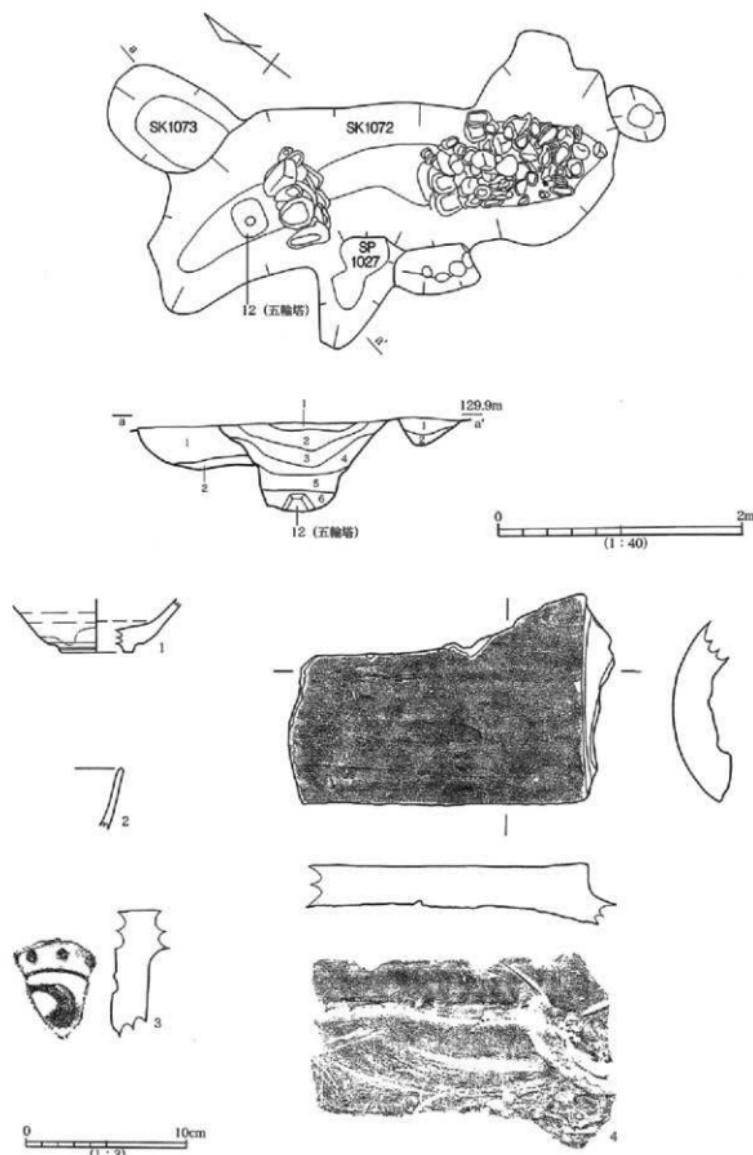
規模 幅0.65m、検出面からの深さ0.09m。

形態 溝状の遺構であるが土坑として登録した。調査期間の関係で南側を完掘することができなかった。南北に長い溝状を呈し、やや蛇行する。底面は平坦で浅い。

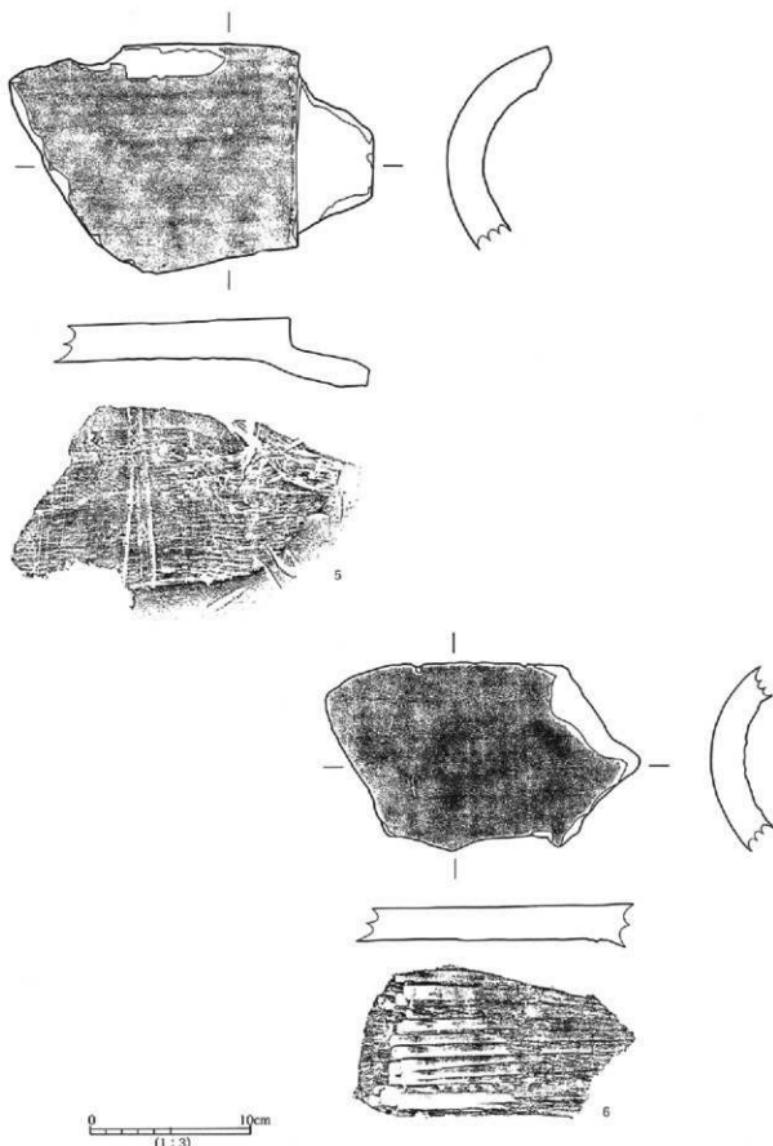
出土遺物 図化資料以外に肥前系磁器の色絵瓶や瀬戸美濃系陶器、肥前系陶器皿がある。

年代 瀬戸美濃の大窯第1段階から肥前系磁器の色絵までと出土遺物の年代幅が広い。最終的な埋没年代は出土した肥前系磁器より17世紀半ば以降であろう。

IV 検出された造構と遺物

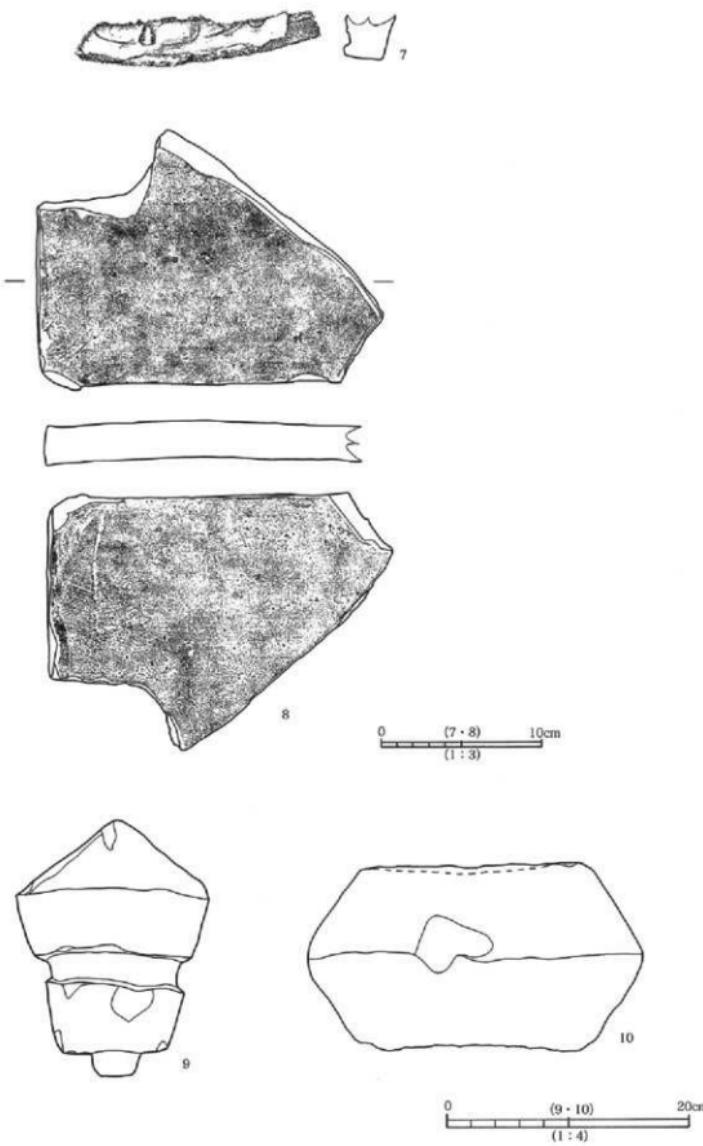


第18図 SK1072 (1)



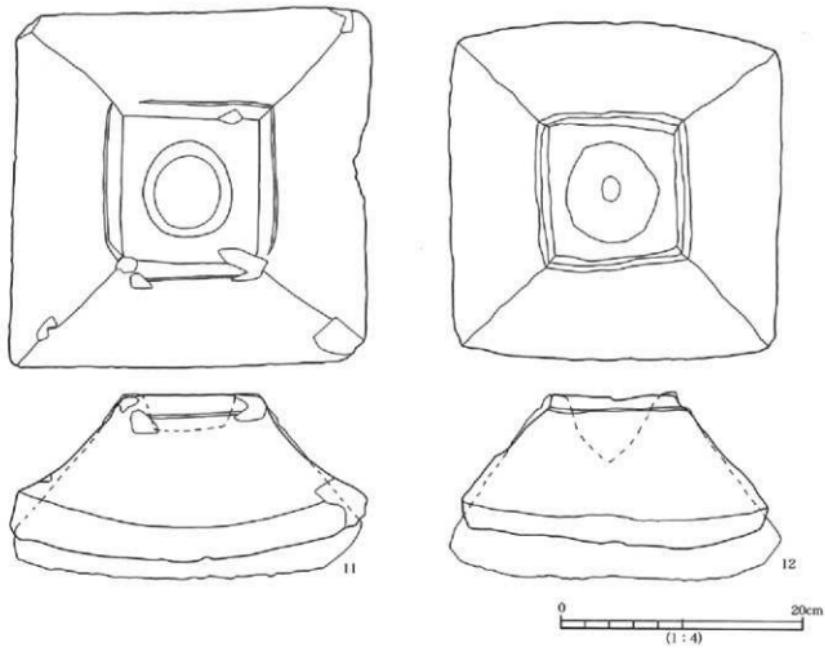
第19図 SK1072 (2)

IV 検出された遺構と遺物

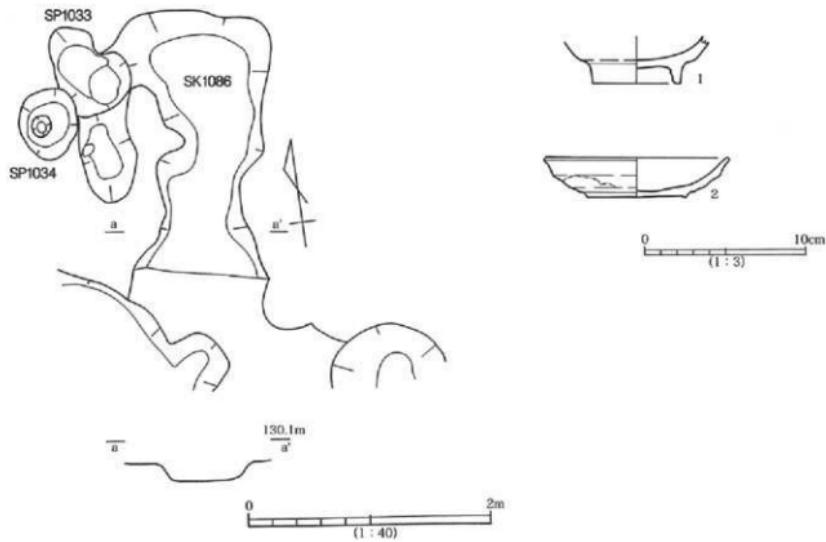


第20図 SK1072 (3)

IV 検出された遺構と遺物



第21図 SK1072 (4)



第22図 SK1086

IV 検出された遺構と遺物

SK1087

位置 9-12 グリッド。

規模 南を SK1088 に切られるのではっきりしないが直径 0.77 m。検出面からの深さ 0.06 m。

形態 平面形態はほぼ円形を呈する。底面は平坦で壁面は緩やかに立ち上がる。土層は 1 層のみの一括埋土である。

出土遺物 図化資料以外に出土遺物はない。1 は肥前系陶器皿が 2 個体窯着した資料であり、一種の欠陥商品が流通していることを示す。なお、隣接の SK1088、SK1089、SK1090 は出土遺物がない。

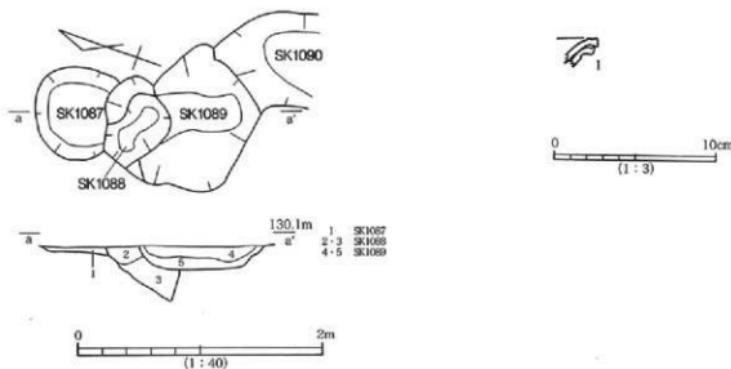
年代 1 より 17 世紀前半ころであろう。

SK1112

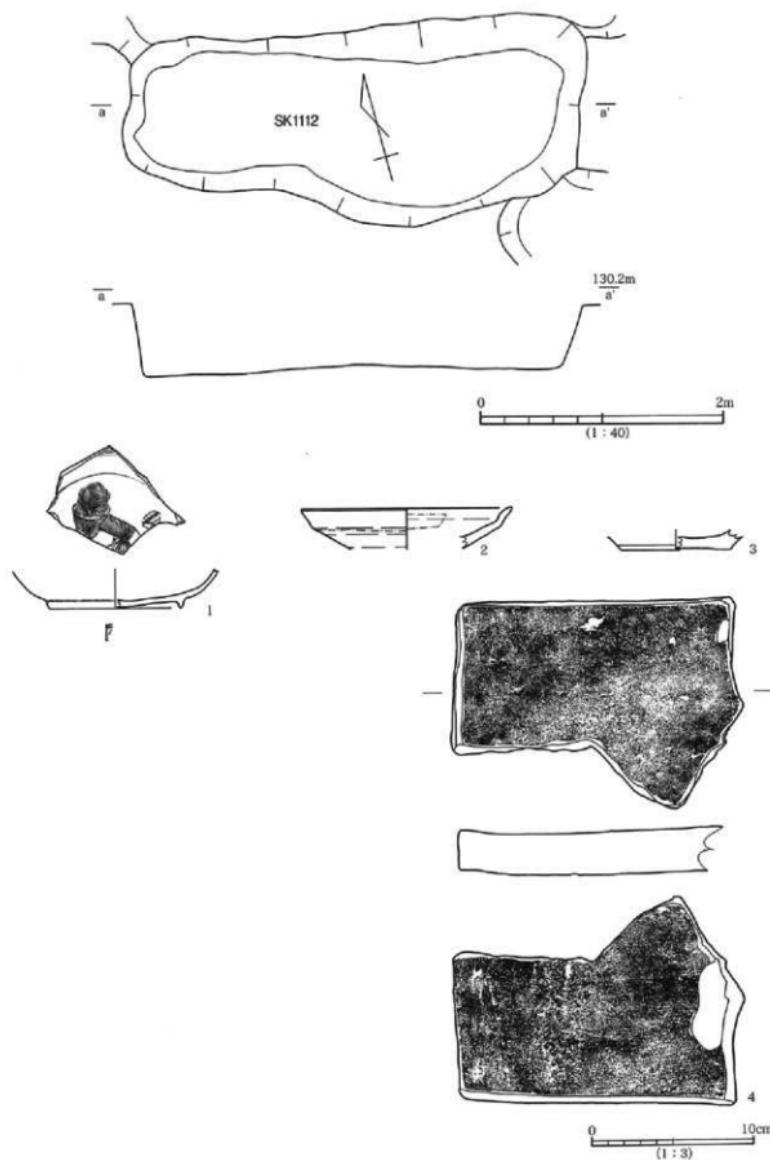
位置 9-11 グリッド。

規模 長軸 3.71 m、短軸 1.55 m、検出面からの深さ 0.41 m。

形態 平面形態は東西に長い隅丸方形を呈する。底面は平坦で壁面はほぼ垂直に立ち上がる。調査期間の関係で土層の観察することができなかった。土器・陶磁器などの廃棄土坑であろうか。



第23図 SK1087



第24図 SK1112

IV 検出された遺構と遺物

出土遺物 固化資料以外では津洲窯系磁器、ロクロかわらけが各 1 点ある。

年代 出土遺物は少ないが、肥前系磁器が出土していないことから I 期であろう。

SK1114・SK1115

位置 8-12 グリッド。

規模 SK1114 推定長軸約 1.4 m、推定短軸 1.2 m、検出面からの深さ 0.60 m。

SK1115 長軸 1.73 m、短軸 1.40 m、検出面からの深さ 0.58 m。

形態 SK1114 は平面形態がかなりくずれた円形を呈する。底面はやや起伏を帯びて北側が深く南側が浅い。壁面は北面が急角度に立ちあがり、南面は 1 段平坦面を作り立ち上がる。土層は地山由来と思われる混入物が多く、一括埋土と思われる。SK1115 は平面形態がほぼ円形を呈する。底面はやや起伏を帯び南側が最も深く北側が浅い。壁面は急に立ち上がる。SK1114 と同様に一括埋土と思われる。ともに土器・陶磁器などの廃棄土坑であろうか。

出土遺物 両遺構とともに肥前系磁器や黒瓦は破片資料が多く固化していないものも多い。肥前系磁器に一重網目文碗などがある。他に SK1114 からは景德鎮窯系磁器碗や砂目の肥前系陶器皿が出土している。

年代 SK1114 は 17 世紀半ば、SK1115 は 17 世紀後半であろう。

SK1118

位置 11-12 グリッド。

規模 長軸 2.40 m、短軸 0.90 m、検出面からの深さ 0.32 m。

形態 平面形態は東西に長い隅丸方形を呈する。底面は緩やかな擂鉢状で、壁面はやや急に立ち上がる。土層は混入物が多く一括埋土と思われる。

出土遺物 固化資料以外では肥前系陶器皿が 1 点あるのみである。

年代 出土遺物は少ないが、1 より 17 世紀前半ころであろうか。

SK1143

位置 8-12 ~ 9-12 グリッド。

規模 長軸 2.12 m、短軸 1.23 m、検出面からの深さ 0.40 m。

形態 平面形態はかなりくずれた隅丸方形を呈する。底面は北側が深く、南側が浅くテラス状になっている。土層は混入物が多く一括埋土と思われる。また、焼土と思われる赤褐色土粒を含む。

出土遺物 破片資料が多く固化し得なかつたものが多い。肥前系陶磁器、ロクロかわらけ、黒瓦などがある。

年代 肥前系磁器が初期伊万里と高台断面三角形の製品で構成されるので、III 期であろう。

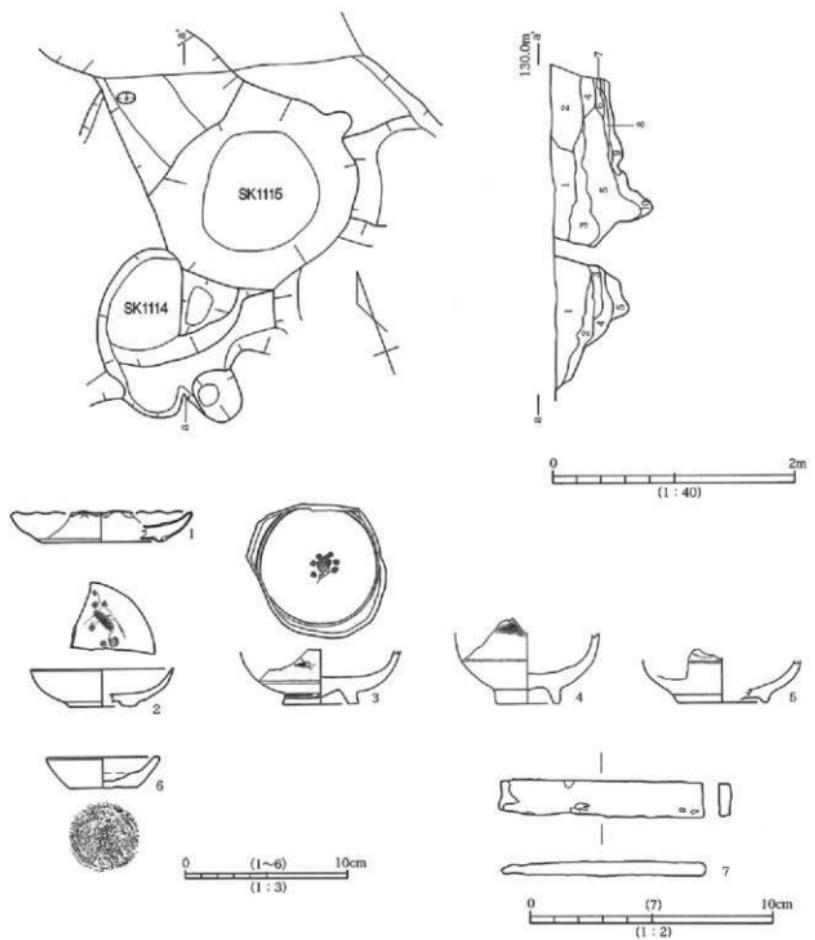
SK1180

位置 10-12 グリッド。

規模 長軸 1.47 m、短軸 1.39 m、検出面からの深さ 0.25 m。

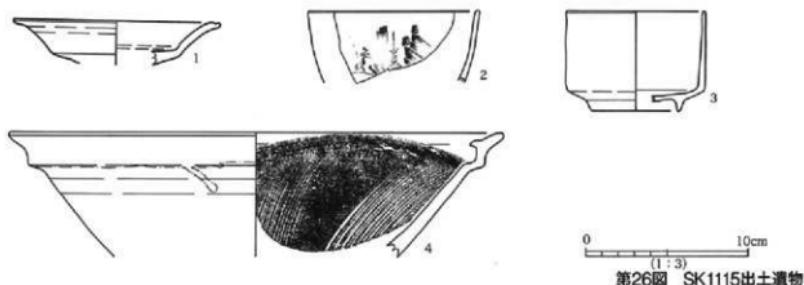
形態 平面形態は不整形である。底面はおおよそ平坦で、壁面は緩やかに立ち上がる。土器・陶磁器などの廃棄土坑であろうか。

出土遺物 固化資料以外では、肥前系磁器が 3 片のみ出土している。

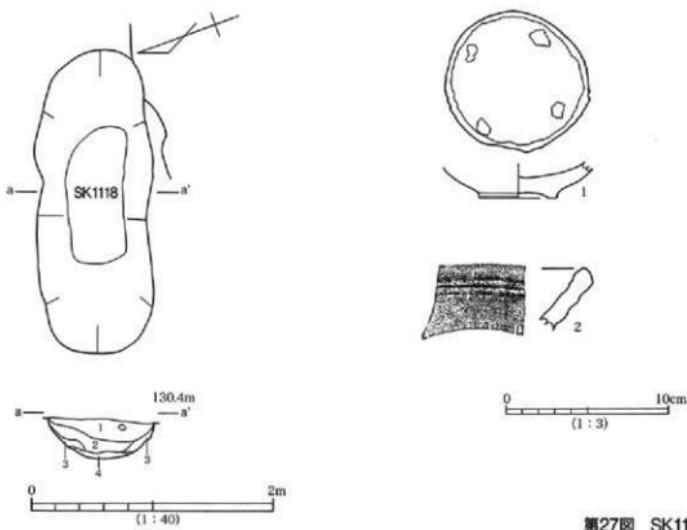


第25図 SK1114・SK1115

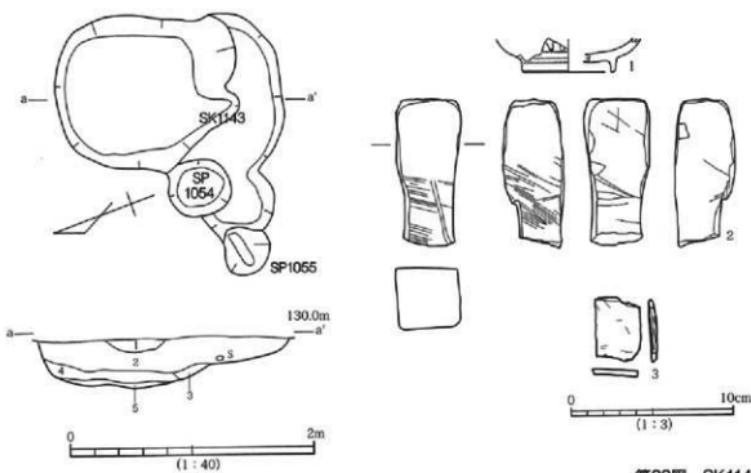
IV 検出された遺構と遺物



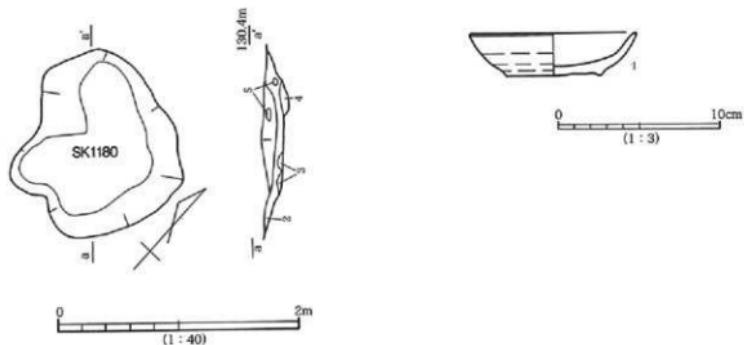
第26図 SK1115出土遺物



第27図 SK1118



第28図 SK1143



第29図 SK1180

IV 検出された遺構と遺物

年代 出土遺物の年代幅があるが、図化していない肥前系磁器より最終的な埋没年代は17世紀半ば以前であろう。

SK1195

位置 9-13グリッド。

規模 長軸1.40m、短軸0.65m、検出面からの深さ0.30m。

形態 平面形態は南北に長いくずれた隅丸方形を呈する。底面は中央が最も深くやや起伏を帶びる。壁面は急に立ち上がる。土層は砂粒を多く、最下層の3層は礫を含んでいる。水性堆積の可能性がある。

出土遺物 図化資料以外に出土遺物はない。

年代 出土資料が少ないが、Iより17世紀前半から半ばころであろう。

SK1252

位置 11-13グリッド。

規模 残存長軸3.70m、検出面からの深さ0.17m。

形態 SD1064に切られているので全体の形状は不明である。北東部がコーナーのように検出されているので、平面形態は隅丸方形を呈する可能性がある。底面は平坦であり、壁面は緩やかに立ち上がる。土層は1層で混入物が多いので一括埋土であろう。

出土遺物 図化資料以外では肥前系陶器皿1片と古代の土師器・須恵器片がある。

年代 出土遺物は少ないが肥前系磁器を含まないので、I期であろう。

SK1260

位置 9-12グリッド。

規模 長軸5.88m、短軸3.72m、検出面からの深さ0.29m。

形態 平面形態は南北に長いかなりくずれた梢円形を呈する。底面はやや起伏を帶び、壁面は緩やかに立ち上がる。土層に炭化物、焼土及び地山由来と思われるブロックを含むので、火災処理土坑の可能性がある。

出土遺物 図化資料以外に志野丸皿、肥前系陶器皿、黒瓦、石製塔塼などがある。

年代 肥前系磁器を含まないことから、I期であろう。

SK1262

位置 12-13グリッド。

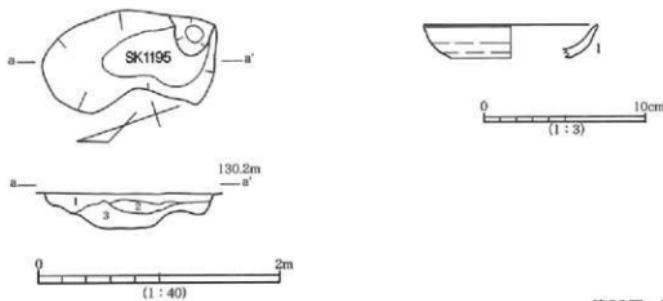
規模 長軸4.29m、短軸2.27m、検出面からの深さ0.19m。

形態 平面形態は不整形である。底面はやや起伏を帶びながら壁面へ向かって緩やかに立ち上がる。北側にあるSK1529との切りあいは不明である。

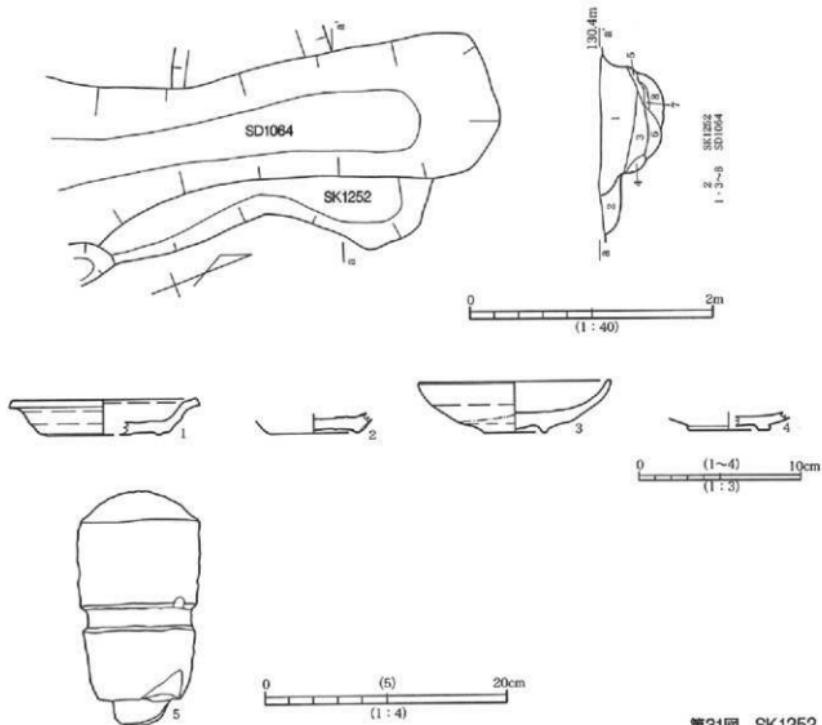
出土遺物 図化資料以外には、黒瓦やロクロかわらけの破片がある。

年代 出土遺物は少ないが、肥前系磁器が初期伊万里で構成されるのでII期であろう。

IV 検出された遺構と遺物

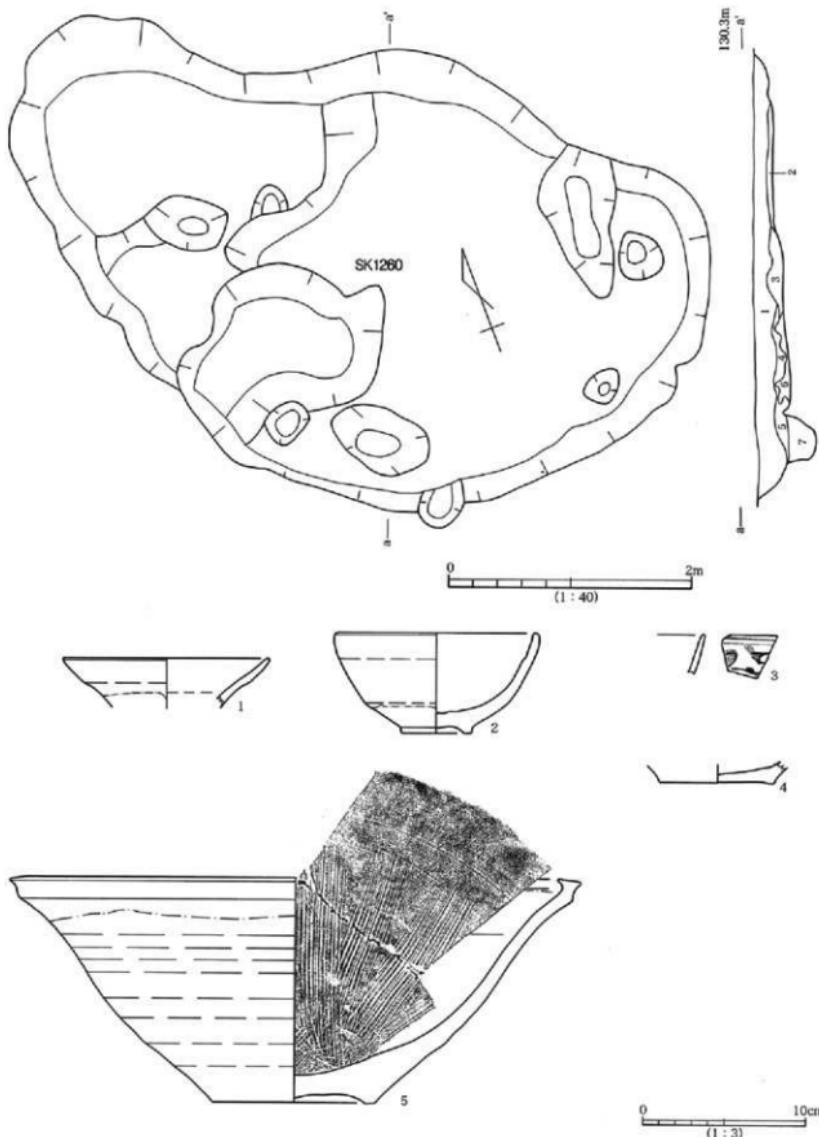


第30図 SK1195

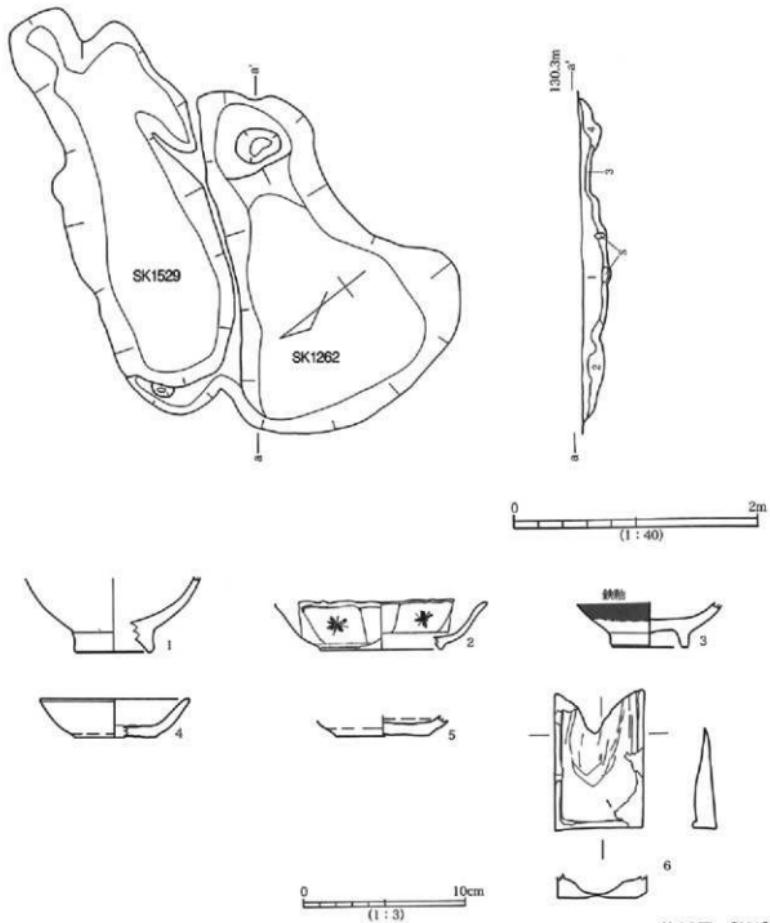


第31図 SK1252

IV 検出された遺構と遺物

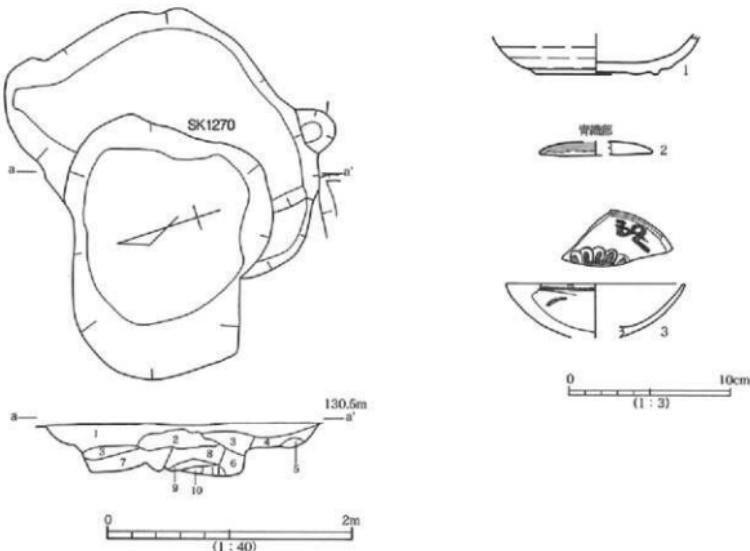


第32図 SK1260



第33図 SK1262

IV 検出された遺構と遺物



第34図 SK1270

SK1270

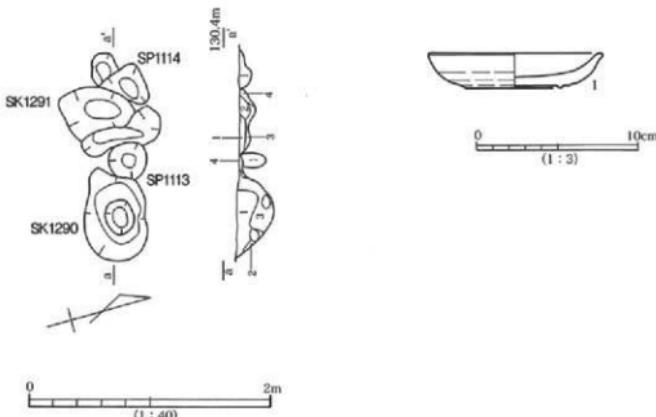
位 置 10-12~10-13 グリッド。

規 模 長軸 2.49 m、短軸 2.05 m、検出面からの深さ 0.29 m。

形 態 平面形態はかなりくずれた隅丸方形を呈する。遺構の西側が深くなっている。東側は西側より一段高くテラス状になっている。土層は地山由来と思われるブロックを中心に混入物が多く、一括埋土と思われる。土器・陶磁器などの廃棄土坑であろうか。

出土遺物 図化資料以外には、肥前系陶器皿と石鉢が各 1 点出土している。

年 代 出土遺物は少ないが、肥前系磁器を含まないことから I 期であろう。



第35図 SK1290

SK1290

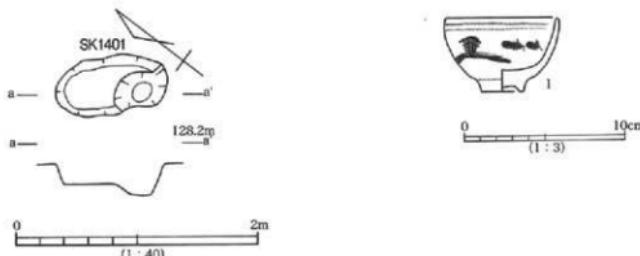
位 置 10-13 グリッド。

規 模 長軸 0.68 m、短軸 0.50 m、検出面からの深さ 0.30 m。

形 態 平面形態は隅丸方形を呈する。断面形態は擂鉢状を呈する。底面の面積は狭い。1は灯明皿として使用された陶器であるが、このための埋設土坑であると思われる。

出土遺物 図化資料のみである。

年 代 1より16世紀末から17世紀初頭であろう。



第36図 SK1401

SK1401

位 置 3-17 グリッド。

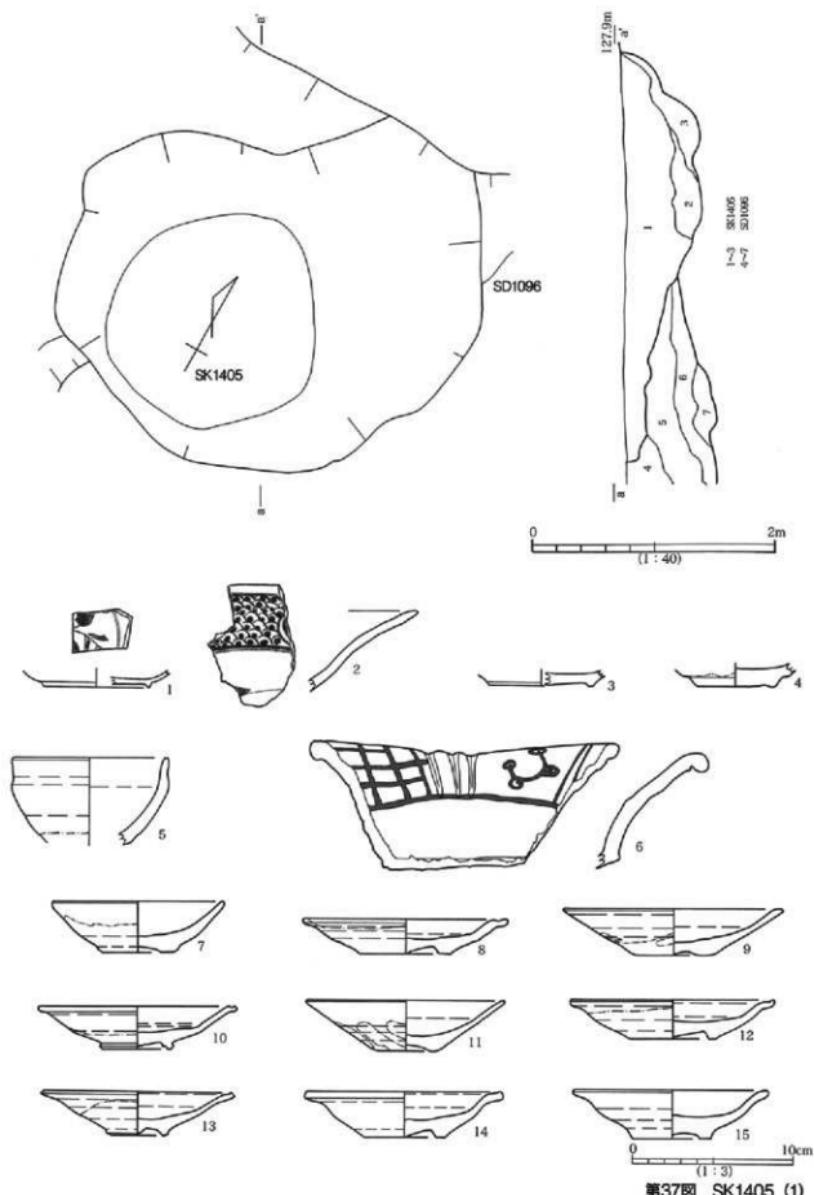
規 模 長軸 0.92 m、短軸 0.47 m、検出面からの深さ 0.17 m。

形 態 平面形態は北西から南東に長い梢円形を呈する。底面は南側が最も深く、北側が1段高くなっている。壁面は急に立ち上がる。調査期間の関係で土層の観察をすることができなかった。1のための埋設土坑であると思われる。

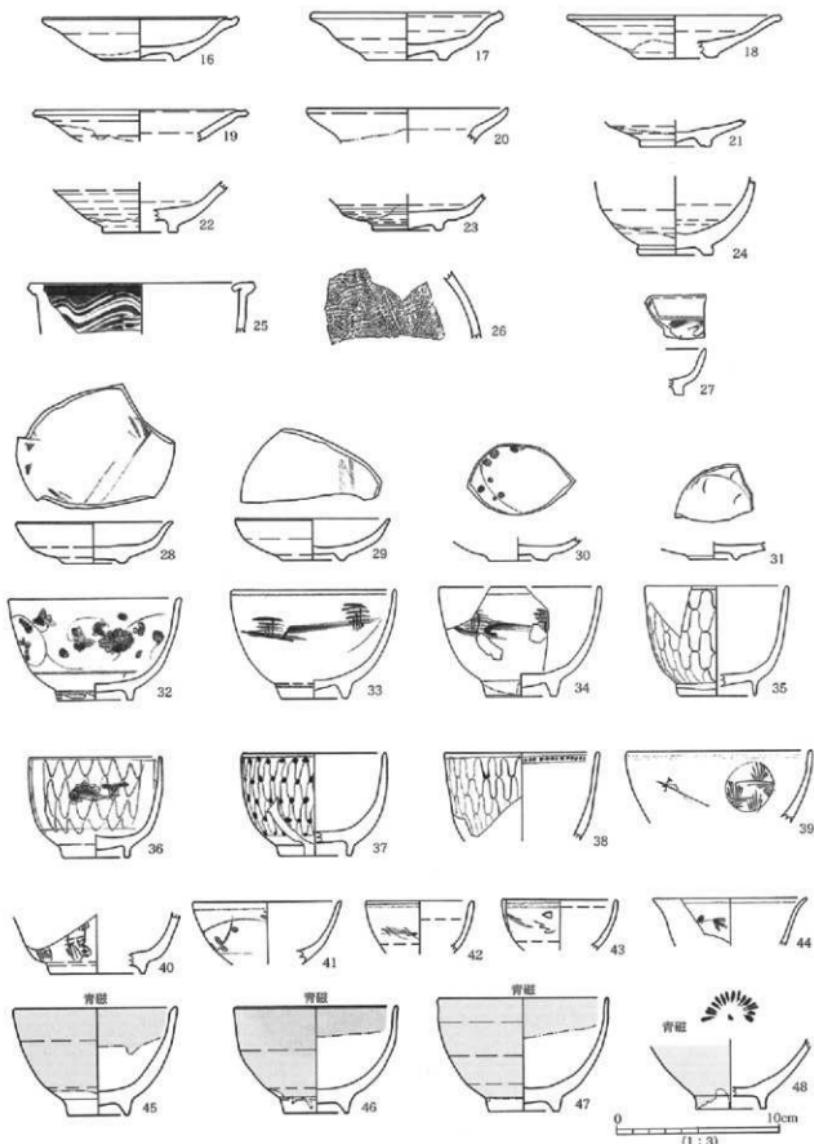
出土遺物 図化資料のみである。

年 代 1より、17世紀半ばであろう。

IV 検出された遺構と遺物

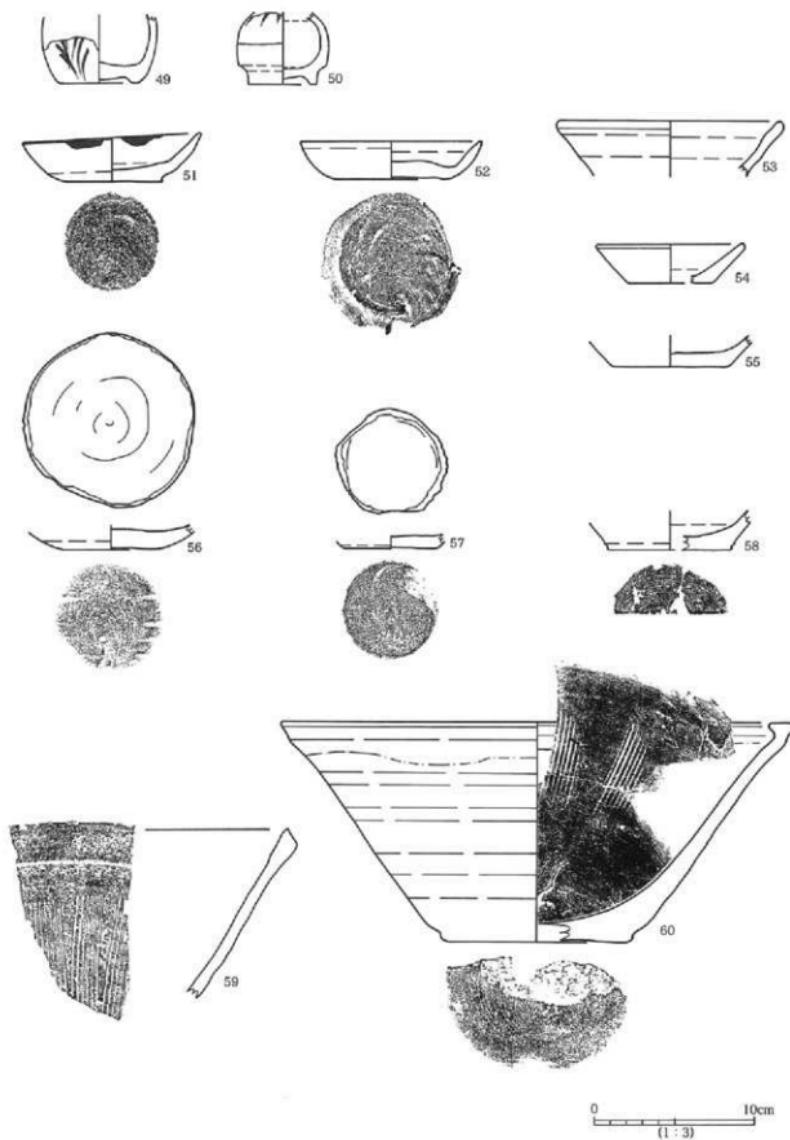


第37図 SK1405 (1)

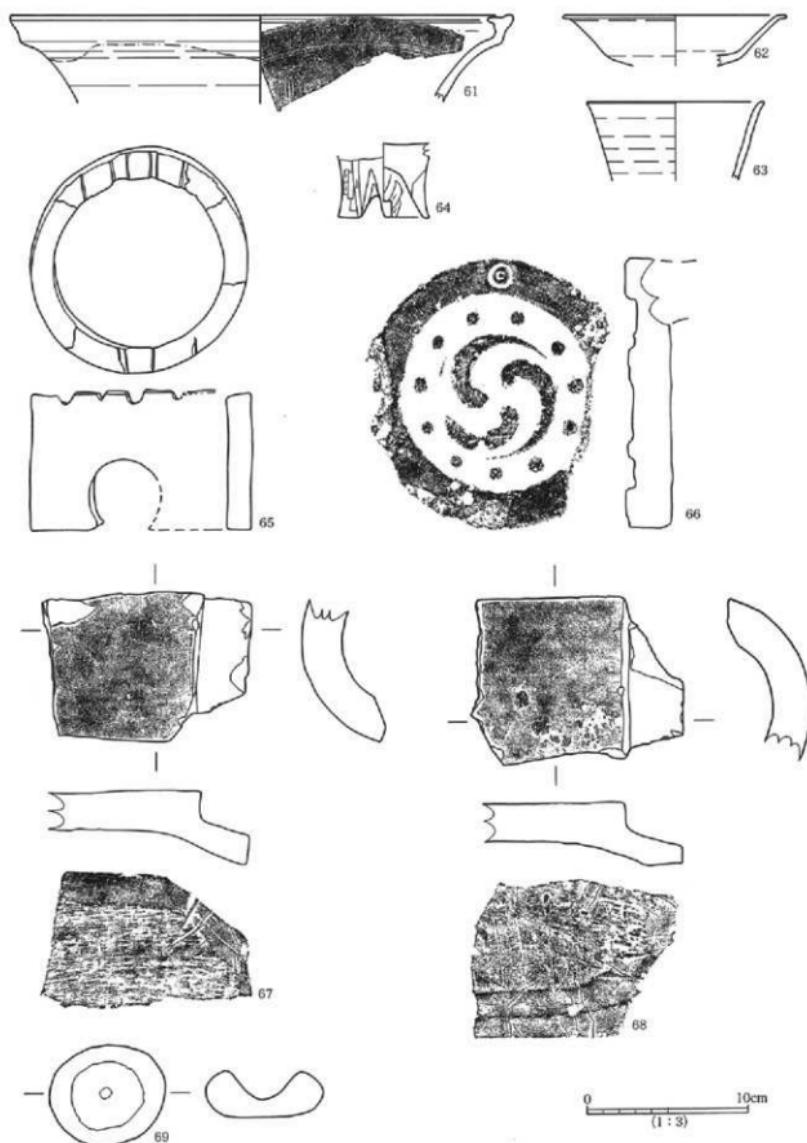


第38図 SK1405 (2)

IV 検出された遺構と遺物

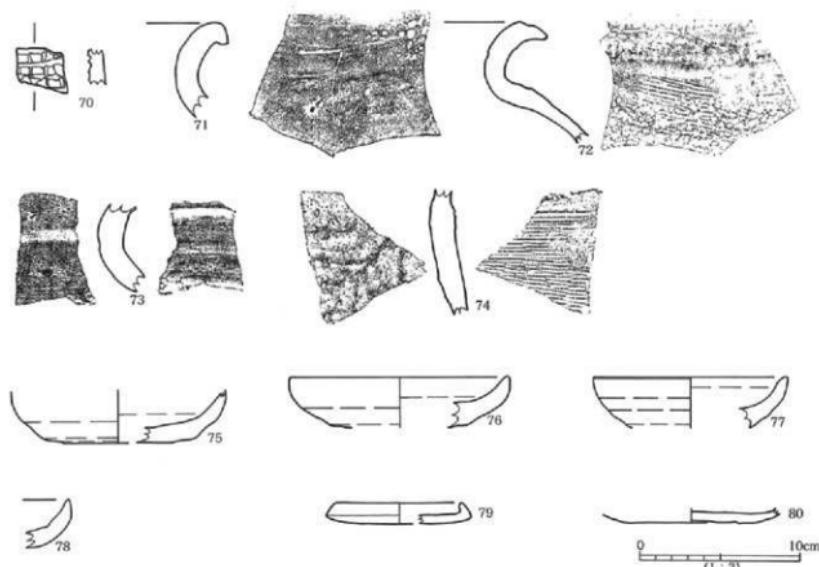


第39図 SK1405 (3)



第40図 SK1405 (4)

IV 検出された遺構と遺物



第41図 SK1405 (5)

SK1405

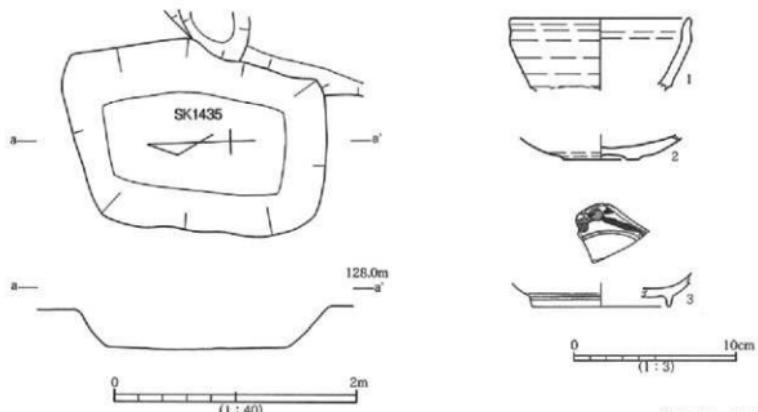
位 置 3-17 グリッド。

規 模 長軸 3.36 m、短軸 3.10 m、検出面からの深さ 0.62 m。

形 態 平面形態はややくずれた円形を呈する。底面はやや起伏を帶び、壁面は緩やかに立ち上がる。SD1096 を切る。土層は礫や地山由来のブロックなどの混入物が多く、一括埋土と思われる。出土遺物が非常に多く、土器・陶磁器などの廃棄土坑であろう。

出土遺物 出土遺物は非常に多く、図化したものだけでも 80 点ある。そのほか破片資料など、多くは図化しなかった。また、古代、中世の遺物も多く含んでいる。古代、中世の遺構を破壊して本遺構が構築され、埋没したのであろう。なお、中世の遺物はある程度の年代のまとまりがあり、図化できたものは掲載した (70 ~ 80)。

年 代 肥前系磁器は初期伊万里と高台断面三角形の製品で構成されるので、III期である。中世の遺物は、古瀬戸前期と思われる卸皿や、珠洲系陶器のII期と思われる甕が出土していること、ロクロかわらけと手づくねかわらけの両方が出土していることから、およそ 13 世紀の年代が与えられる。



第42図 SK1435

SK1435

位 置 4-14 グリッド。

規 模 長軸 2.11 m、短軸 1.53 m、検出面からの深さ 0.32 m。

形 態 平面形態は南北に長い隅丸方形を呈する。底面は平坦で壁面はやや急に立ち上がる。調査期間の関係で土層の観察をすることはできなかった。

出土遺物 固化資料以外では古代の土師器、須恵器が混入しているのみである。

年 代 濑戸美濃の大窯第4段階から肥前系磁器の高台断面U字状の製品と出土遺物の年代幅が広く決定しがたい。最終的な埋没年代は 17世紀後半から 18世紀前半であろう。

SK1468

位 置 4-14 グリッド。

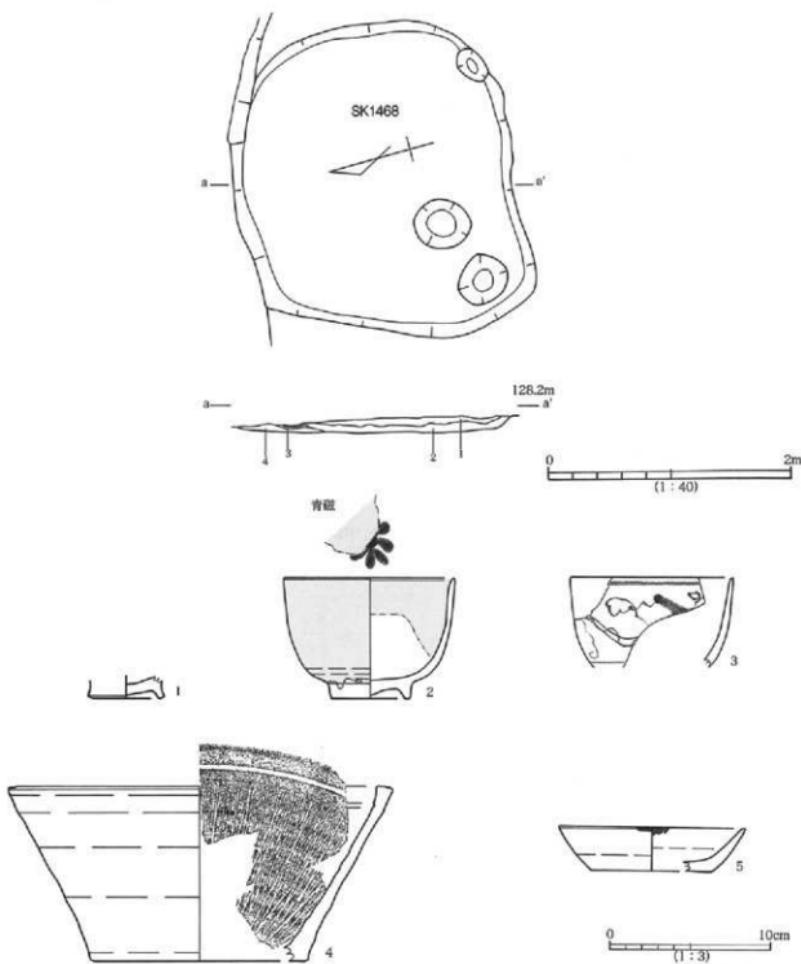
規 模 長軸 2.11 m、短軸 1.53 m、検出面からの深さ 0.32 m。

形 態 平面形態は隅丸方形を呈する。底面は概ね平坦であるが、南西側に小さなくぼみが 2ヶ所存在する。壁面は緩やかに立ち上がるが、南側が北側に比べてやや急である。土層の堆積状況は 2層から 4層にかけて炭化物が混入しており、一括埋土と思われる。

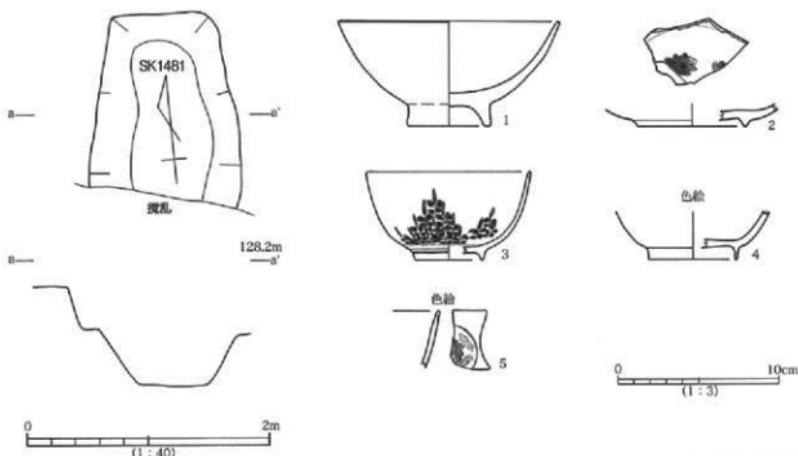
出土遺物 固化資料以外では古代の土師器、須恵器が混入しているのみである。

年 代 出土遺物が少ないが、2や3より 17世紀半ばであろう。

IV 検出された遺構と遺物



第43図 SK1468



第44図 SK1481

SK1481

位 置 5-15 グリッド。

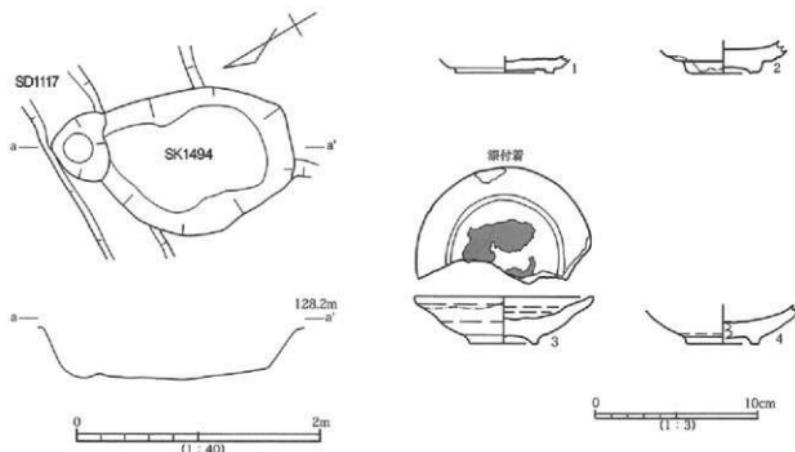
規 模 短軸 1.19 m、検出面からの深さ 0.47 m。

形 態 南側が搅乱に切られており全体の形状はわからないが、平面形態は南北に長い溝状の造構である。底面は概ね平坦であり、壁面は急に立ち上がる。調査期間の関係で土層の観察をすることができなかつた。

出土遺物 固化資料以外では、肥前系陶器皿や肥前系磁器の一重網目文碗などがある。なお、被熱したヒトの頭蓋骨が出土している。

年 代 出土遺物は少ないが、3より 17 世紀後半から 18 世紀初頭であろう。

IV 検出された遺構と遺物



第45図 SK1494

SK1494

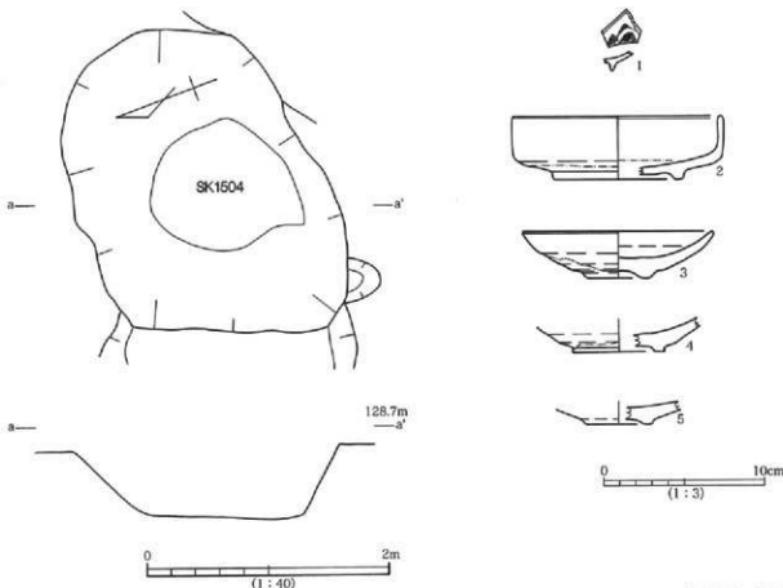
位 置 7-13 グリッド。

規 模 長軸 1.68 m、短軸 1.19 m、検出面からの深さ 0.36 m。

形 態 平面形態は南北に長い梢円形を呈する。底面は平坦であり、壁面は急に立ち上がる。調査期間の関係で土層の観察をすることができなかった。

出土遺物 図化資料以外では、肥前系陶器皿が 1 点と古代の土師器、須恵器が混入しているのみである。

年 代 出土資料は少ないが肥前系磁器が出土していないことから、I 期であろう。



第46図 SK1504

SK1504

位 置 8-13 グリッド。

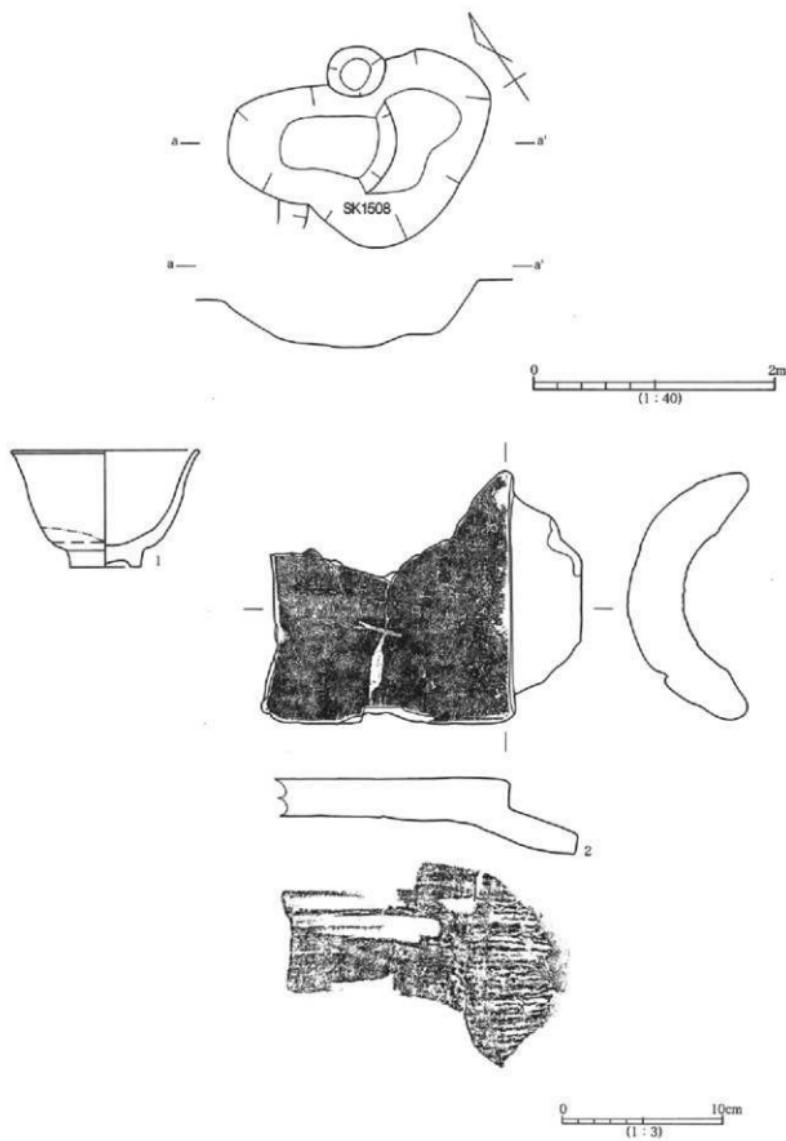
規 模 長軸 2.52 m、短軸 1.98 m、検出面からの深さ 0.54 m。

形 態 平面形態はくずれた円形を呈する。底面は平坦で、壁面は南側が急に、北側はやや緩やかに立ち上がる。調査期間の関係で土層の観察をすることができなかった。

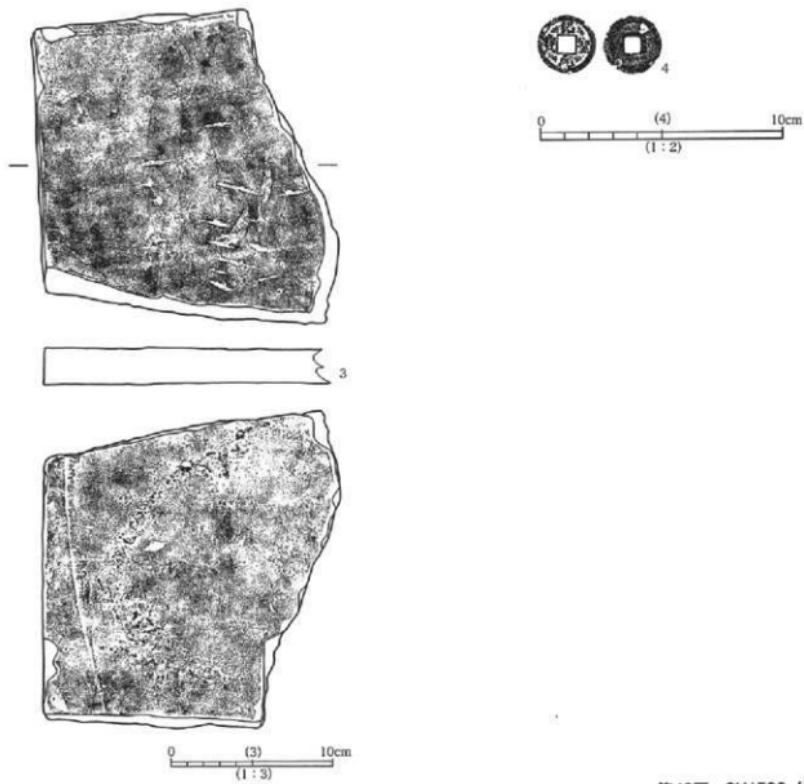
出土遺物 固化資料以外では、瀬戸美濃系陶器瓶、肥前系陶器叩き壺、黒瓦などが出土している。

年 代 出土遺物は少ないが肥前系磁器が出土していないことから、Ⅰ期であろう。

IV 検出された遺構と遺物



第47図 SK1508 (1)



第48図 SK1508 (2)

SK1508

位 置 9-13 グリッド。

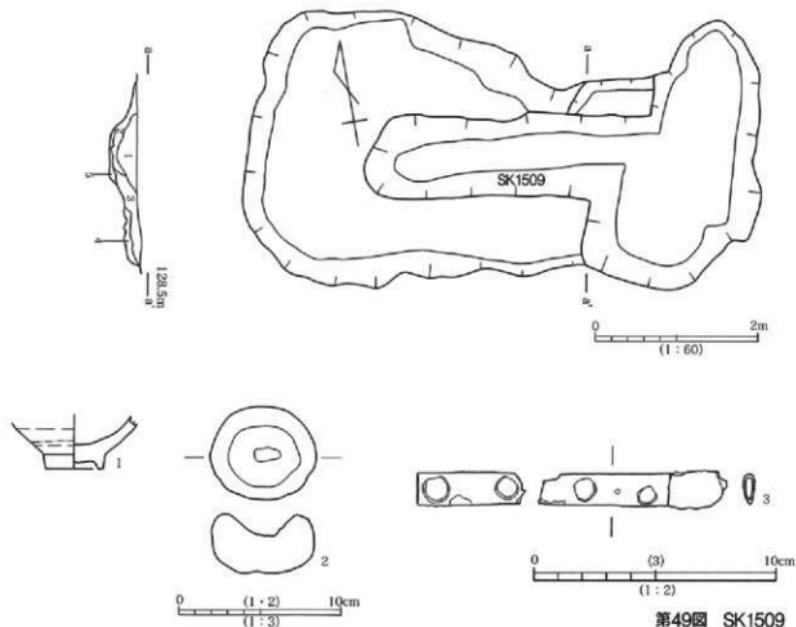
規 模 長軸 2.19 m、短軸 1.51 m、検出面からの深さ 0.32 m。

形 態 平面形態はかなりくずれた梢円形を呈する。底面は西側が最も深く、東側がそれよりわずかに高くなっている。壁面は緩やかに立ち上がる。調査期間の関係で土層の観察はできなかった。

出土遺物 図化資料以外では、黒瓦 2 点が出土しているほか、古代の土師器、須恵器が混入しているのみである。

年 代 陶磁器などの年代決定資料が非常に少ないが、1より 17 世紀前半であろうか。

IV 検出された遺構と遺物



第49図 SK1509

SK1509

位 置 8-14グリッド。

規 模 長軸 6.25 m、短軸 2.24 m、検出面からの深さ 0.39 m。

形 態 平面形態は東西に長く、くずれた方形を呈する。底面は東側が深くなっている。西側は東側より1段高くなっている。土層の堆積状況は2、4、5層は混入物が認められるが1、3層は均質であるので、人為的埋土と自然堆積が交互に繰り返された可能性がある。

出土遺物 図化資料以外では、砥石が出土しているほかは、古代の土師器、須恵器が混入しているのみである。

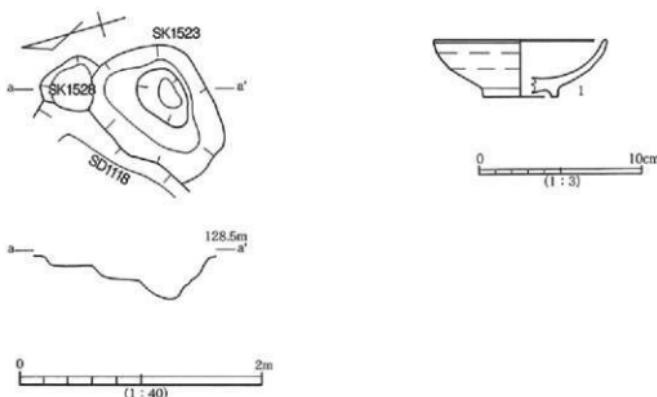
年 代 1より17世紀半ばから末ころであろう。

SK1523

位 置 8-14グリッド。

規 模 長軸 1.17 m、短軸 0.93 m、検出面からの深さ 0.36 m。

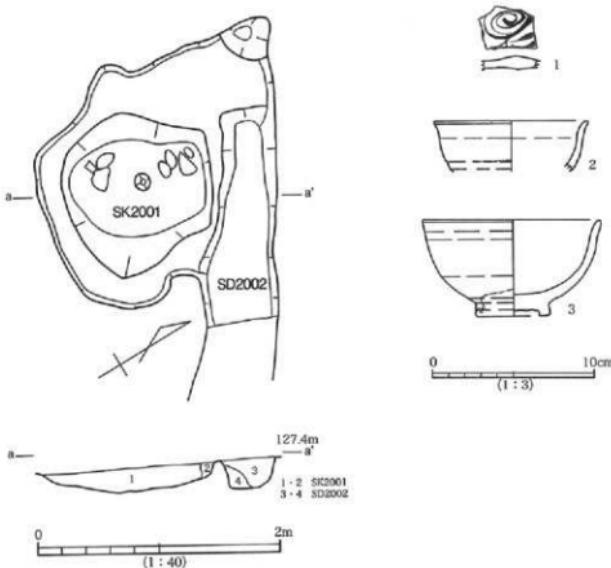
形 態 平面形態はくずれた隅丸方形を呈する。底面は中央に最も深い窪みがありその周りをテラス状に1段平坦面がめぐる。SD1118を切る。SK1528との切り合いは不明である。調査期間の関係で土層の観察をすることができなかった。



第50図 SK1523

出土遺物 図化資料以外では、古代の土師器が1点混入しているのみである。

年 代 不明。



第51図 SK2001

IV 検出された遺構と遺物

SK2001

位置 1-20 グリッド。

規模 長軸 2.71 m、短軸 1.77 m、検出面からの深さ 0.10 m。

形態 平面形態は不整形である。底面はやや起伏を帯び、緩やかに立ち上がる。土層の堆積状況は疊などの混入物が多く一括埋土と思われる。なお出土遺物の 1 は完形であり、なんらかの意図をもって埋められたと推定できる。

出土遺物 図化資料以外では、肥前系陶器皿 1 点出土しているほかは、古代の土師器が混入しているのみである。

年代 出土遺物は少ないものの肥前系磁器が出土していないことから、Ⅰ期であろう。

SK2008

位置 3-22 グリッド。

規模 長軸 2.24 m、短軸 1.29 m、検出面からの深さ 0.82 m。

形態 平面形態はやや不整形な隅丸方形を呈する。底面には拳大から人頭大ほどの礫が不規則に散かれている。南側にテラス状の平坦面が付属する。壁面は急に立ち上がる。土層は自然堆積と思われる。遺構の性格は不明である。

出土遺物 図化資料以外では、古代の土師器、須恵器が混入しているのみである。

年代 出土遺物は少ないが、1 より 17 世紀前半であろう。

SK2020

位置 2-19 グリッド。

規模 長軸 1.05 m、短軸 0.73 m、検出面からの深さ 0.21 m。

形態 調査期間の関係で完掘することができなかった。平面形態は梢円形を呈する。底面は平坦で壁面は急に立ち上がる。土層の堆積状況は、地山由来と思われるブロックや礫を含むことから一括埋土と思われる。

出土遺物 図化資料以外では、肥前系陶器皿と黒瓦各 1 点のみ出土している。

年代 出土遺物が非常に少ないが、1 や図化していない肥前系陶器皿より 17 世紀前半であろう。

SK2092

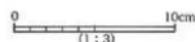
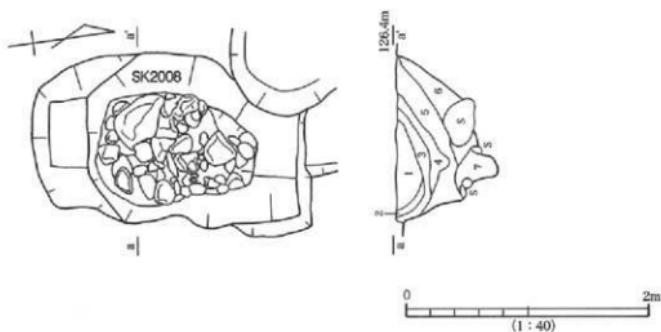
位置 2-20 ~ 3-21 グリッド。

規模 長軸 4.66 m、短軸 3.35 m、検出面からの深さ 0.50 m。

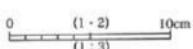
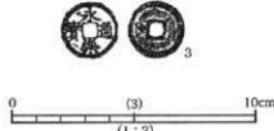
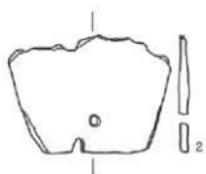
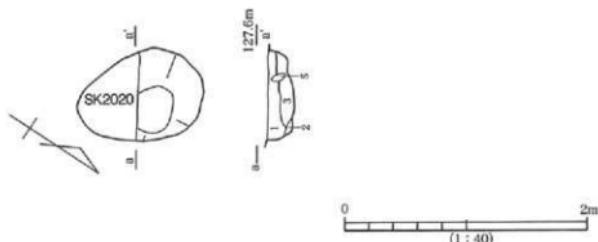
形態 平面形態はくずれた隅丸方形を呈する。底面は南側が最も深く、北側はそれより 1 段高い平坦面を作っている。壁面は緩やかに立ち上がる。土層の堆積状況は 7、8 層は水性堆積土であり、その上層は一括埋土である。土器・陶磁器などの廃棄土坑であると考えられる。

出土遺物 肥前系陶磁器、土師質土器などは破片資料が多く図化し得なかった資料が多い。他に黒瓦が 2 点出土している。また、古代の土師器、須恵器の混入も多い。

年代 肥前系磁器は初期伊万里と高台断面三角形の製品で構成されるので、Ⅲ期である。

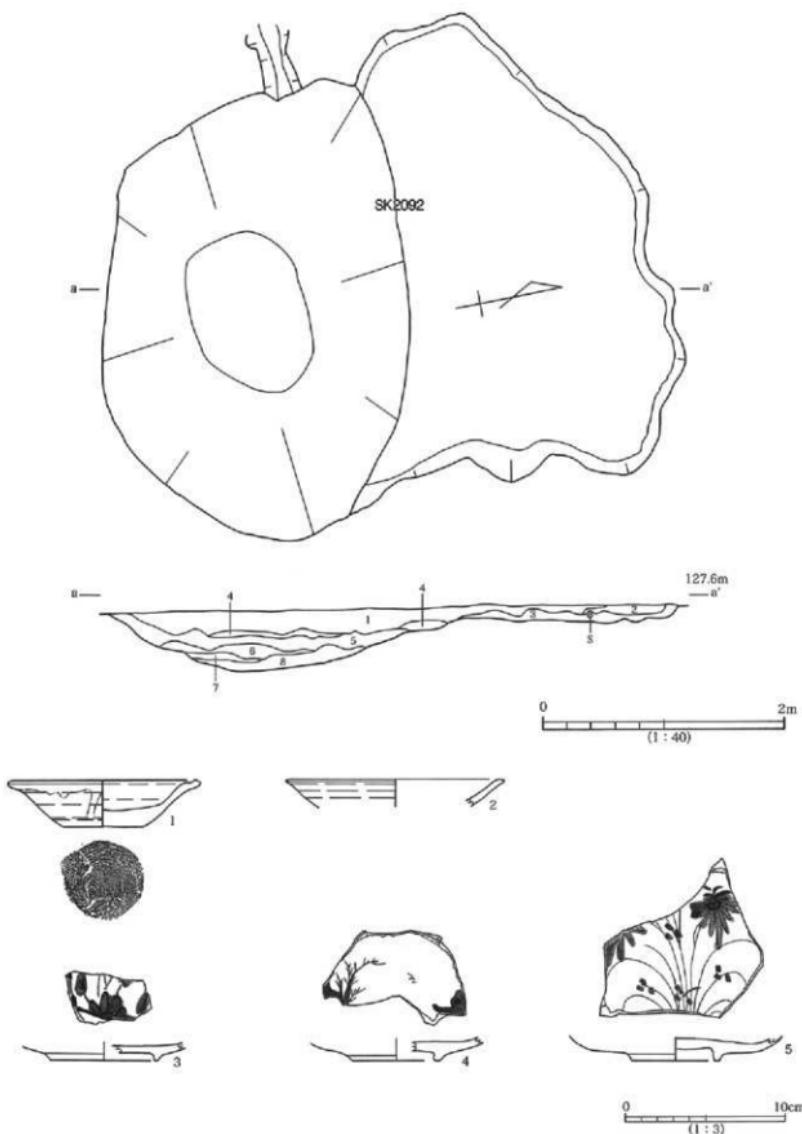


第52図 SK2008

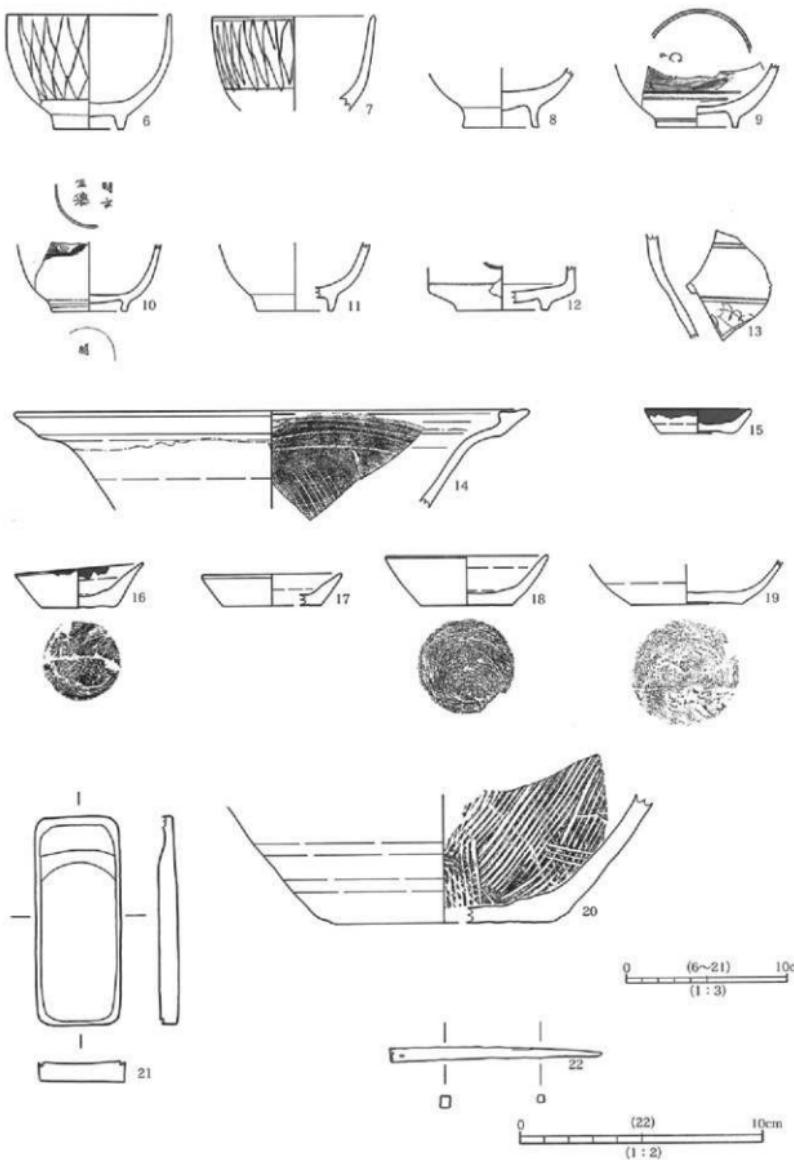


第53図 SK2020

IV 検出された遺構と遺物

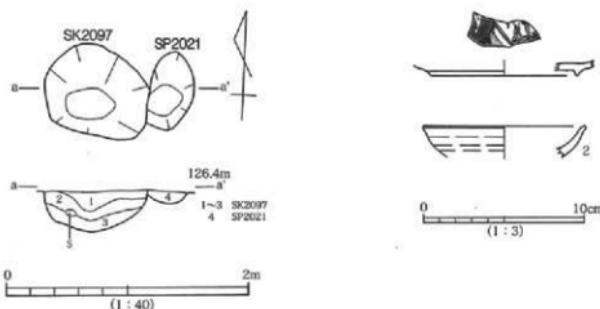


第54図 SK2092 (1)



第55図 SK2092 (2)

IV 検出された遺構と遺物



第56図 SK2097

SK2097

位 置 2-19 グリッド。

規 模 長軸 0.89 m、短軸 0.69 m、検出面からの深さ 0.33 m。

形 態 平面形態は橢円形を呈する。底面は緩やかな播鉢状で壁面は緩やかに立ち上がる。土層の堆積状況は地山由来と思われるブロックを多く含むことから、一括埋土と思われる。SP2021 を切る。

出土遺物 図化資料以外では、瀬戸美濃の長石釉皿や灰釉皿が出土している。また、桜井式併行と思われる外面に線刻のある弥生土器が1片出土している。

年 代 1より17世紀前半であろう。

SK2504

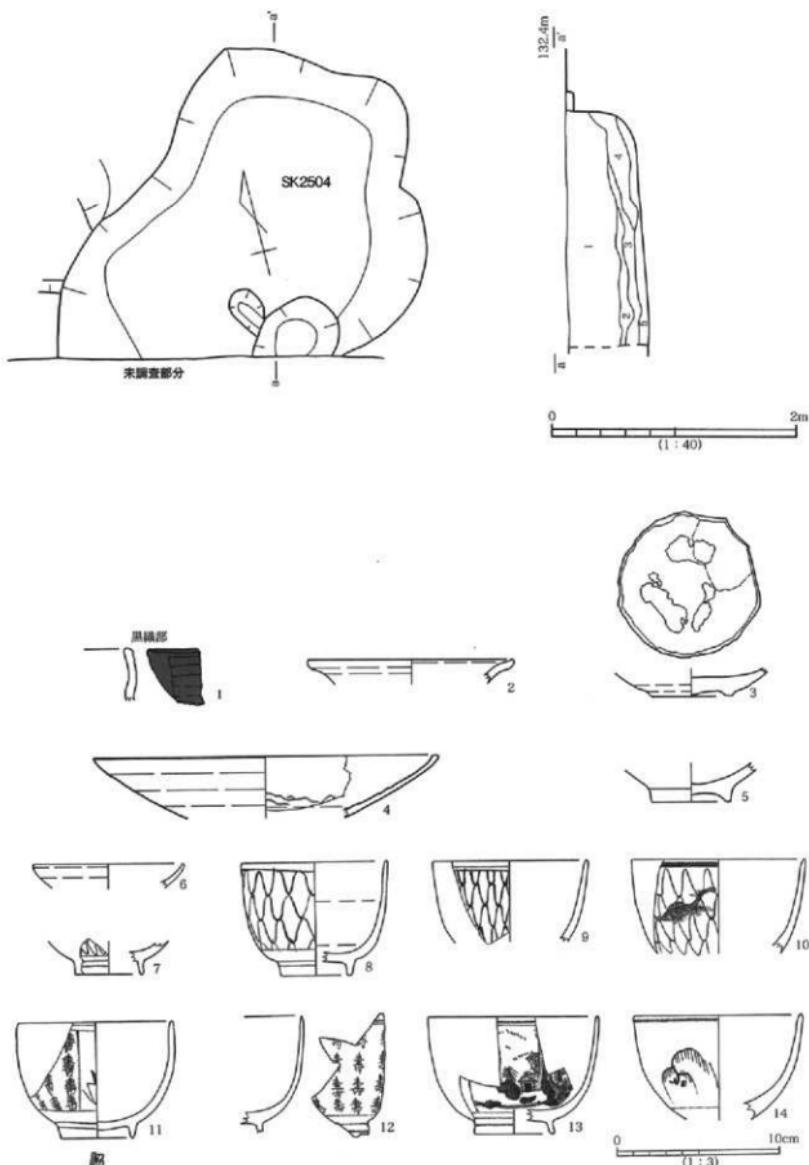
位 置 17-18 グリッド。

規 模 残存長軸 3.50 m、短軸 2.29 m、検出面からの深さ 0.61 m。

形 態 遺構の南側が未調査部分で調査できなかった。平面形態は不整形である。底面は平坦で壁面はほぼ垂直に立ち上がる。土層は一括埋土と思われる。土器・陶磁器などの廃棄土坑であろう。

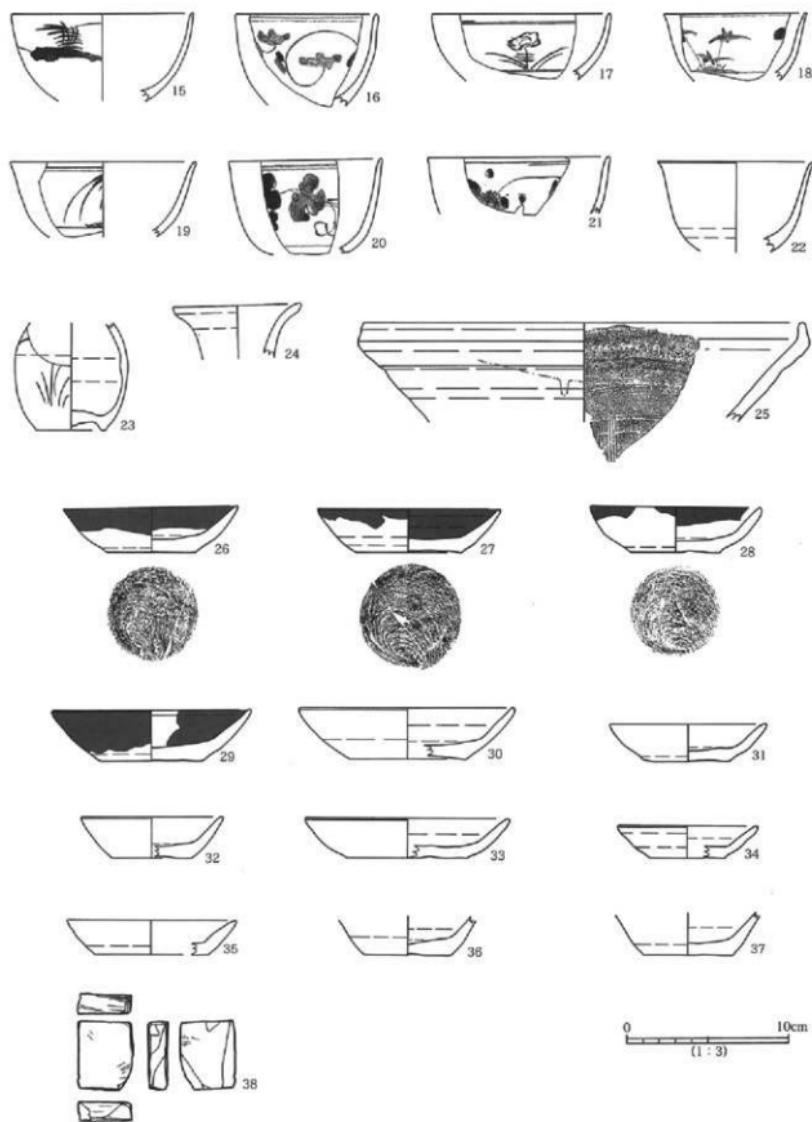
出土遺物 肥前系陶磁器や土師質土器は破片資料が多く、図化し得なかったものが多い。図化資料以外には、瀬戸美濃の大窯および登窯製品や龍泉窯系青磁、景德鎮系磁器、砥石、黒瓦などが出土している。

年 代 肥前系磁器は初期伊万里と高台断面三角形の製品で構成されるので、Ⅲ期である。

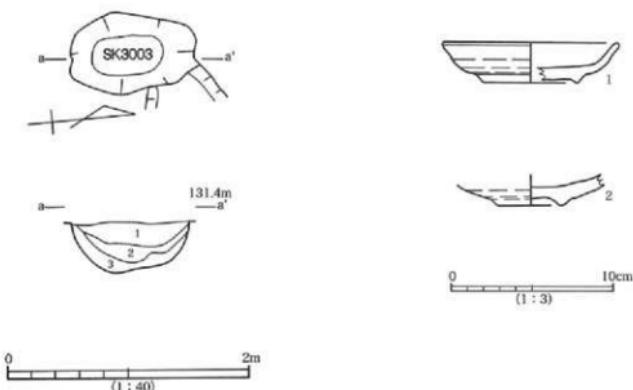


第57図 SK2504 (1)

IV 検出された遺構と遺物



第58図 SK2504 (2)



第59図 SK3003

SK3003

位置 17 - 12 グリッド。

規模 長軸 1.01 m、短軸 0.65 m、検出面からの深さ 0.45 m。

形態 平面形態は南北に長い楕円形を呈する。底面はやや起伏を帶び、壁面は鉢状に立ち上がる。土層の堆積状況は、礫や地山由来と思われるブロックを含むことから一括埋土と思われる。

出土遺物 固化資料以外では、志野丸皿、肥前系陶器皿、景德鎮系磁器皿各 1 点が出土しているのみである。

年代 出土遺物は少ないが、1 や 2 から 16 世紀末から 17 世紀初頭であろう。

SK3046

位置 18 - 14 グリッド。

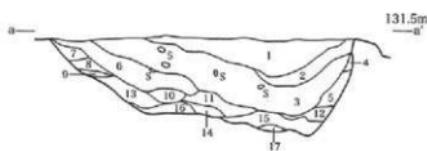
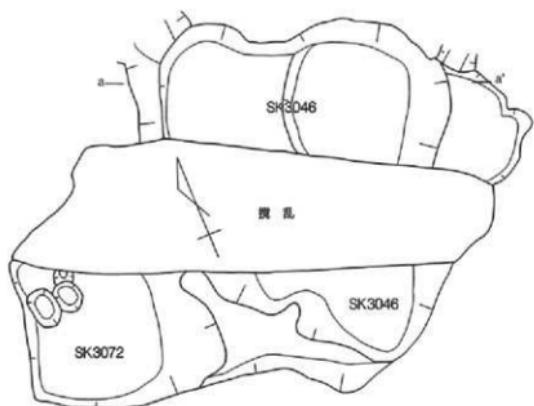
規模 長軸 4.16 m、短軸 3.43 m、検出面からの深さ 1.11 m。

形態 平面形態はかなりくすれた方形を呈する。遺構の中央を東西に搅乱が走る。底面は北側中央が最も深く周囲より 1 段低くなってしまっており、そこから東、西、北にむかってやや起伏を帶びながら緩やかに高くなっている。壁面は急に立ち上がるが、北及び東面は南及び西面よりも急である。SK3072 を切る。土層の堆積状況は礫などの混入物が多く含まれていることから、一括埋土と思われる。土器・陶磁器などの廃棄土坑であろう。

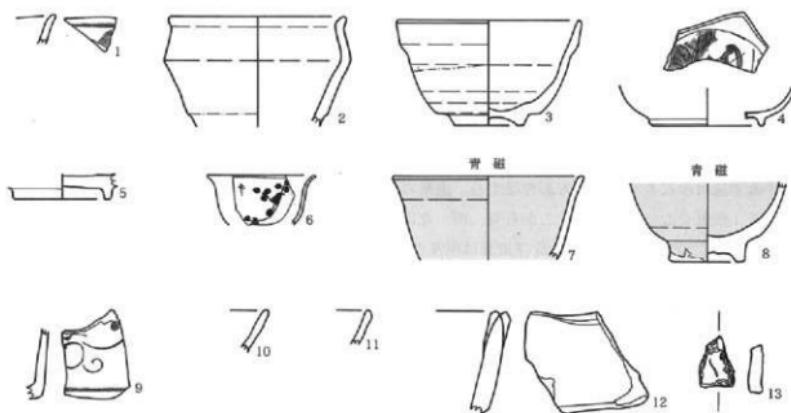
出土遺物 固化資料以外では、景德鎮系磁器や肥前系磁器の破片、産地不明陶器、黒瓦が出土している。

年代 肥前系磁器が初期伊万里で構成されるので、II期であろう。

IV 検出された遺構と遺物

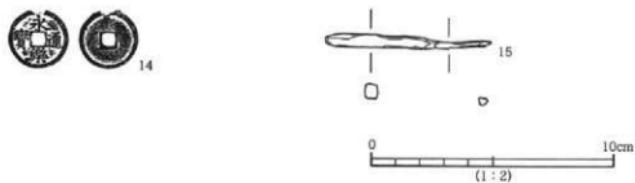


0 2m
(1 : 60)



0 10cm
(1 : 3)

第60図 SK3046 (1)



第61図 SK3046 (2)

SK3060

位 置 15 - 13 グリッド。

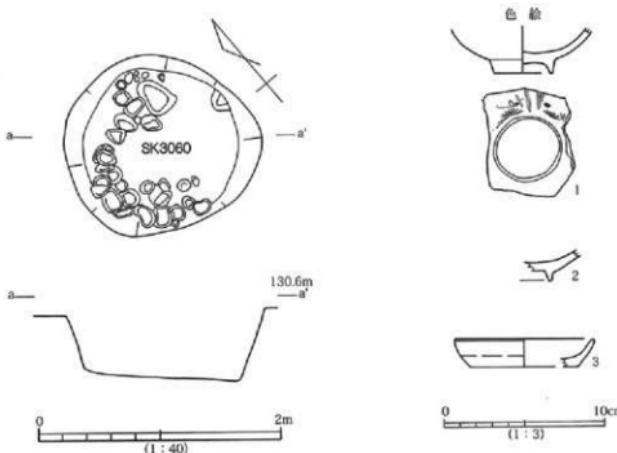
規 模 長軸 1.63 m、短軸 1.47 m、検出面からの深さ 0.65 m。

形 態 平面形態は円形を呈する。底面は平坦で、縁辺に 5 cm から 20 cm 程の礫が敷かれているが、明瞭な規則性はない。壁面は急に立ち上がる。性格は不明である。調査期間の関係で土層の観察をすることができなかつた。

出土遺物 固化資料以外では、肥前系陶器擂鉢や黒瓦などが出土している。

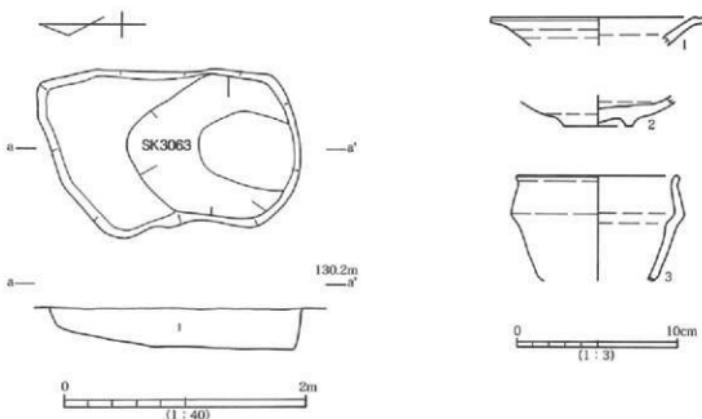
年 代 出土遺物は少ないが、1 や 2 より IV 期であろう。

SK3063



第62図 SK3060

IV 検出された遺構と遺物



第63図 SK3063

位置 16 - 12 グリッド。

規模 長軸 2.26 m、短軸 1.24 m、検出面からの深さ 0.37 m。

形態 平面形態は南北に長いややくずれた方形を呈する。底面は南側が最も深く、北にむかって緩やかに高くなっている。壁面は急に立ち上がる。土層の堆積状況は1層のみで一括埋土であると思われる。

出土遺物 2は古代の灰釉陶器であるが参考までに図化した。図化資料以外では、肥前系磁器碗と産地不明磁器が各1点のみ出土している。

年代 肥前系磁器が出土しているのでII期以降であろうが、正確な年代は不明である。3より17世紀前半から半ばであろうか。

SK3066

位置 18 - 14 グリッド。

規模 残存長軸 1.57 m、短軸 1.14 m、検出面からの深さ 0.32 m。

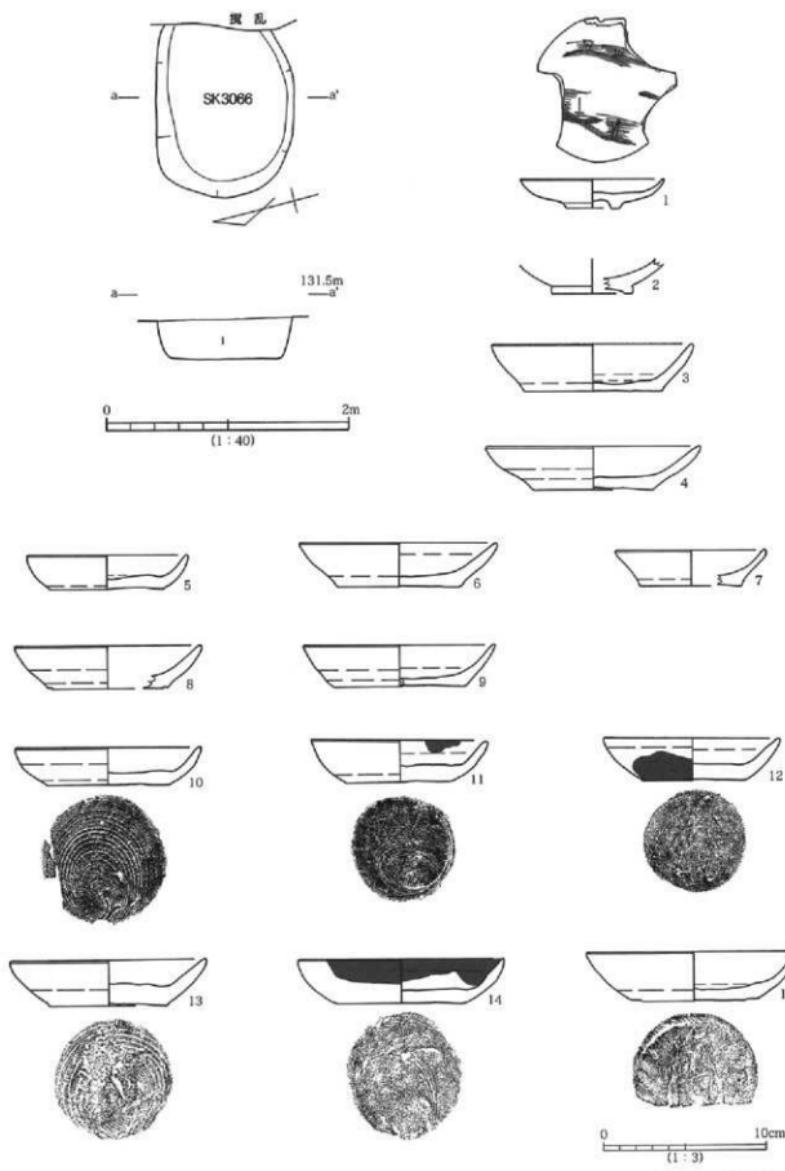
形態 東側が搅乱に切られている。平面形態は東西に長い梢円形を呈する。底面は平坦で壁面は急に立ち上がる。土層の堆積状況は1層のみで一括埋土であると思われる。土器・陶磁器などの廃棄土坑であろう。

出土遺物 かわらけが出土遺物の2/3を占める。図化資料以外では、黒瓦、肥前系陶器擂鉢などがある。なお、2など古代の遺物の混入がある。

年代 年代決定資料は少ないが、1が初期伊万里であることからII期に相当する年代であろう。

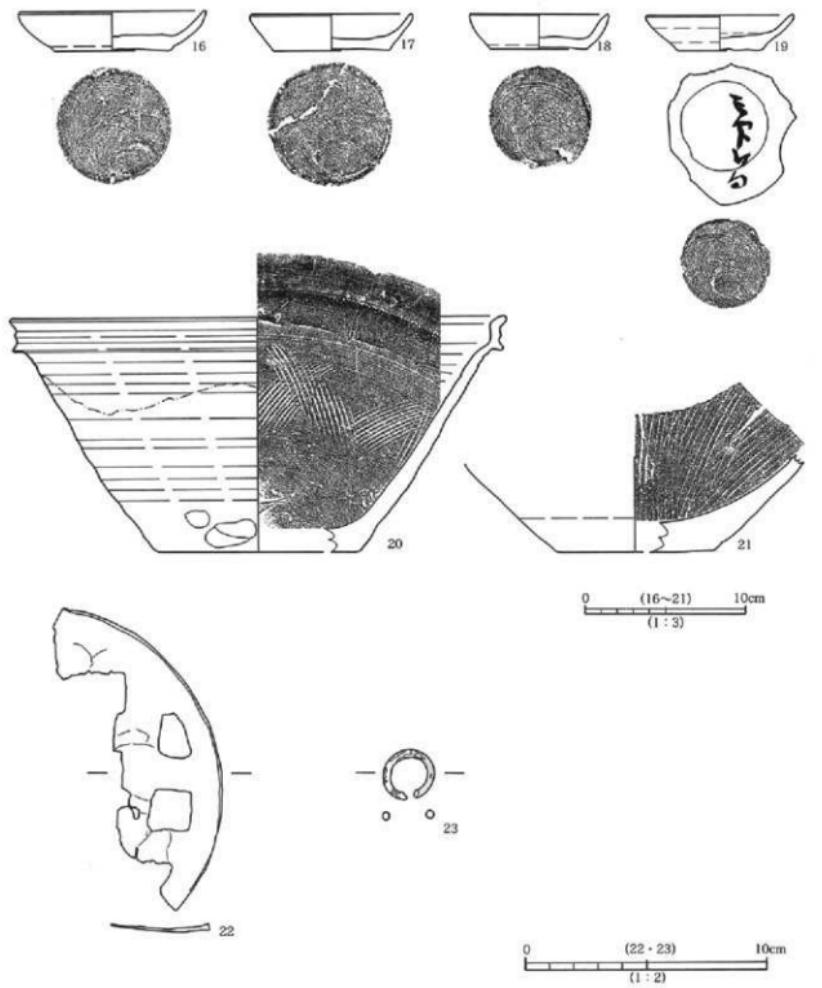
SK3074

IV 検出された遺構と遺物

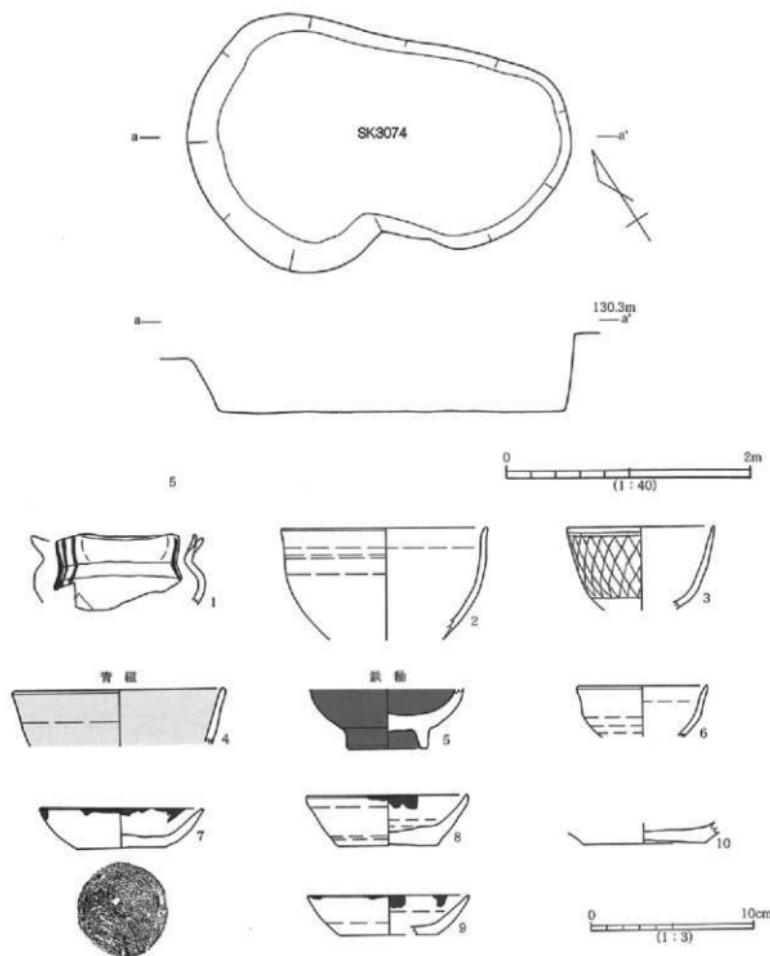


第64図 SK3066 (1)

IV 検出された遺構と遺物

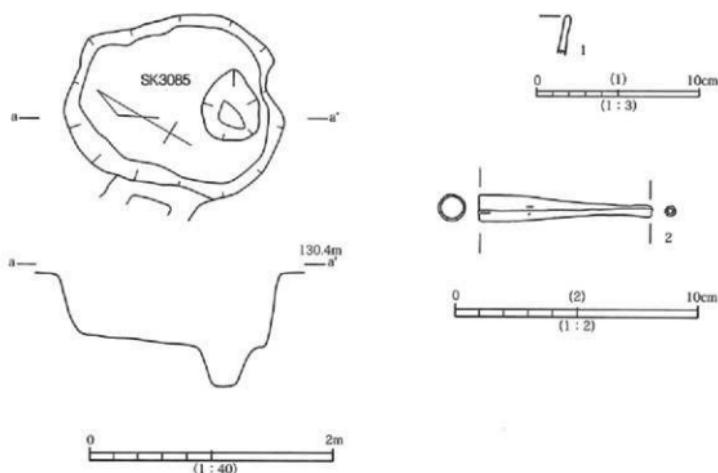


第65図 SK3066 (2)



第66図 SK3074

IV 検出された遺構と遺物



第67図 SK3085

位 置 16 - 14 グリッド。

規 模 長軸 3.16 m、短軸 1.61 m、検出面からの深さ 0.67 m。

形 態 平面形態はくずれた方形を呈する。底面は平坦で、壁面はほぼ垂直に立ち上がる。調査期間の関係で土層の観察はできなかった。

出土遺物 固化資料以外では、瀬戸美濃系陶器、産地不明陶器鉢、碗などが出土している。

年 代 出土遺物は少ないが、出土した肥前系磁器は初期伊万里と高台断面三角形段階の製品で構成されるので、Ⅲ期と考えられる。

SK3085

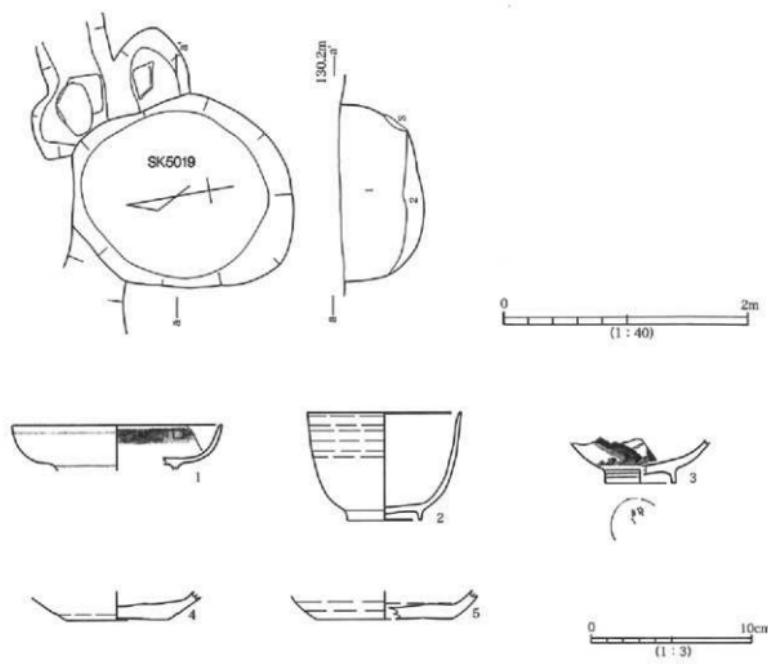
位 置 18 - 15 グリッド。

規 模 長軸 1.69 m、短軸 1.39 m、検出面からの深さ 0.59 m。

形 態 平面形態はくずれた円形を呈する。底面は南東側にピット状の落ち込みがあり、ここが周囲に比べて 1 段低くなっている。ピット状落ち込みの周囲は平坦で壁面はほぼ垂直に立ち上がる。調査期間の関係で土層の観察はできなかった。

出土遺物 固化資料以外は、古代の土師器、須恵器が混入しているのみである。

年 代 不明。



第68図 SK5019

SK5019

位 置 16-8~17-8 グリッド。

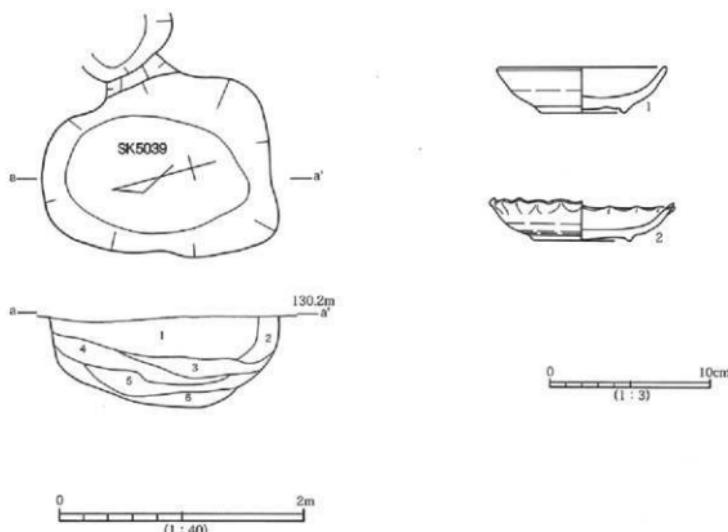
規 模 長軸 1.78 m、短軸 1.54 m、検出面からの深さ 0.68 m。

形 態 平面形態は円形を呈する。底面はほぼ平坦で、壁面は急に立ち上がる。土層の堆積状況は混入物を多く含むので一括埋土である。土器・陶磁器などの廃棄土坑であろう。

出土遺物 破片資料が多く図化し得なかったものが多い。肥前系陶磁器、土師質土器、黒瓦などが出土している。

年 代 出土遺物は少ないが、2や3よりIV期であろう。

IV 検出された遺構と遺物



第69図 SK5039

SK5039

位 置 17-8グリッド。

規 模 長軸 1.88 m、短軸 1.43 m、検出面からの深さ 0.73 m。

形 態 平面形態は南北に長いややくずれた楕円形を呈する。底面は中央部が最も深く、周間に向かって壠鉢状に緩やかに高くなる。壁面は急に立ち上がる。土層の堆積状況は疊や地山由来と思われる砂粒などを含むことから、一括埋土と思われる。

出土遺物 図化資料以外では、黒瓦と古代の土師器甕が各1点出土している。

年 代 1や2より16世紀後半から17世紀初頭であろう。

SK5093

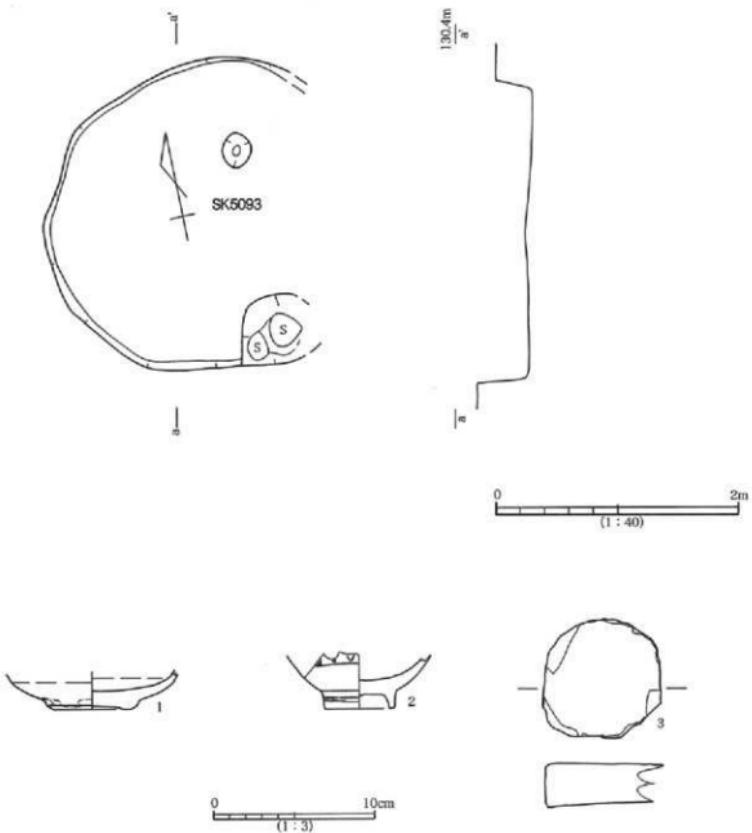
位 置 17-19グリッド。

規 模 残存長軸 2.60 m、検出面からの深さ 0.25 m。

形 態 東側は調査することができなかった。平面形態はおおよそ円形を呈する。底面は中央やや北よりにピット状の落ち込みがあるが、他はほぼ平坦である。壁面はほぼ垂直に立ち上がる。調査期間の関係で土層の観察をすることができなかった。

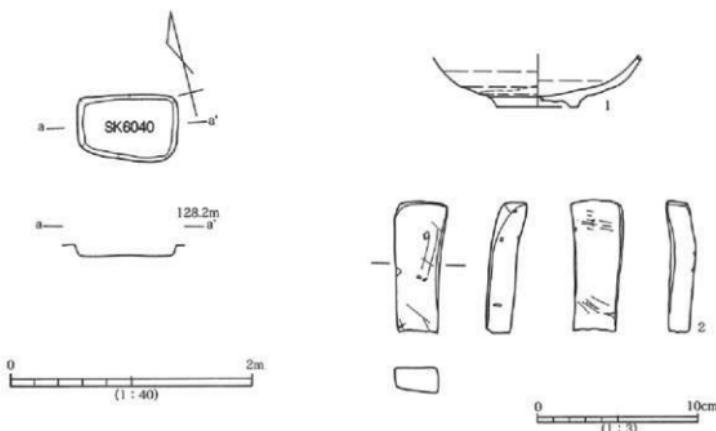
出土遺物 肥前系陶磁器は片断資料が多く図化し得なかったものも多い。ほかに、瀬戸美濃系陶器や黒瓦が出土している。なお、古代の土師器、須恵器が混入している。

年 代 2より17世紀前半から半ばであろう。



第70図 SK5093

IV 検出された遺構と遺物



第71図 SK6040

SK6040

位 置 11-7 グリッド。

規 模 長軸 0.83 m、短軸 0.55 m、検出面からの深さ 0.09 m。

形 態 平面形態は方形を呈する。底面は平坦で壁面は急に立ち上がる。

出土遺物 肥前系磁器が出土しているが小破片であるので図化しなかった。他に、景德鎮系磁器、黒瓦が出土している。なお、古代の土師器、須恵器の混入も認められる。

年 代 肥前系磁器が出土しているのでII期以降であるが、正確な年代は不明である。

SK6079

位 置 13-8 グリッド。

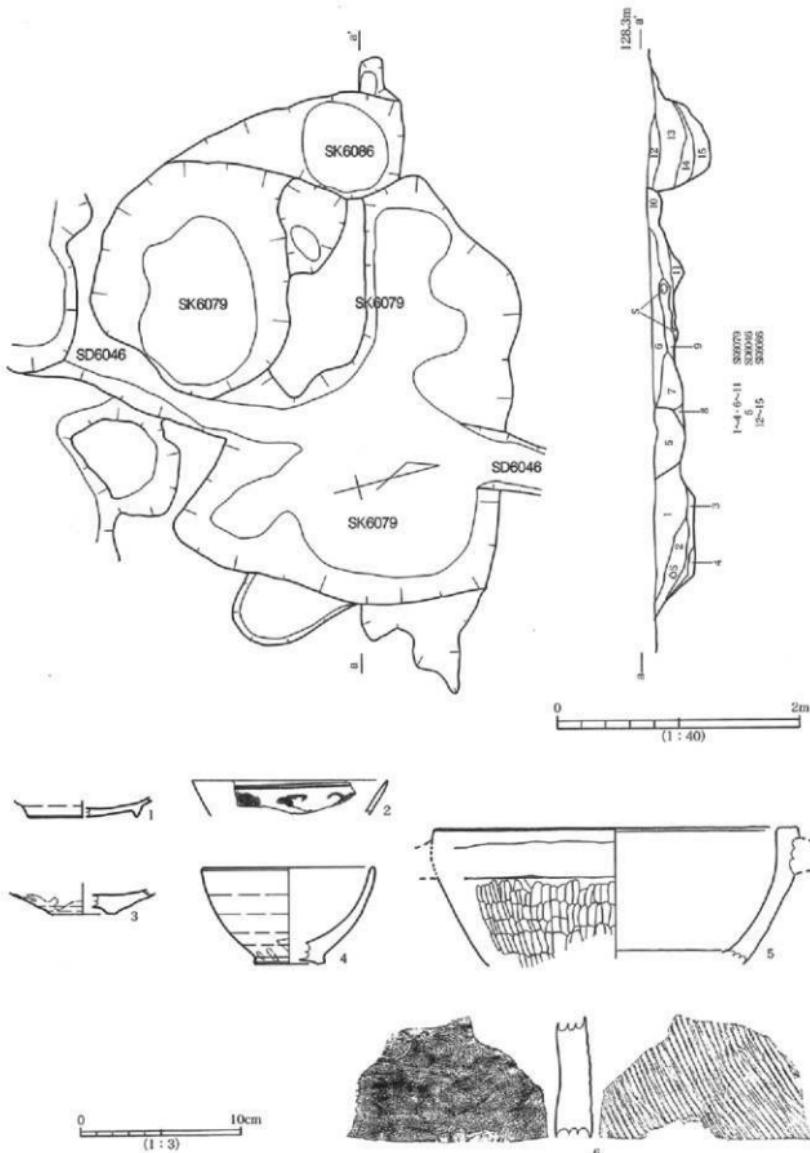
規 模 長軸 4.20 m、短軸 3.45 m、検出面からの深さ 0.45 m。

形 態 平面形態は不整形である。底面はかなり起伏がある。土層の堆積状況は地山由来と思われるブロックを含んでいることから、一括埋土と思われる。短期間に複数回掘り込みが行われたようだが、その明確な痕跡を認めるることはできなかった。土器・陶磁器などの廃棄土坑であると思われる。なお、中世の遺物がある程度年代のまとまりをもって出土している。中世の遺構を破壊して構築、埋立がなされたのであろう。SD6046 に切られる。SK6086 を切る。

出土遺物 図化資料以外には、瀬戸美濃系陶器、肥前系陶器甕、漳洲系磁器などが出土している。なお、古代の土師器、須恵器の混入がある。同様に、5、6 は中世遺構からの混入であると思われる。

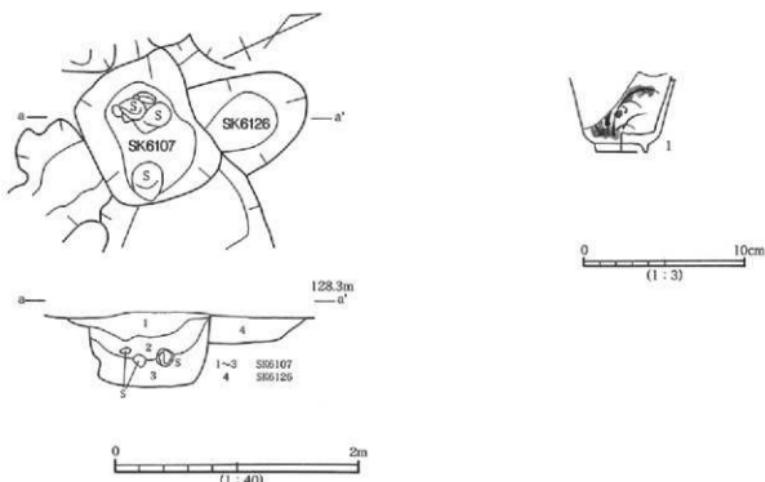
年 代 出土遺物は少ないが、4 より 17 世紀初頭であろう。

IV 検出された構造と遺物



第72図 SK6079

IV 検出された遺構と遺物



第73図 SK6107

SK6107

位置 11-8 グリッド。

規模 長軸 1.17 m、短軸 0.90 m、検出面からの深さ 0.60 m。

形態 平面形態は隅丸方形を呈する。底面はほぼ平坦で壁面は急に立ち上がる。底面に拳大よりやや大きめの礫が検出されているが、規則性はない。土層の堆積状況は地山由来と思われるブロックを多く含むことから、一括埋土と思われる。なお、SK6126 を切る。

出土遺物 固化資料以外には、肥前系磁器碗が 1 点のみ出土している。

年代 肥前系磁器が出土しているので II 期以降であるが、正確な年代は不明である。

SK6108

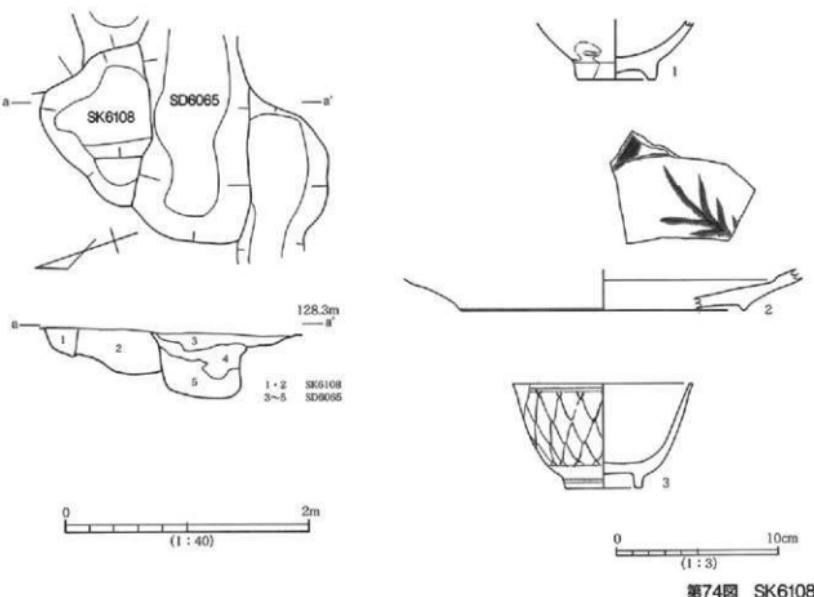
位置 11-9 グリッド。

規模 長軸 1.29 m、検出面からの深さ 0.36 m。

形態 南側を SD6065 に切られており全体の形状はわからないが、平面形態はおおよそ隅丸方形を呈する。底面は東側が低く、西側が高くなっている。壁面は急に立ち上がる。土層の堆積状況は一括埋土であると思われる。

出土遺物 固化資料以外では、肥前系陶器皿、産地不明磁器が各 1 点、黒瓦の破片が 3 点出土しているのみである。

年代 出土遺物は少ないが、2 や 3 より 17 世紀半ばであると思われる。



第74図 SK6108

SK6109

位 置 10-9グリッド。

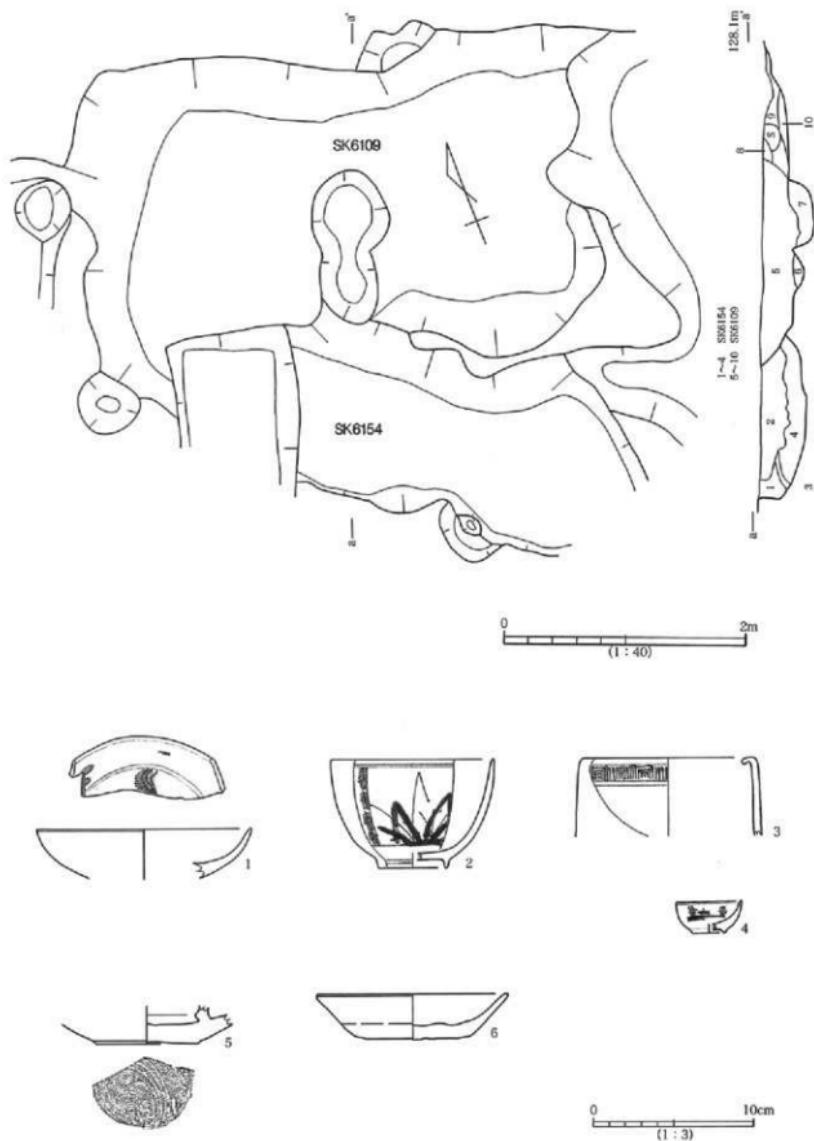
規 模 長軸 4.30 m、残存短軸 2.65 m、検出面からの深さ 0.42 m。

形 態 東側が別の遺構に切られているので全体の形態はわからないが、平面形態はややくずれた隅丸方形を呈する。底面中央やや南よりに一部落ち込みがありここが最も深くなっている。その周辺は一段高く平坦である。壁面はやや急に立ち上がる。SK6154を切る。

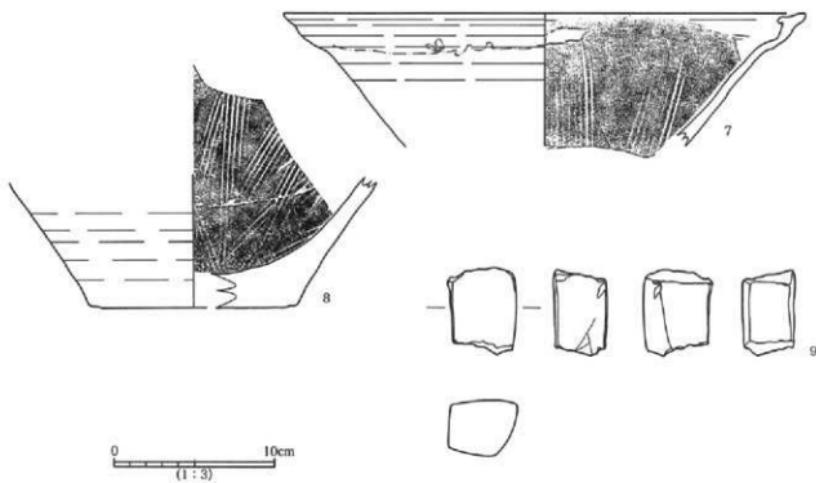
出土遺物 固化資料以外では、肥前系磁器碗が出土している。また、黒瓦が67点出土している。

年 代 出土遺物は少ないが、肥前系磁器が初期伊万里と高台断面三角形の製品で構成されることから、Ⅲ期であると考えられる。

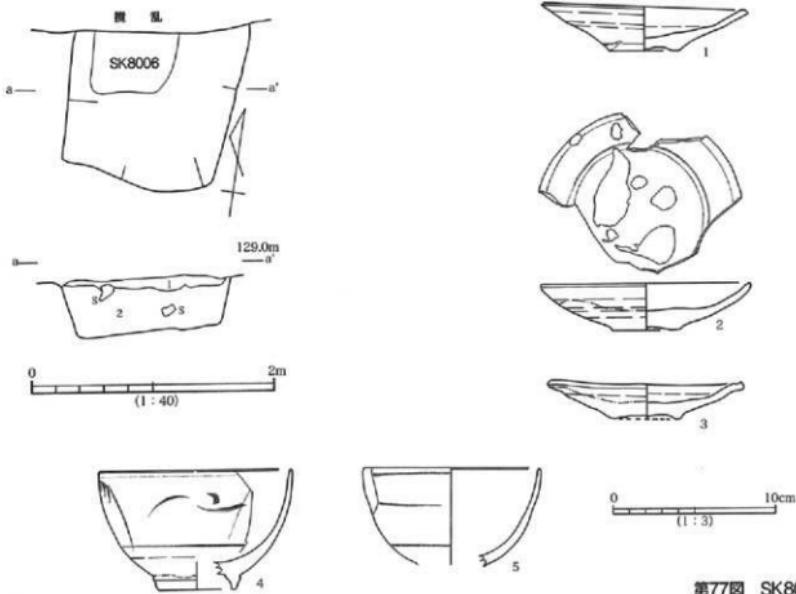
IV 検出された遺構と遺物



IV 検出された遺構と遺物



第76図 SK6109 (2)



第77図 SK8006

IV 検出された遺構と遺物

SK8006

位置 15 - 20 グリッド。

規模 短軸 1.39 m、検出面からの深さ 0.43 m。

形態 北端が搅乱に切られる。平面形態は方形を呈する。底面は平坦で、断面形態は逆台形を呈する。

出土遺物 図化資料以外では肥前系陶器皿・播鉢、肥前系磁器皿、砥石などが出土している。

年代 出土遺物は少ないが、肥前系磁器は初期伊万里のみであるのでII期であろう。

SK8032

位置 17 - 19 グリッド。

規模 長軸 0.57 m、短軸 0.53 m、検出面からの深さ 0.17 m。

形態 平面形態は隅丸方形を呈する。底面は平坦で、壁面はほぼ垂直に立ち上がる。土層は混入物を多く含むことから一括埋土と思われる。

出土遺物 図化資料以外では古代の土師器、須恵器が混入しているのみである。

年代 1より 19世紀以降の埋没年代であろう。

SK8078

位置 16 - 19 グリッド。

規模 長軸 2.80 m、短軸 1.06 m、検出面からの深さ 0.75 m。

形態 平面形態は北西から南東に長いかなりくずれた楕円形を呈する。底面は平坦で壁面はほぼ垂直に立ち上がる。調査期間の関係で土層の観察をすることができなかった。

出土遺物 図化資料以外では志野皿、肥前系陶器皿、砥石が各 1 点出土しているのみである。

年代 肥前系磁器は 4 の 1 点のみであるが初期伊万里であるので、II期に相当するであろう。

SK9004

位置 17 - 8 グリッド。

規模 短軸 1.12 m、検出面からの深さ 0.36 m。

形態 東側が搅乱によって切られている。平面形態は東西に長い方形を呈する。底面は平坦で、挙大から人頭大ほどの礫が中央から南側の壁面にかけて散乱している。壁面は急に立ち上がる。土層は地山由来と思われるブロックを多く含むことから、一括埋土であろう。

出土遺物 図化資料以外の出土遺物はない。

年代 1より 17世紀初頭であろう。

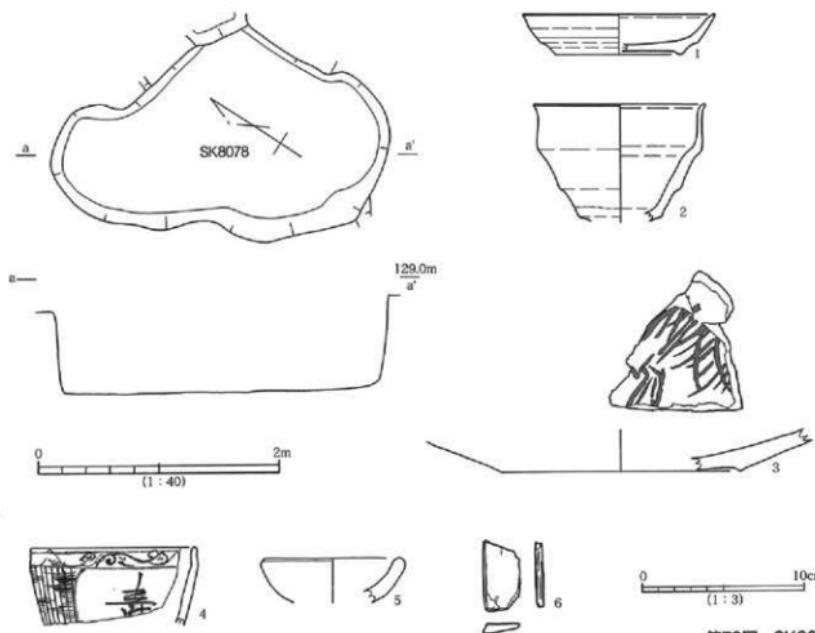
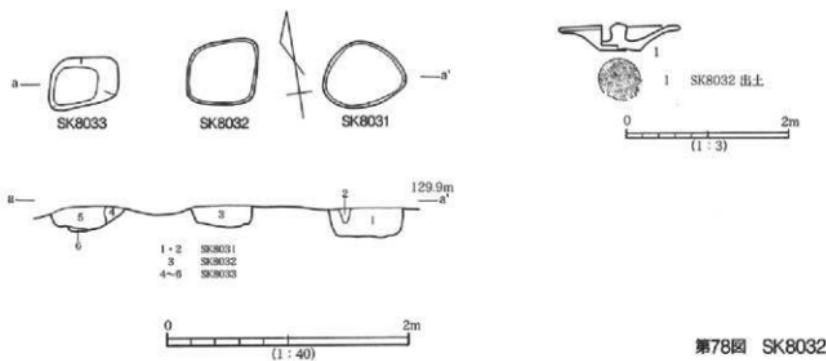
SK9011

位置 18 - 13 グリッド。

規模 短軸 1.93 m、検出面からの深さ 0.12 m。

形態 西側が SK9015 によって切られているので全体の形状はわからないが、平面形態はほぼ方形を呈する。底面は平坦で壁面は急に立ち上がる。調査期間の関係で土層の観察をすることができなかった。

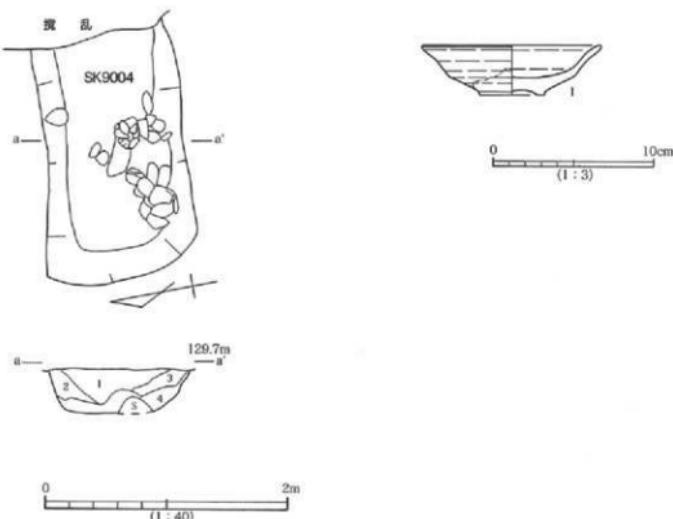
IV 検出された遺構と遺物



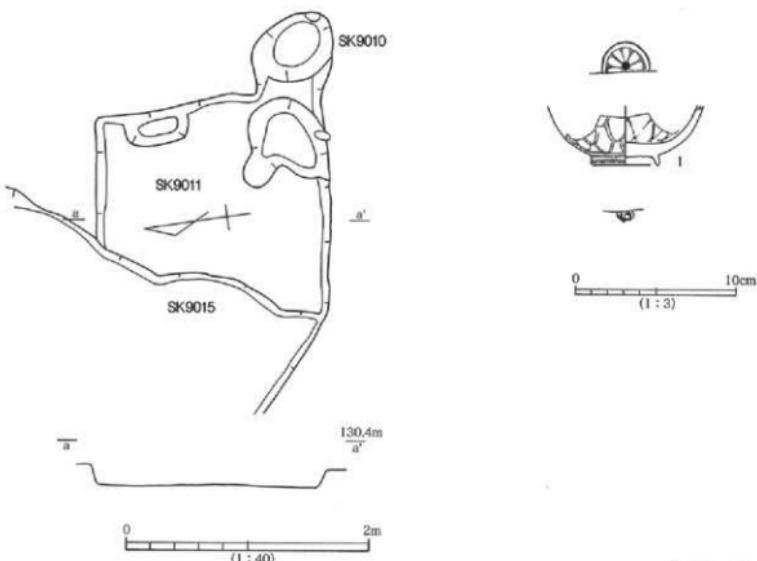
出土遺物 破片資料であるため図化しなかったが、肥前系陶磁器やかわらけ、黒瓦などが出土している。

年代 出土遺物の年代幅は広いが、1より最終的な埋没年代は18世紀前半以降であろう。

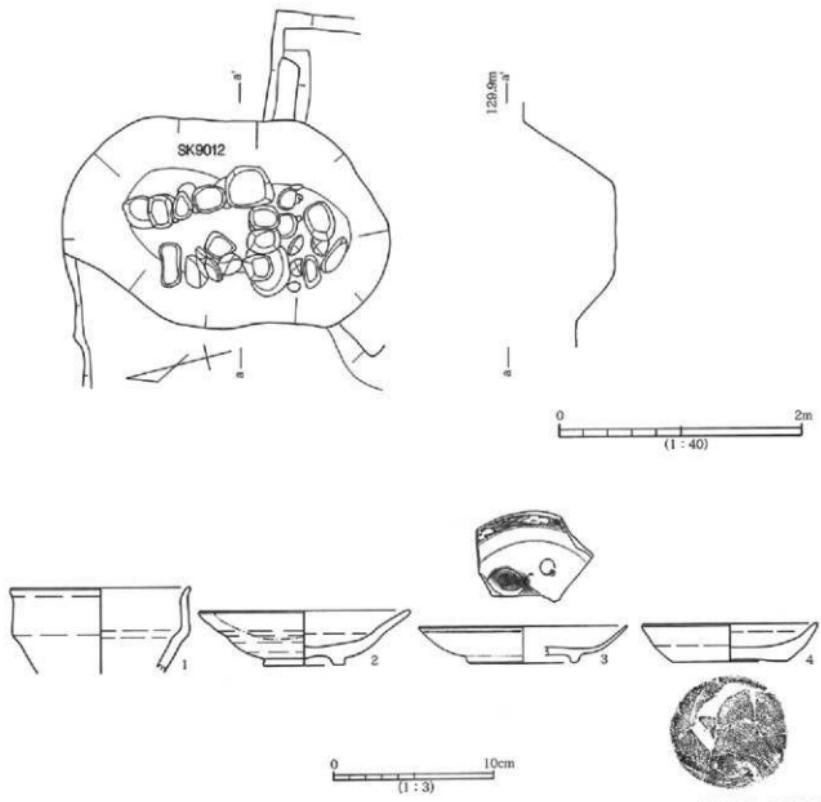
IV 検出された遺構と遺物



第80図 SK9004



第81図 SK9011



第82図 SK9012

SK9012

位 置 17-11 グリッド。

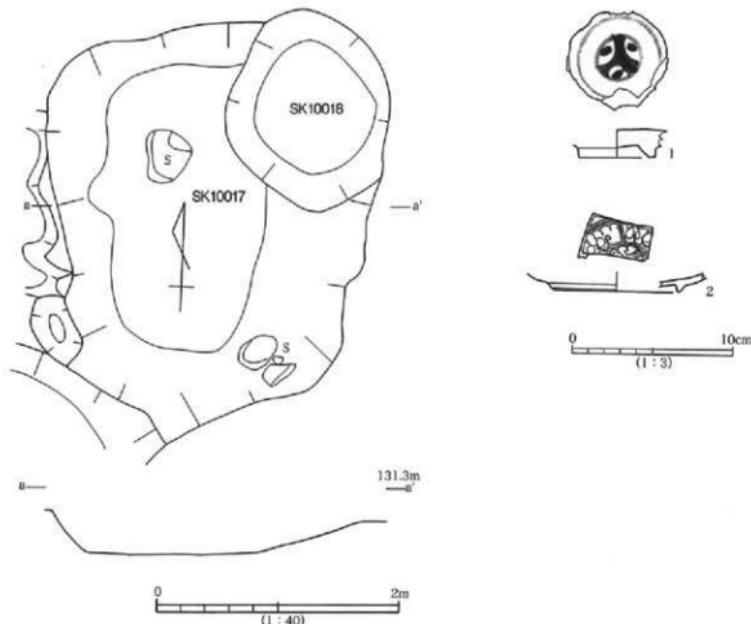
規 模 長軸 2.68 m、短軸 1.70 m、検出面からの深さ 1.40 m。

形 態 平面形態は南北に長い梢円形を呈する。底面から 1 m 前後浮いたところに人頭大ほどの礫が埋没している。遺物はすべて砾と同じ層位から出土した。底面は擂鉢状の断面形態を示す。調査期間の関係で土層の観察をすることができなかった。

出土遺物 固化資料以外では、輸入磁器、肥前系陶器碗・皿・擂鉢、肥前系磁器碗、黒瓦などがある。また、珠洲系陶器、手づくねかわらけなどが出土しているので中世の遺構を破壊していると思われる。

年 代 1や固化していない肥前系磁器より、17世紀半ばであろう。

IV 検出された遺構と遺物



第83図 SK10017

SK10017

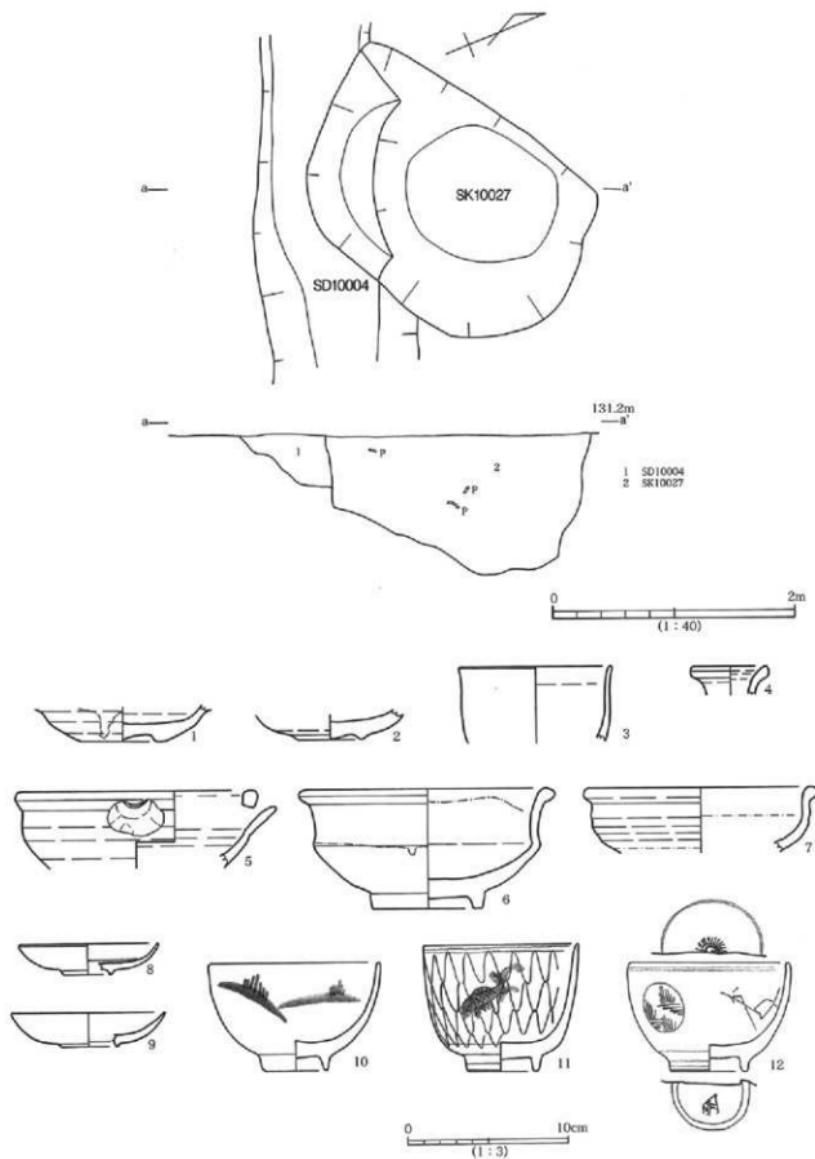
位置 18-17 グリッド。

規模 長軸 3.30 m、短軸 2.35 m、検出面からの深さ 0.36 m。

形態 平面形態はおおよそ隅丸方形を呈する。底面はほぼ平坦で、壁面は南から東側にかけては緩やかに立ち上がり、北から西側にかけてはやや急に立ち上がる。調査期間の関係で土層の観察はできなかった。北東側が SK10018 に切られる。

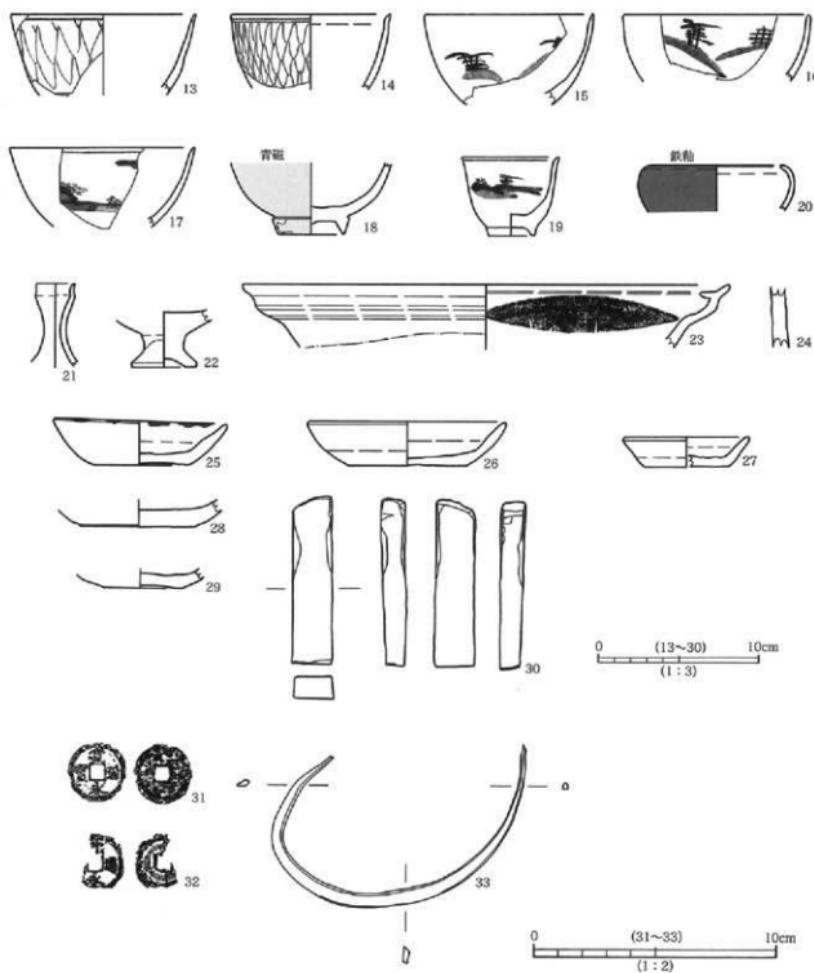
出土遺物 図化資料以外には、景德鎮系磁器、漳州系磁器、ロクロかわらけが出土している。

年代 出土遺物が少なく断定はできないが、肥前系磁器が出土していないことからⅠ期の可能性が高い。

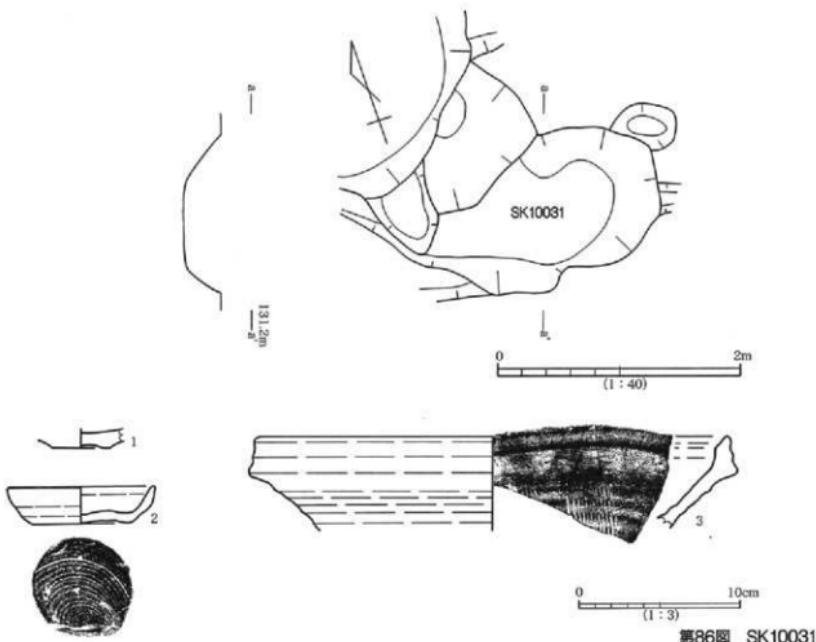


第84図 SK10027 (1)

IV 検出された遺構と遺物



第85図 SK10027 (2)



第86図 SK10031

SK10027

位 置 17-17 グリッド。

規 模 長軸 2.38 m、短軸 1.75 m、検出面からの深さ 1.14 m。

形 態 平面形態はややくずれた方形を呈する。底面は円形を呈しやや起伏がある。南側に一段高いテラスがある。壁面は急に立ち上がる。

出土遺物 固化資料以外では肥前系陶磁器やロクロかわらけの破片が多数出土している。景德鎮系磁器も1点ある。

年 代 肥前系磁器が初期伊万里と高台断面三角形の製品で構成されるので、Ⅲ期である。

SK10031

位 置 17-17 グリッド。

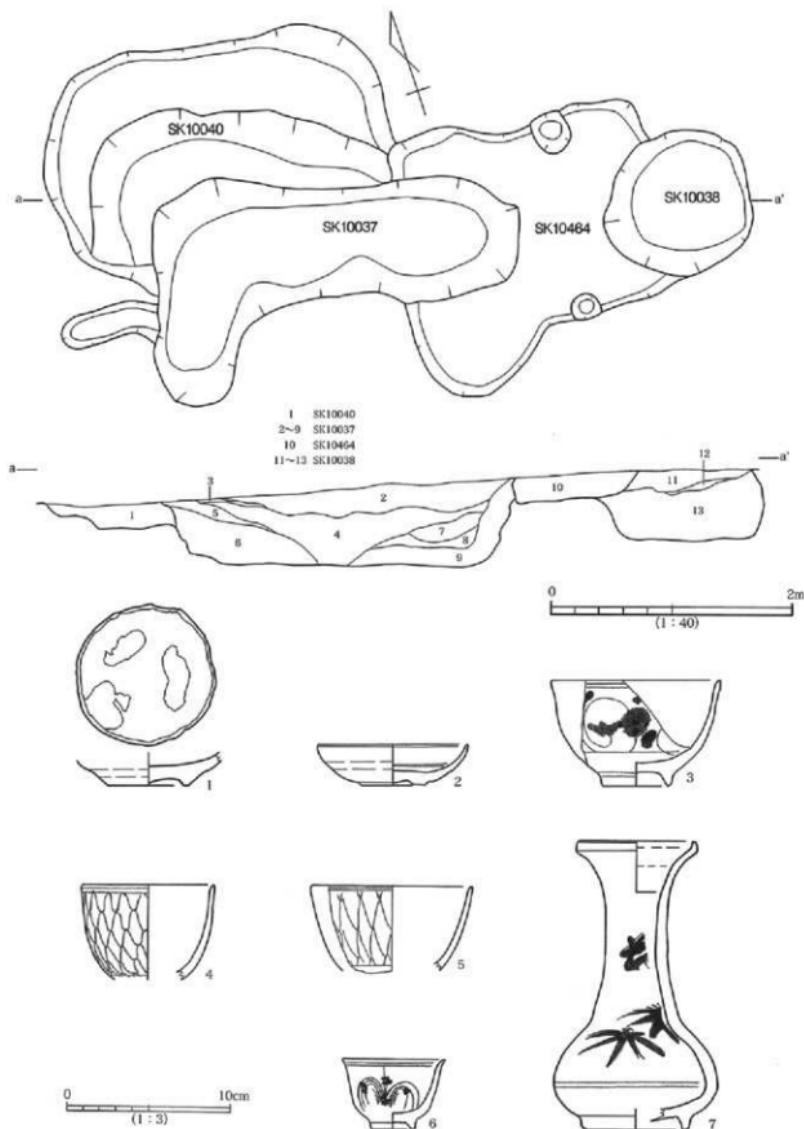
規 模 短軸 1.12 m、検出面からの深さ 0.33 m。

形 態 北東側が他の遺構に切られている。平面形態はくずれた梢円形を呈する。底面は平坦で壁面は緩やかに立ち上がる。調査期間の関係で土層の観察はできなかった。

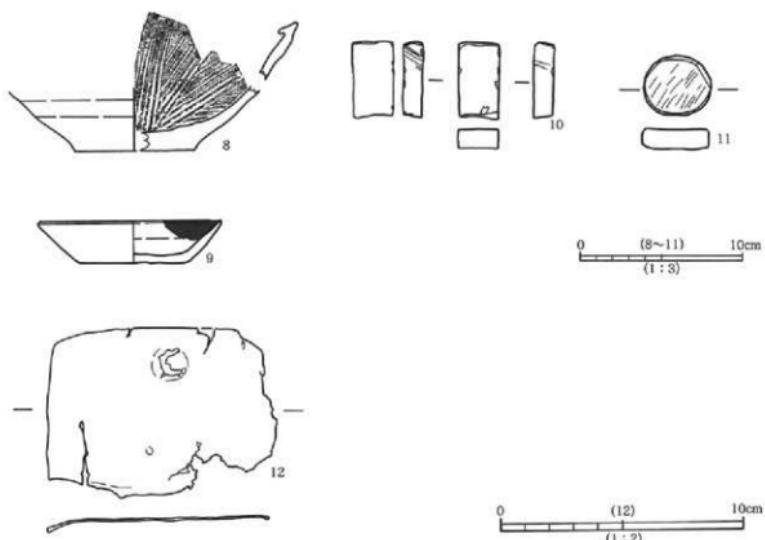
出土遺物 固化資料以外に、初期伊万里の肥前系磁器皿が1点、ロクロかわらけ1点がある。

年 代 出土遺物は少ないが、固化していない肥前系磁器より17世紀半ばであろう。

IV 検出された遺構と遺物



第87図 SK10037 (1)



第88図 SK10037 (2)

SK10037

位 置 17-17 グリッド。

規 模 長軸 3.09 m、短軸 1.24 m、検出面からの深さ 0.69 m。

形 態 平面形態はL字形を呈する。底面は平坦で壁面は急に立ち上がる。北側のSK10040を切り、東側のSK10464に切られる。土層は地山由来のブロックを多く含むので一括埋土と思われる。

出土遺物 図化資料以外には、肥前系陶器皿が1点、肥前系磁器片が多數出土している。また、ロクロかわらけや信楽の破片が出土している。

年 代 肥前系磁器が初期伊万里と高台断面三角形段階の製品で構成されるので、Ⅲ期である。

IV 検出された遺構と遺物

SK10058・SD10006

位 置 17-16 グリッド。

規 模 SK10058 長軸 4.25 m、短軸 1.83 m、検出面からの深さ 0.56 m。

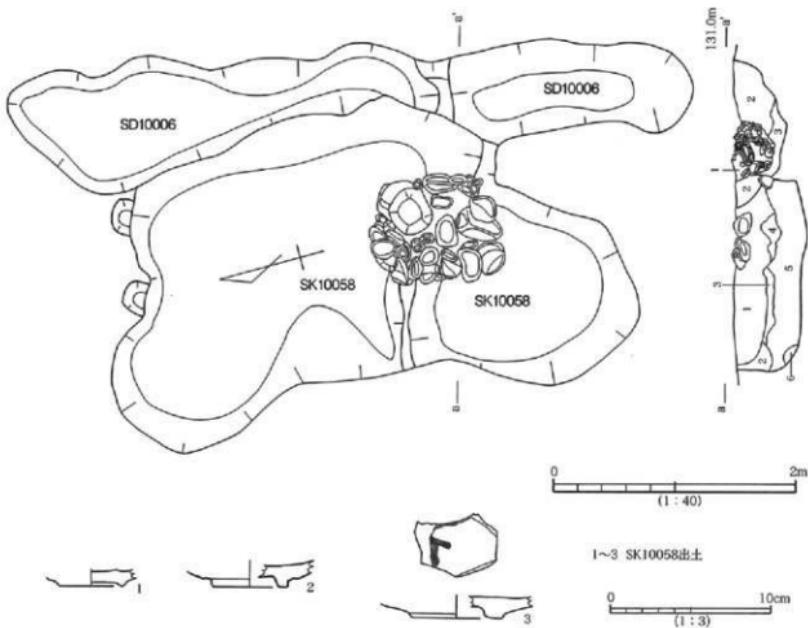
SD10006 長さ 5.65 m、幅 0.75 m、検出面からの深さ 0.42 m。

形 態 SD10006 が SK10058 を切る。SK10058 はかなりくずれた方形を呈する。遺構のほぼ中央の検出面で、柱大から人頭大ほどの礫が直径 1 m の範囲に集中して検出された。底面はほぼ平坦で壁面は急に立ち上がる。

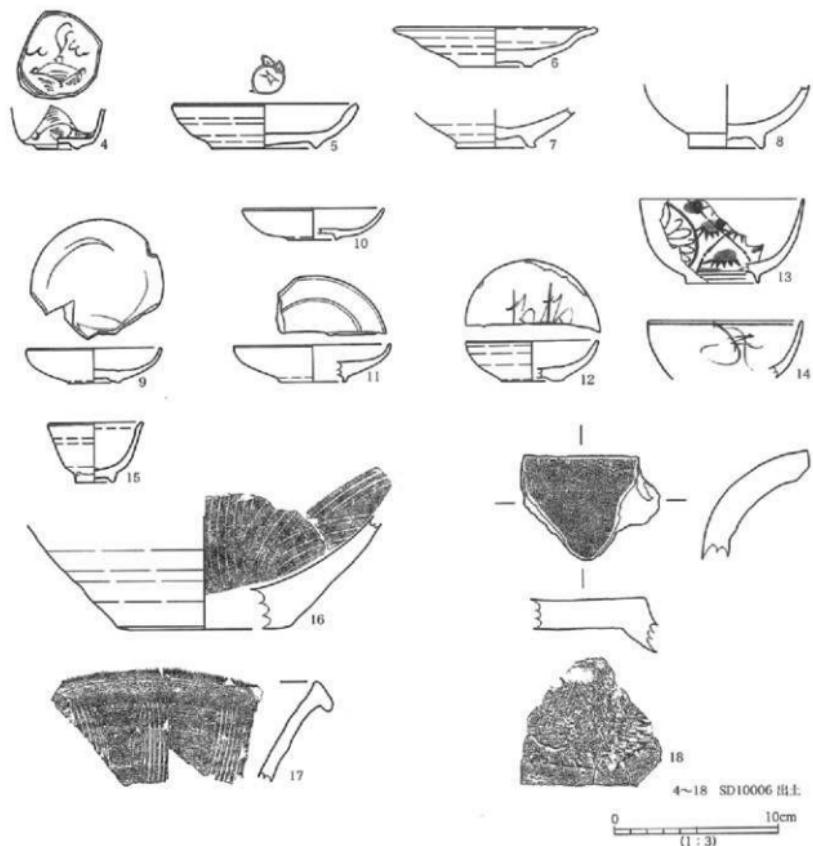
SD10006 は南北に走る溝である。底面はほぼ平坦だが中央やや南よりの位置に底面が一段高く仕切られている部分がある。1 層に直径 3 ~ 20 cm の礫が敷きつめられ暗渠のようになっているが、性格は不明である。

出土遺物 図化資料以外には、SK10058 は輸入磁器、瀬戸美濃系陶器、肥前系陶磁器が出土している。SD10006 は肥前系陶磁器の破片が多数出土している。また、黒瓦が 83 点出土した。赤瓦は図化資料を含めて 3 点ある。

年 代 SK10058 は 2 や 3 より 17 世紀前半から半ばであろう。SD10006 は、出土遺物の年代幅が広いが、13 より最終的な埋没年代は V 期に相当する年代まで下るだろう。



第89図 SK10058・SD10006 (1)



第90図 SK10058・SD10006 (2)

SK10063

位 置 17-17 グリッド。

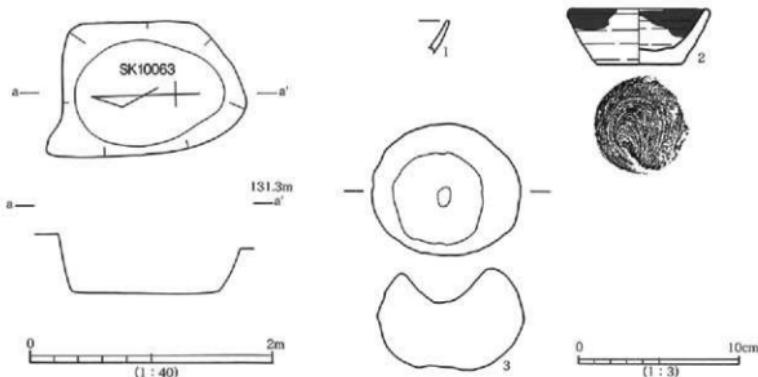
規 模 長軸 1.51 m、短軸 1.08 m、検出面からの深さ 0.46 m。

形 態 平面形態は南北に長いややくずれた梢円形を呈する。底面は平坦で壁面は急に立ち上がる。調査期間の関係で土層の観察はできなかった。

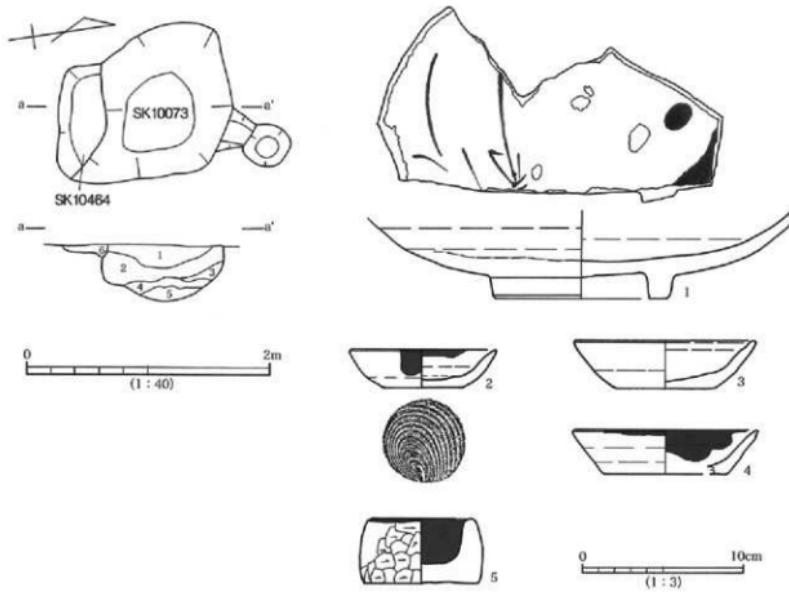
出土遺物 固化資料以外では、瀬戸美濃系志野製品が 1 点出土しているのみである。

年 代 出土遺物の年代幅が 17 世紀から 19 世紀と広く、限定しがたい。

IV 検出された遺構と遺物



第91図 SK10063



第92図 SK10073

SK10073

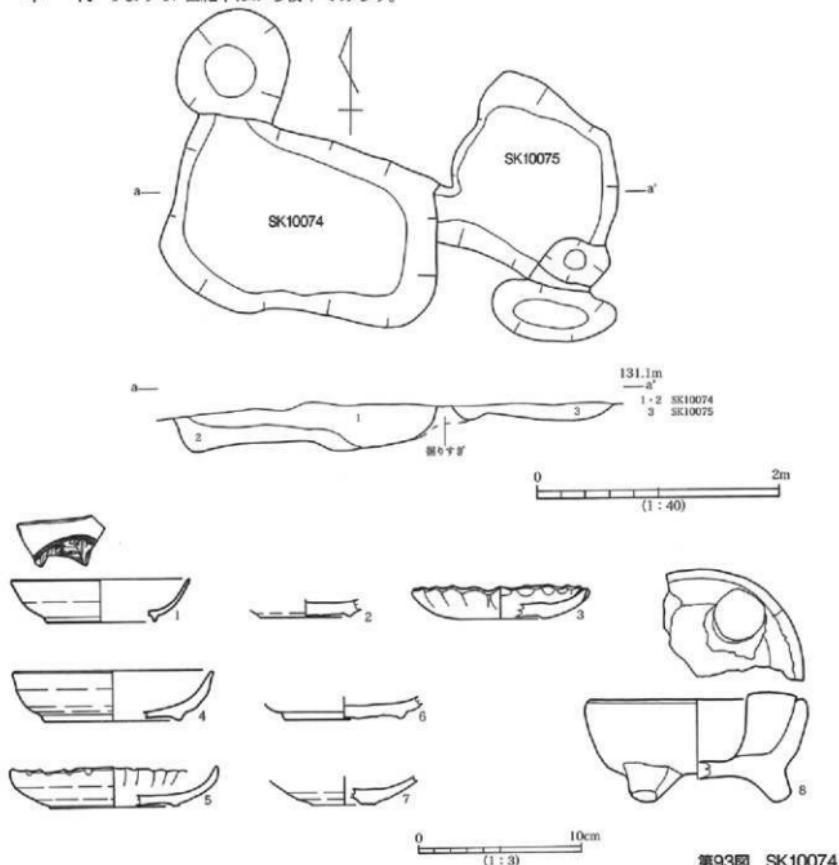
位 置 16-17 グリッド。

規 模 長軸 1.22 m、短軸 1.04 m、検出面からの深さ 0.47 m。

形 態 南側が SK10464 に切られている。平面形態はややくずれた隅丸方形を呈する。断面形態は擂鉢状を呈する。土層は地山由来のブロックを含むことから、一括埋土と思われる。

出土遺物 図化資料以外では、手塙皿風の肥前系磁器が 1 点、鐵絵の肥前系陶器皿が 1 点出土している。

年 代 1 より 17 世紀半ばから後半であろう。



SK10074

位 置 16 - 17 グリッド。

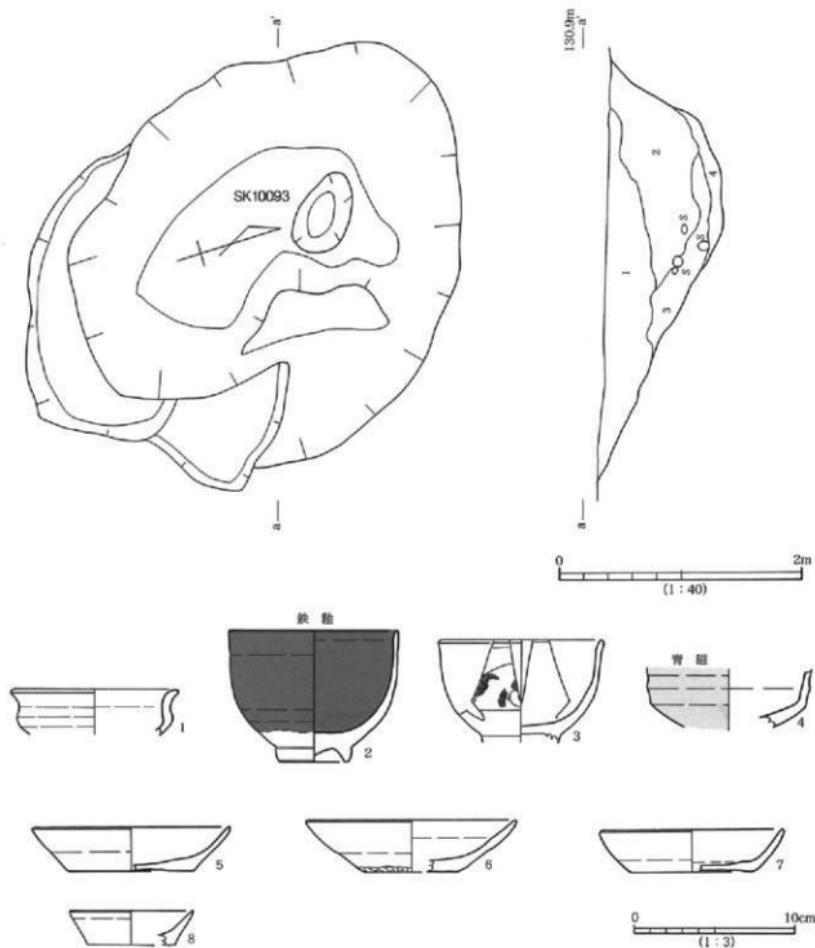
規 模 長軸 2.21 m、短軸 1.43 m、検出面からの深さ 0.37 m。

形 態 平面形態は東西に長い隅丸方形を呈する。底面はほぼ平坦で、壁面はやや急に立ち上がる。

出土遺物 図化資料以外では、輸入磁器、株洲系陶器、石鉢が各 1 点出土しているのみである。

年 代 肥前系磁器が出土していないことから、I 期である。

IV 検出された遺構と遺物



第94図 SK10093

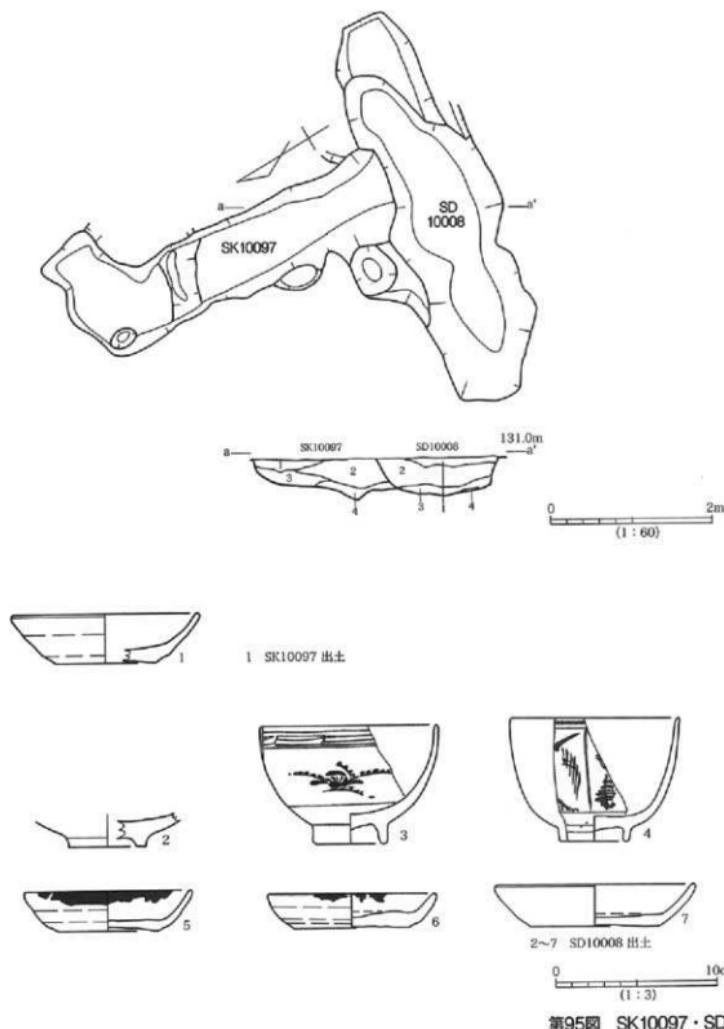
SK10093

位 置 16-16グリッド。

規 模 長軸 3.92 m、短軸 3.00 m、検出面からの深さ 0.94 m。

形 態 平面形態は北西-南東に長い楕円形を呈する。断面形態はおおよそ擂鉢状を呈し、壁面は東側がゆるやかに、西側はやや急に立ち上がる。

出土遺物 6は体部下半にケズリの入るロクロかわらけであり、今回の調査で唯一の例である。図化資料以



第95図 SK10097・SD10008

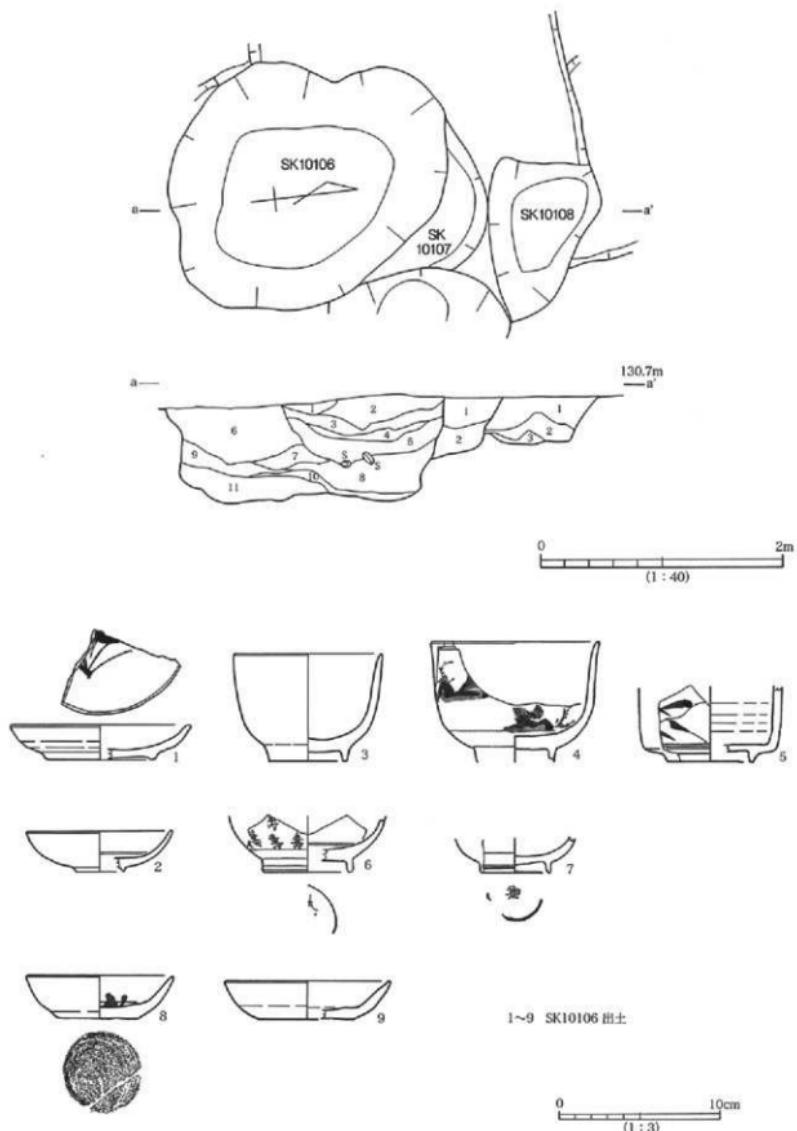
外では、瀬戸美濃系志野製品、黒瓦などが出土している。

年代 出土遺物は少ないが、肥前系磁器は初期伊万里で構成されるのでⅡ期であろう。

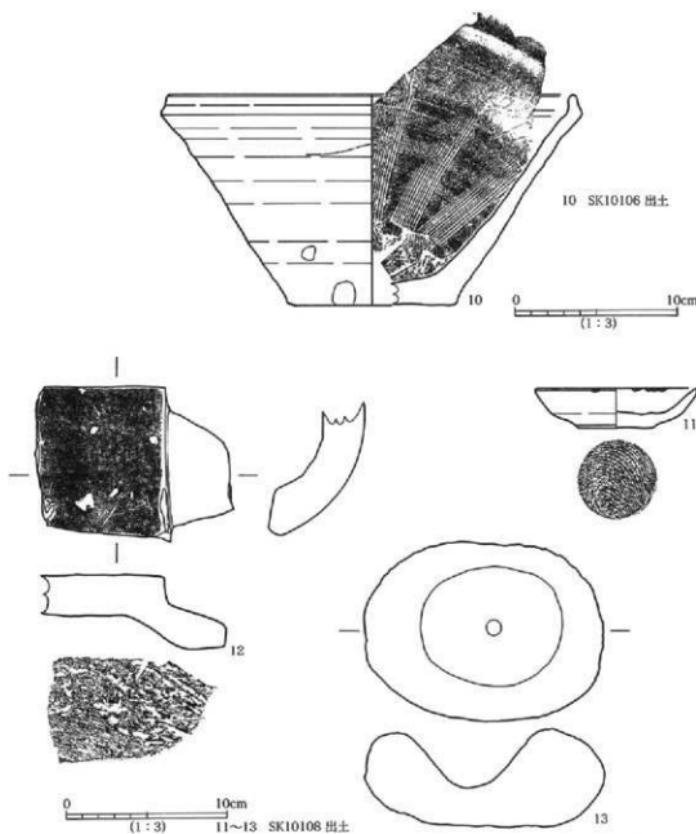
SK10097・SD10008

位 置 16-17グリッド。

IV 検出された遺構と遺物



第96図 SK10106・SK10107・SK10108 (1)



第97図 SK10106・SK10107・SK10108 (2)

規 模 SK10097 短軸 0.98 m、検出面からの深さ 0.51 m。

SD10008 長さ 4.96 m、幅 1.46 m、検出面からの深さ 0.46 m。

形 態 SD10008 が SK10097 を切る。SK10097 は南北に走る溝のような形態を呈する。底面はほぼ平坦で壁面は急に立ち上がる。SD10008 は東西に走る溝で、底面は平坦で壁面はやや急に立ち上がる。

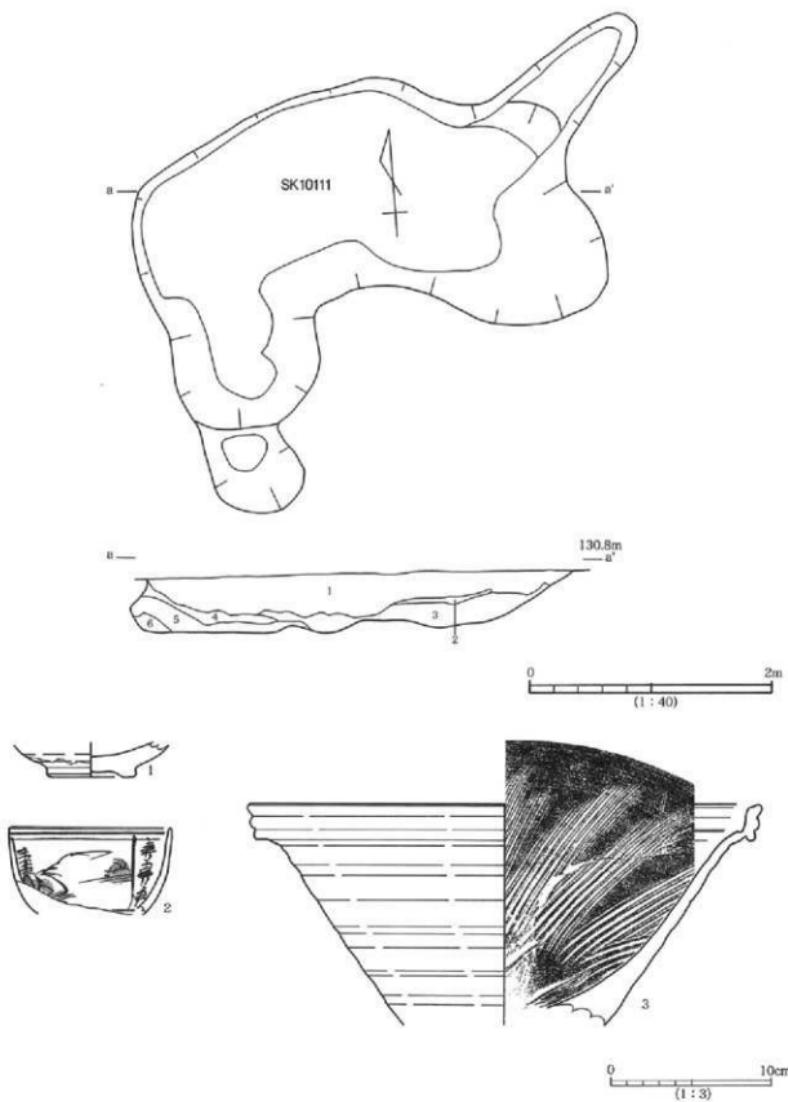
出土遺物 SK10097 は図化資料のみである。SD10008 は図化資料以外に、肥前系陶磁器が若干出土している。

年 代 SD10008 は出土遺物が少ないが、肥前系磁器が初期伊万里で構成されるので II 期であろう。切り合いで SK10097 は SD10008 より古いか、出土遺物はかわらけのみであるので正確な年代は不明である。

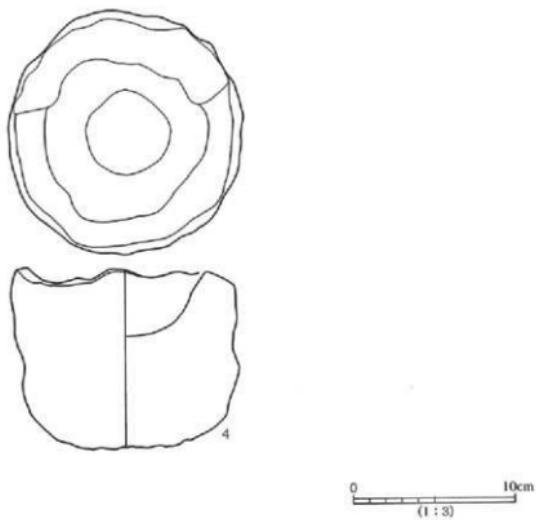
SK10106・SK10107・SK10108

位 置 15-17 グリッド。

IV 検出された遺構と遺物



第98図 SK10111 (1)



第99図 SK10111 (2)

規 模 SK10106 長軸 2.50 m、短軸 2.05 m、検出面からの深さ 0.87 m。

SK10107 検出面からの深さ 0.44 m。

SK10108 長軸 1.41 m、短軸 0.85 m、検出面からの深さ 0.40 m。

形 態 SK10106 が SK10107 を切る。SK10107 が SK10108 を切る。SK10106 の平面形態はくずれた円形を呈する。底面は平坦で壁面は急に立ち上がる。SK10107 は SK10106 に大きく切られるので平面形態は不明である。壁面は急に立ち上がる。SK10108 の平面形態は二等辺三角形のような形を呈する。底面は平坦で壁面は急に立ち上がる。

出土遺物 SK10106 は図化資料以外に瀬戸美濃の大窯製品、肥前系陶磁器が出土している。SK10107 は出土遺物がない。SK10108 は図化資料以外に出土遺物はない。

年 代 SK10106 は肥前系磁器が初期伊万里及び高台断面三角形の製品で構成されるので、III期である。SK10107 および SK10108 は、切り合いから SK10106 より遡るが正確な年代は不明である。

SK10111

位 置 15-16-16-16 グリッド。

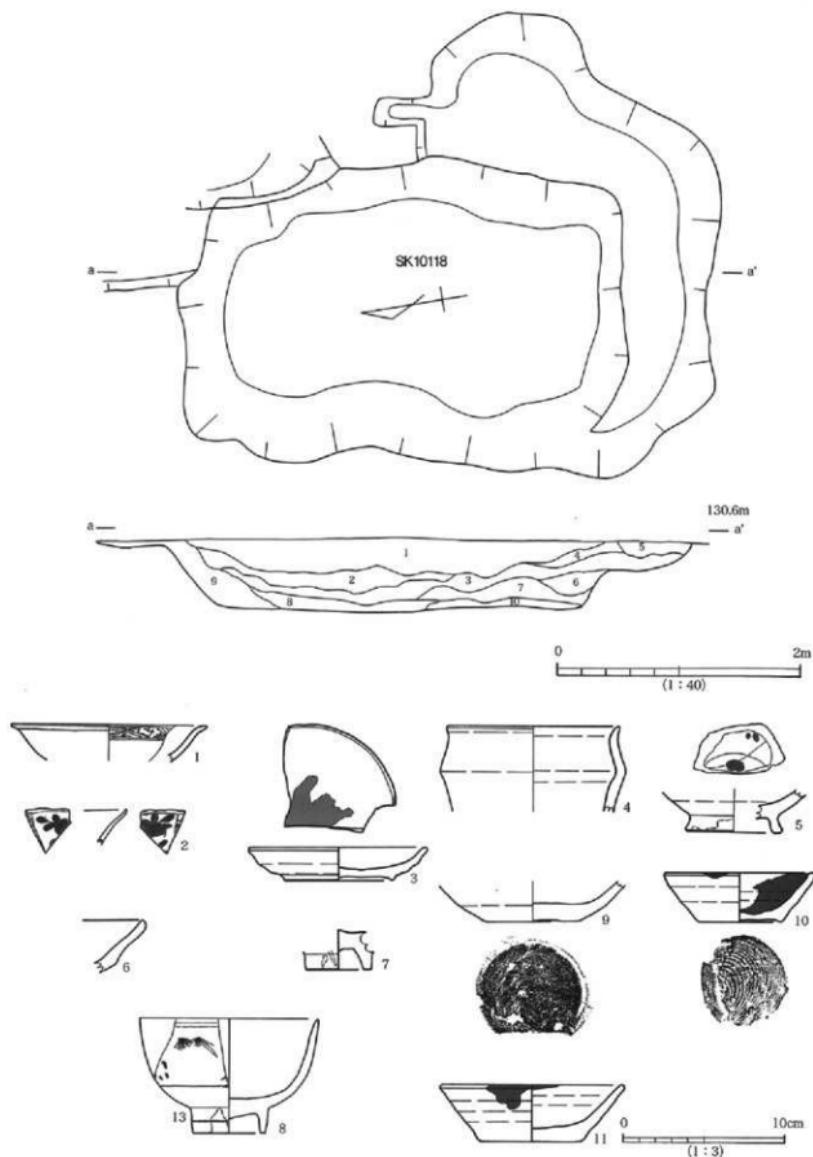
規 模 長軸 4.64 m、短軸 1.65 m、検出面からの深さ 0.48 m。

形 態 平面形態は不整形である。底面はほぼ平坦で、壁面は北側がオーバーハング気味に、その他はやや急に立ち上がる。土層は地山由来のブロックを含むことから、一括埋土と思われる。

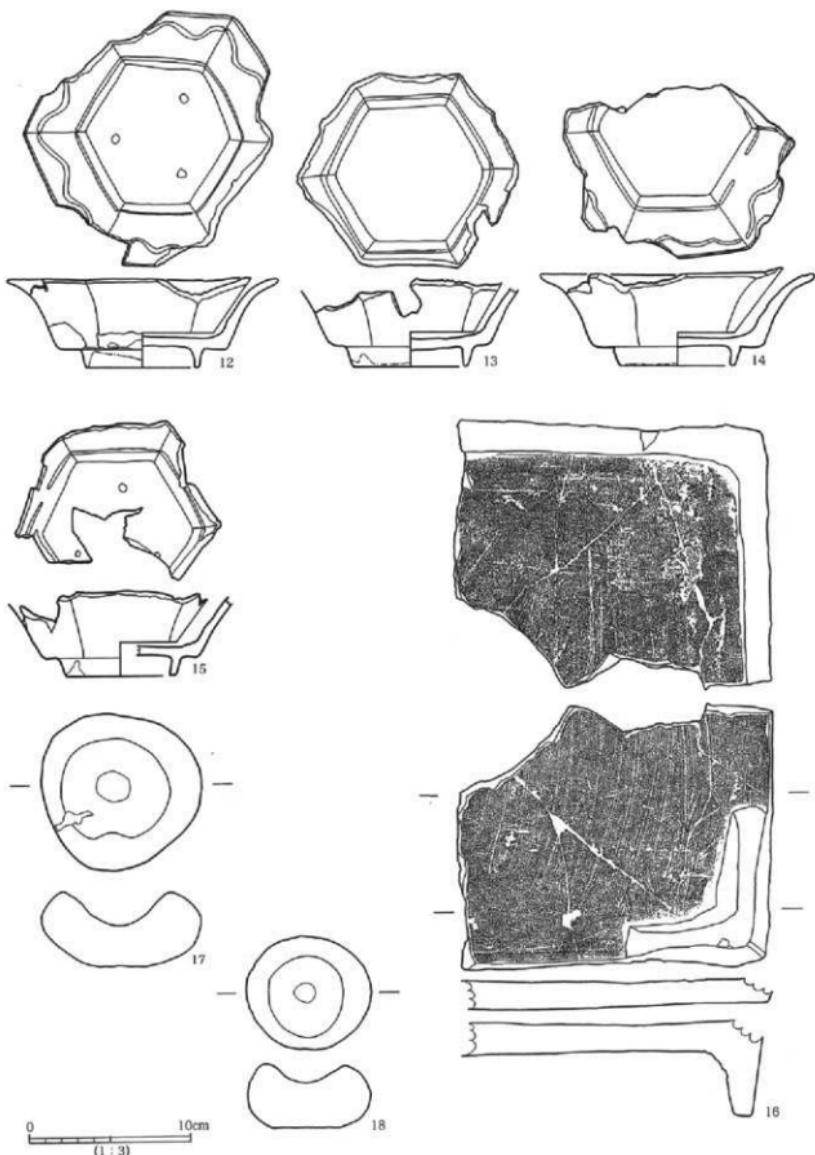
出土遺物 図化資料以外では、黒瓦 1 点のみ出土している。

年 代 出土遺物が非常に少なく判然としないが、2より 17 世紀半ばであろう。

IV 検出された遺構と遺物

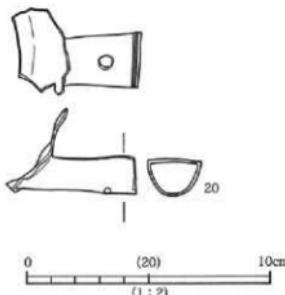
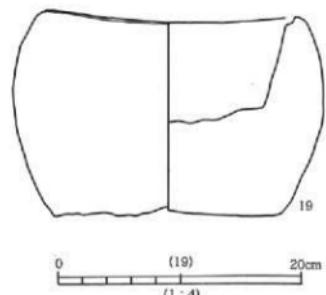


第100図 SK10118 (1)



第101図 SK1011B (2)

IV 検出された遺構と遺物



第102図 SK10118 (3)

SK10118

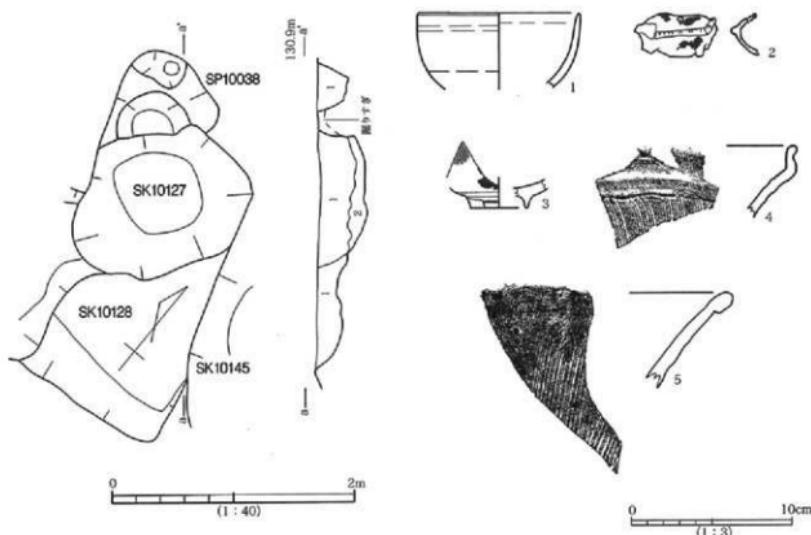
位 置 15-17グリッド。

規 模 長軸 4.57m、短軸 2.41m、検出面からの深さ 0.61m。

形 態 平面形態は南北に長い隅丸方形だが、南から東側にかけて三日月状のテラスが付属する。底面は平坦で壁面は緩やかに立ち上がる。

出土遺物 固化資料以外に、瀬戸美濃の大窯及び登窯の製品、肥前系陶磁器、ロクロかわらけの破片が出土している。

年 代 肥前系磁器は少ないが初期伊万里のみであり、また、瀬戸美濃は織部や御深井、白天目茶碗などの17世紀前半～半ばの製品で構成されるので、II期に相当するであろう。



第103図 SK10127

SK10127

位 置 16 - 17 グリッド。

規 模 長軸 1.53 m、短軸 1.12 m、検出面からの深さ 0.38 m。

形 態 平面形態はややくずれた円形を呈する。底面は平坦で壁面はやや急に立ち上がる。SK10128を切る。

出土遺物 固化資料以外では、肥前系磁器 5 点と黒瓦 1 点、赤瓦 3 点が出土している。

年 代 出土遺物は少ないが、3 より IV 期であろう。

SK10136

位 置 15 - 17 ~ 16 - 17 グリッド。

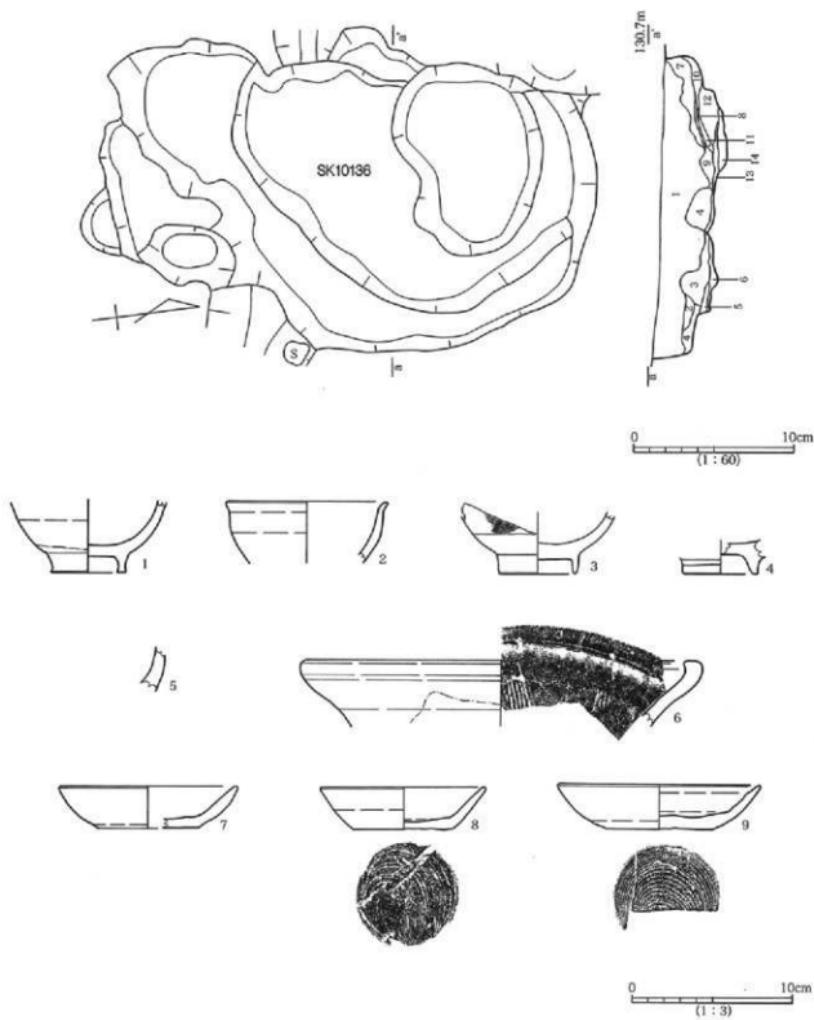
規 模 長軸 6.35 m、短軸 3.67 m、検出面からの深さ 0.80 m。

形 態 平面形態は南北に長いかなりくずれた楕円形を呈する。底面はやや起伏を帯びる。壁面は急に立ち上がる。土層は地山由来のブロックを多く含むことから、一括埋土と思われる。

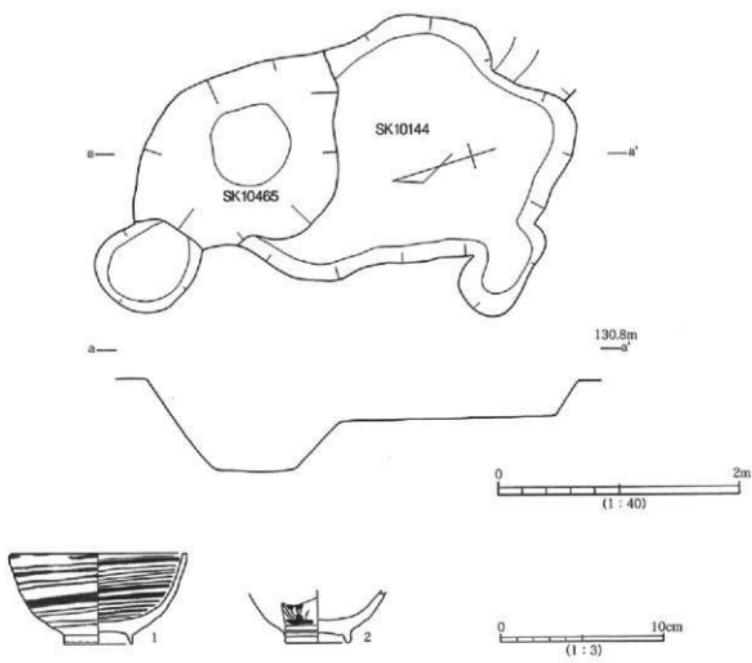
出土遺物 固化資料以外では、瀬戸美濃系陶器や肥前系陶磁器、黒瓦などが出土している。

年 代 出土遺物が少なくはっきりしないが、3 より 17 世紀半ばころであろう。

IV 検出された造構と遺物



第104図 SK10136



第105図 SK10144

SK10144

位 置 16 - 17 グリッド。

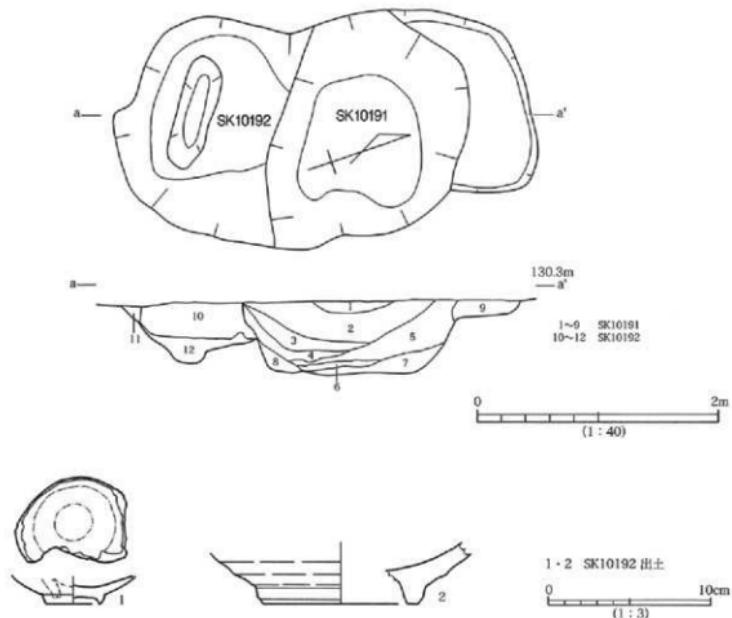
規 模 短軸 1.81 m、検出面からの深さ 0.22 m。

形 態 北側を SK10465 に切られるので全体の形状は不明である。平面形態は不整形である。底面は平坦で、壁面は急に立ち上がる。調査期間の関係で土層の観察をすることができなかつた。

出土遺物 固化資料以外では、肥前系陶器皿が 1 点出土しているのみである。

年 代 出土資料が少なく断定はできないが、2 より V 期に相当する年代であろう。

IV 検出された遺構と遺物



第106図 SK10191・SK10192

SK10191・SK10192

位 置 13-17 グリッド。

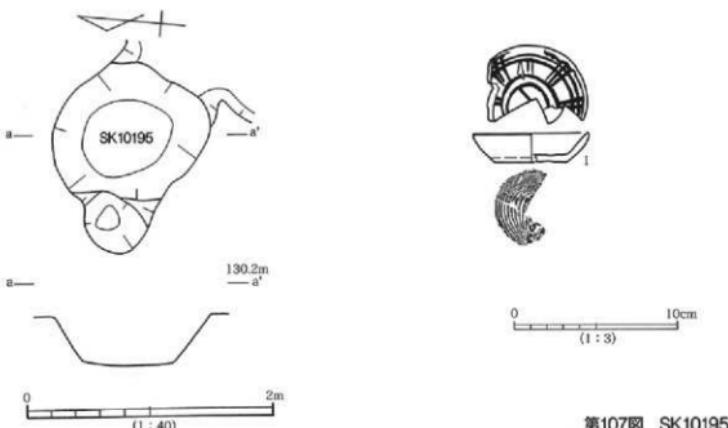
規 模 SK10191 長軸 1.86 m、短軸 1.49 m、検出面からの深さ 0.56 m。

SK10192 長軸 1.87 m、残存短軸 1.76 m、検出面からの深さ 0.49 m。

形 態 SK10191 の平面形態はくずれた方形を呈する。底面は平坦で壁面は急に立ち上がる。土層は下層の7, 8層は均質で自然堆積の様相を示すが、上層1~6層は地山由來のブロックを含み一括埋土と思われる。SK10192はSK10191に切られるため全体像は不明だが、平面形態は隅丸方形を呈する。底面はやや南よりに南北に長いピット状の落ち込みがあり、その周辺が一段高くなっている。壁面は緩やかに立ち上がる。土層は地山由來のブロックを含み、一括埋土と思われる。

出土遺物 SK10191は出土遺物がない。SK10192は図化資料以外に縄文土器の混入があるのみである。

年 代 出土遺物が少なく断定はできないが、SK10192はIよりV期ころであろう。切り合い関係よりSK10191はそれより下るが正確な年代は不明である。



第107図 SK10195

SK10195

位 置 12-17 グリッド。

規 模 長軸 1.33 m、短軸 1.12 m、検出面からの深さ 0.34 m。

形 態 平面形態はほぼ円形を呈する。西側のピット状の遺構と切り合が新旧関係は不明である。底面は平坦で壁面はやや急に立ち上がる。調査期間の関係で土層を観察することができなかった。内面に輪宝の墨書のあるかわらけが出土していることから、地鎮などの祭祀が行われた遺構であろう。

出土遺物 図化資料以外に出土遺物はない。

年 代 不明。

SK10216・SK10217・SK10218

位 置 12-14 ~ 12-15 グリッド。

規 模 SK10216 長軸 3.49 m、短軸 2.38 m、検出面からの深さ 0.41 m。

SK10217 長軸 1.65 m 短軸 1.50 m、検出面からの深さ 0.25 m。

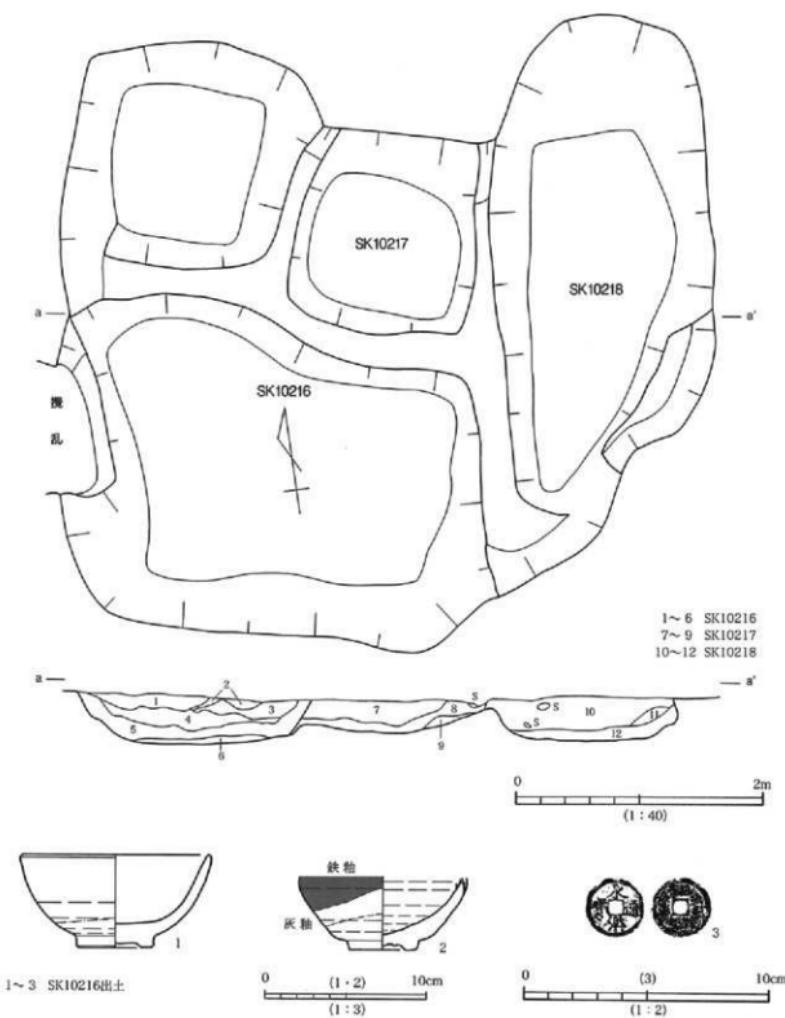
SK10218 長軸 4.09 m、短軸 1.84 m、検出面からの深さ 0.37 m。

形 態 SK10216 は平面形態が隅丸方形を呈する。底面は平坦で壁面は緩やかに立ち上がる。SK10217 は平面形態が方形を呈する。底面は平坦で壁面は緩やかに立ち上がる。SK10218 は南北に長い楕円形を呈する。底面は平坦だが南東側に一段高いテラスを有する。壁面は東側がオーバーハングし、他は急に立ち上がる。SK10216 は SK10217 を切る。SK10217 と SK10218 の切り合は不明である。

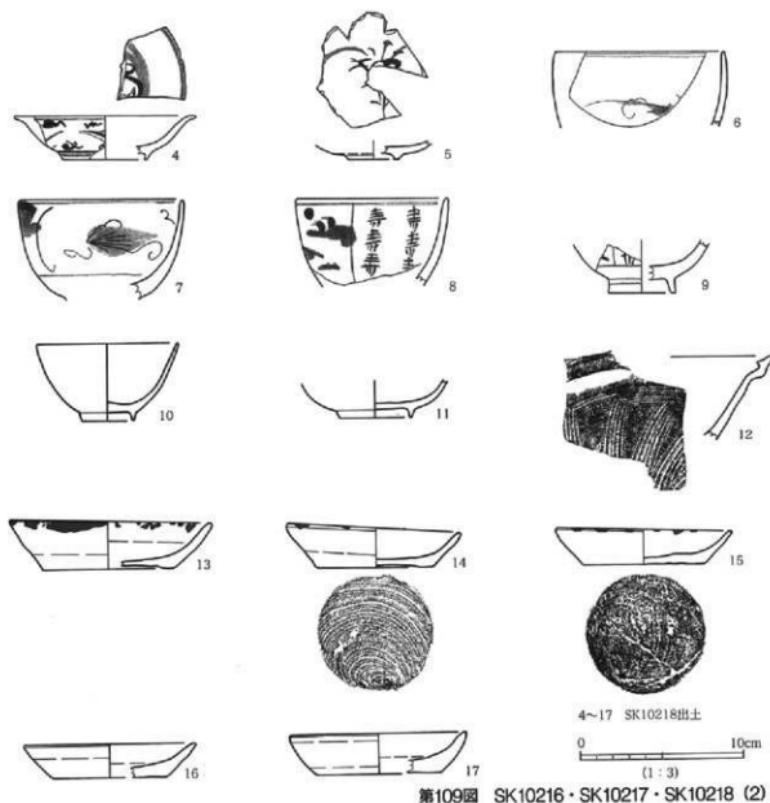
出土遺物 SK10216 は図化資料以外に、輸入磁器、瀬戸美濃の志野菊皿、肥前系陶器皿、黒瓦などが出土している。なお、被熱したヒトの頭蓋骨や四肢骨が出土している。SK10217 は出土遺物がない。SK10218 は図化資料以外に、瀬戸美濃系陶器、肥前系陶磁器、黒瓦などが出土している。

年 代 SK10216 は出土遺物が少ないが、肥前系磁器を含まないことからⅠ期であろう。SK10218 は肥前系磁器が初期伊万里と高台断面三角形段階の製品で構成されるのでⅢ期である。

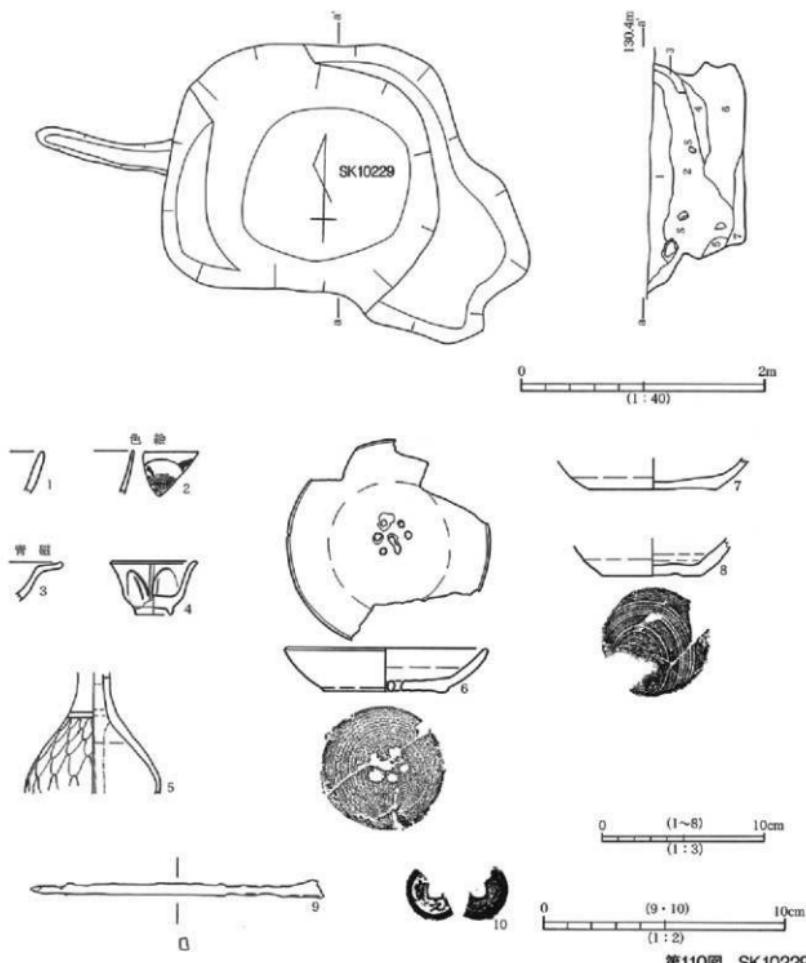
IV 検出された遺構と遺物



第108図 SK10216・SK10217・SK10218 (1)



IV 検出された遺構と遺物



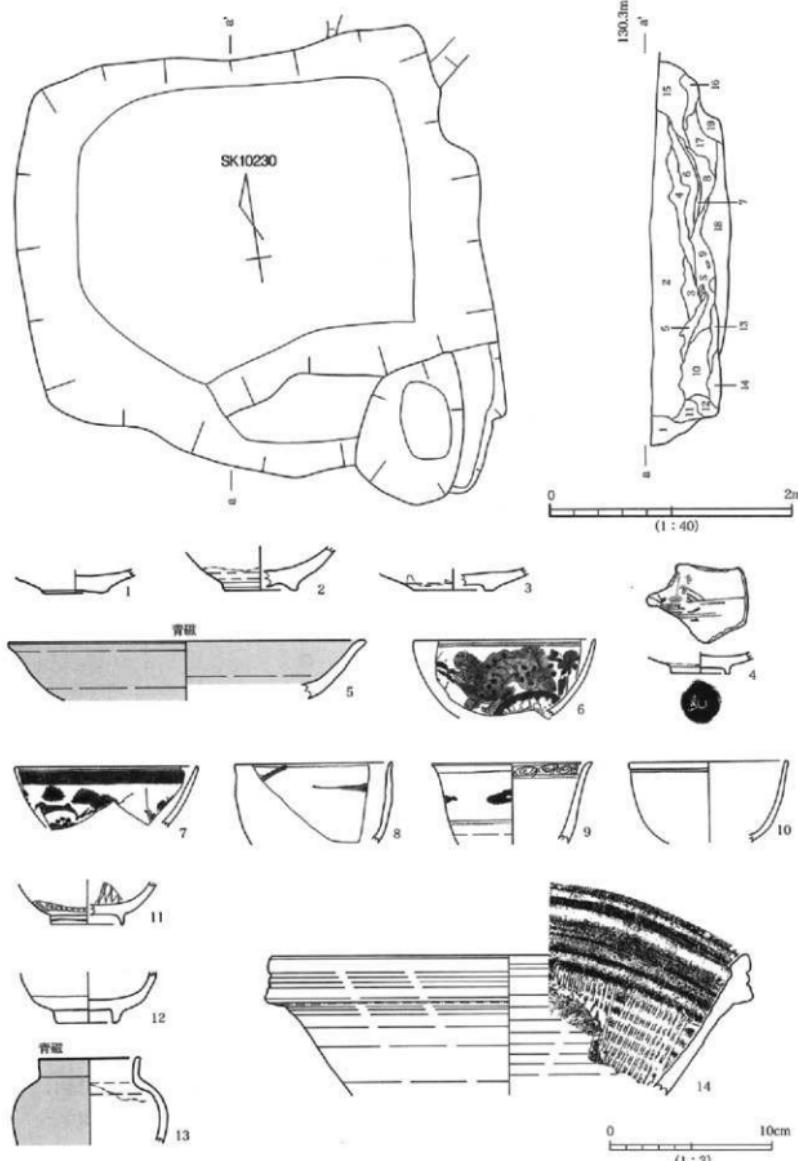
第110図 SK10229

SK10229

位 置 13-17 グリッド。

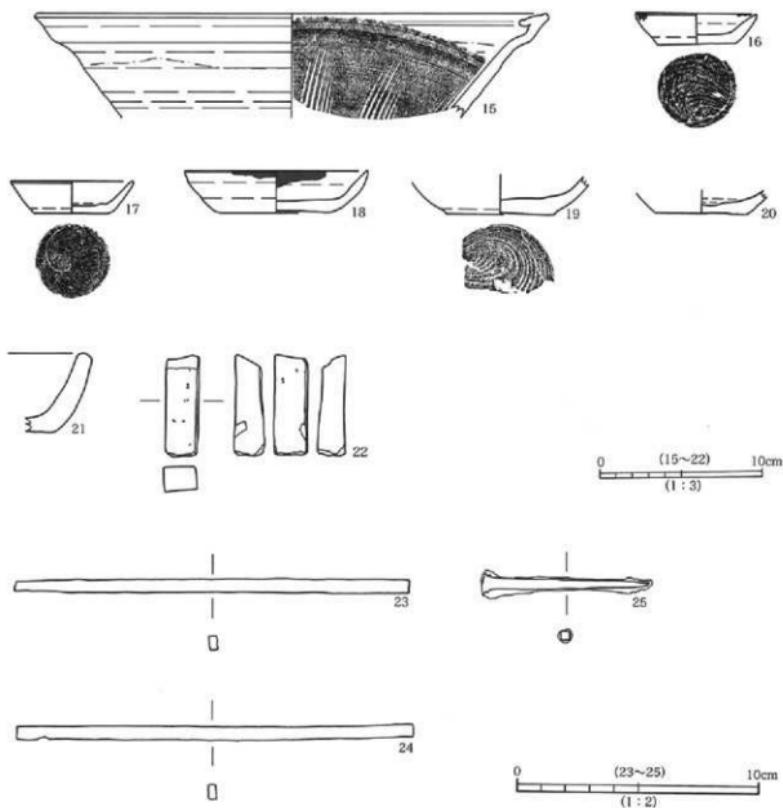
規 模 長軸 3.15 m、短軸 2.01 m、検出面からの深さ 0.77 m。

形 態 平面形態はほぼ円形を呈するが、東側に不整形な張り出しが付属する。底面は平坦だが、西側に一段高いテラスがある。壁面は急に立ち上がる。土層は地山ブロックや炭化物などの混入物が多いことから、一括埋土と思われる。



第111図 SK10230 (1)

IV 検出された遺構と遺物



第112図 SK10230 (2)

出土遺物 固化資料以外では、肥前系陶磁器やロクロかわらけ、黒瓦が出土している。

年代 出土している肥前系磁器からⅢ期である。

SK10230

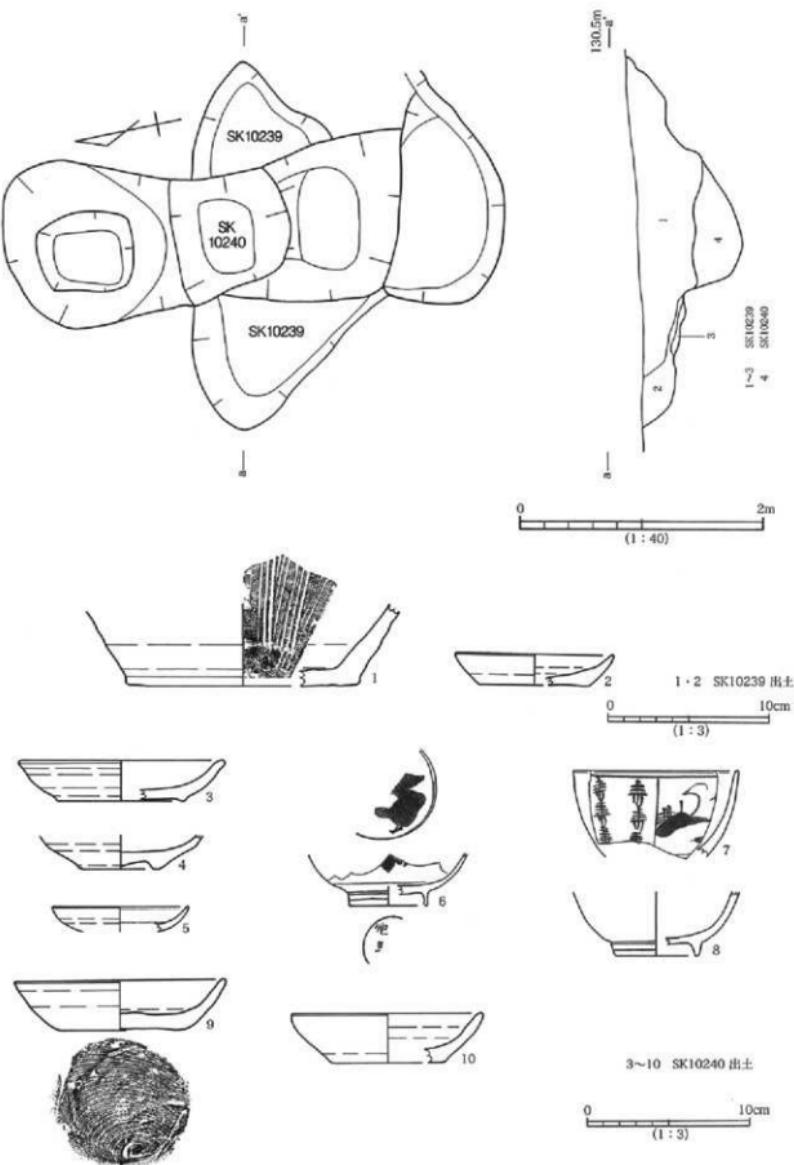
位置 13 - 17 グリッド。

規模 長軸 3.87 m、短軸 3.44 m、検出面からの深さ 0.64 m。

形態 平面形態はややくずれた方形を呈する。底面は平坦だが、南側に一段高いテラスがある。壁面は急に立ち上がる。土層は地山由来のブロックなどの混入物が多く、一括埋土と思われる。土器・陶磁器などの廃棄土坑である。

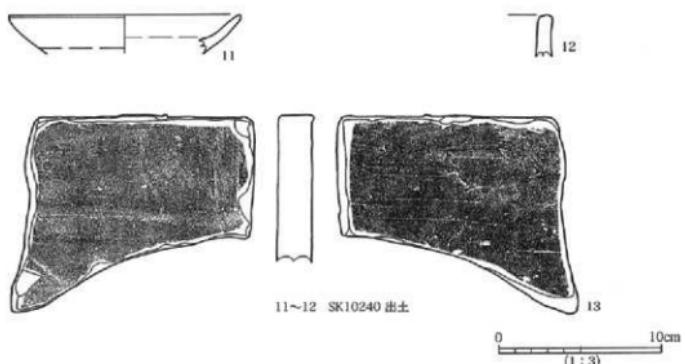
出土遺物 固化資料以外では、輸入磁器、瀬戸美濃系陶器、肥前系陶磁器が出土している。また、黒瓦が

IV 検出された遺構と遺物



第113図 SK10239・SK10240 (1)

IV 検出された遺構と遺物



第114図 SK10239・SK10240 (2)

61点出土している。

年 代 肥前系磁器は初期伊万里から11のように18世紀前半の年代が与えられる製品まで年代幅が広く、遺構の年代は判断しがたい。

SK10239・SK10240

位 置 13-15グリッド。

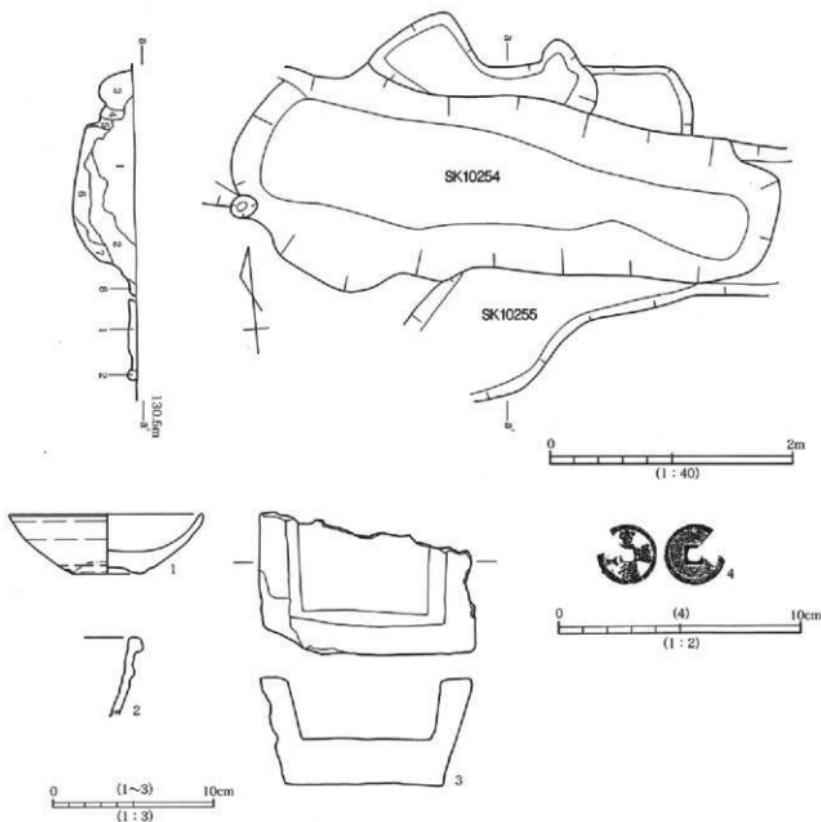
規 模 SK10239 長軸2.58m、短軸1.61m、検出面からの深さ0.55m。

SK10240 長軸3.27m、短軸0.95m、検出面からの深さ0.84m。

形 態 SK10239がSK10240を切る。平面形態は東西に長いかなりくずれた楕円形を呈する。底面はほぼ平坦で壁面はやや緩やかに立ち上がる。SK10240は平面形態が三つの土坑が南北に連なったような形態を呈する。壁面はやや緩やかに立ち上がる。

出土遺物 SK10239は図化していないが、古代の土師器片が混入しているのみである。SK10240は肥前系陶磁器、ロクロかわらけ、黒瓦が出土している。

年 代 SK10240は出土している肥前系磁器が高台断面三角形の製品が主体を占めるので、Ⅲ期である。SK10239は切り合い関係よりそれより新しい年代が与えられるが、正確な年代は不明である。



第115図 SK10254

SK10254

位 置 14 - 17 グリッド。

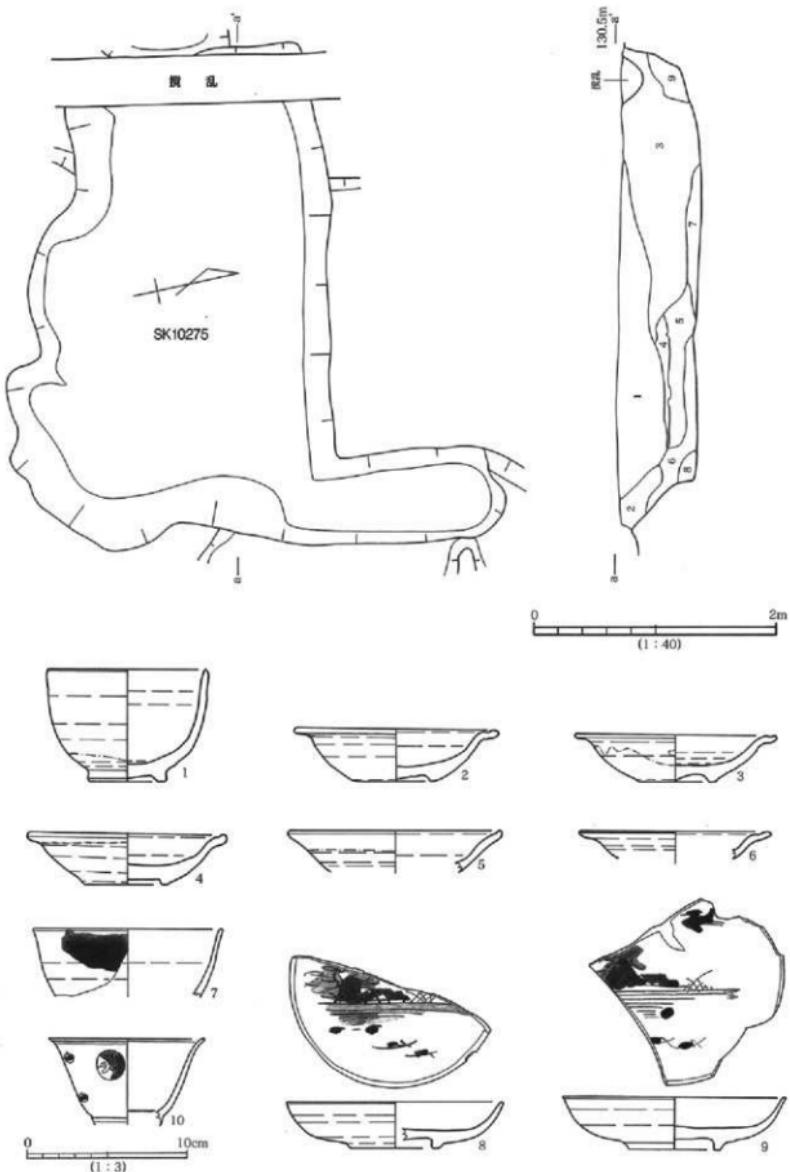
規 模 長軸 4.48 m、短軸 1.40 m、検出面からの深さ 0.50 m。

形 態 平面形態は東西に長い方形だが、北側にテラス状の張り出しが付属する。底面は平坦で、壁面はやや急に立ち上がる。土層は地山由来のブロックを含むので一括埋土と思われる。

出土遺物 図化資料以外には、輸入磁器、肥前系陶磁器、黒瓦が出土している。なお、被熱したヒトの四肢骨などが出土している。

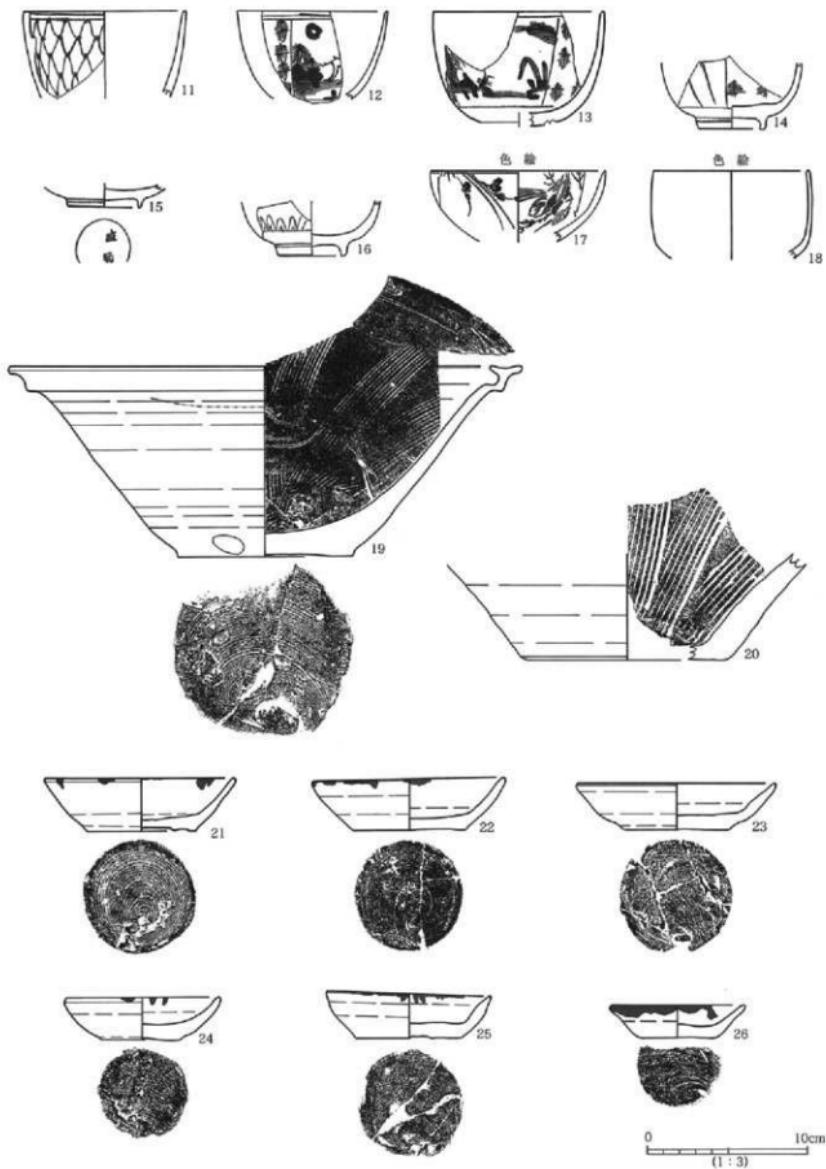
年 代 出土遺物が少なく判然としないが、図化資料以外の肥前系陶磁器からⅢ期以降である。

IV 検出された遺構と遺物



第116図 SK10275 (1)

IV 検出された遺構と遺物



第117図 SK10275 (2)